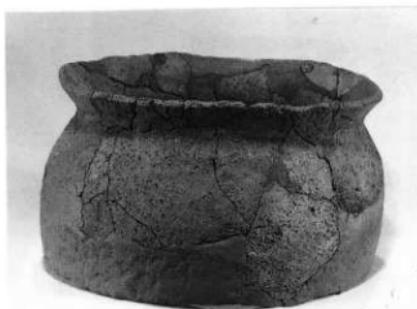
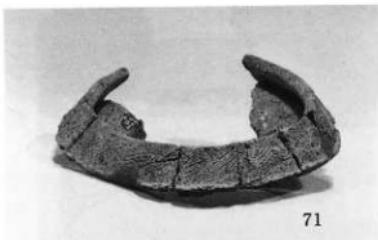




72



73



71



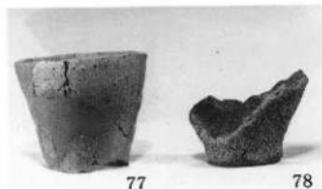
75



74



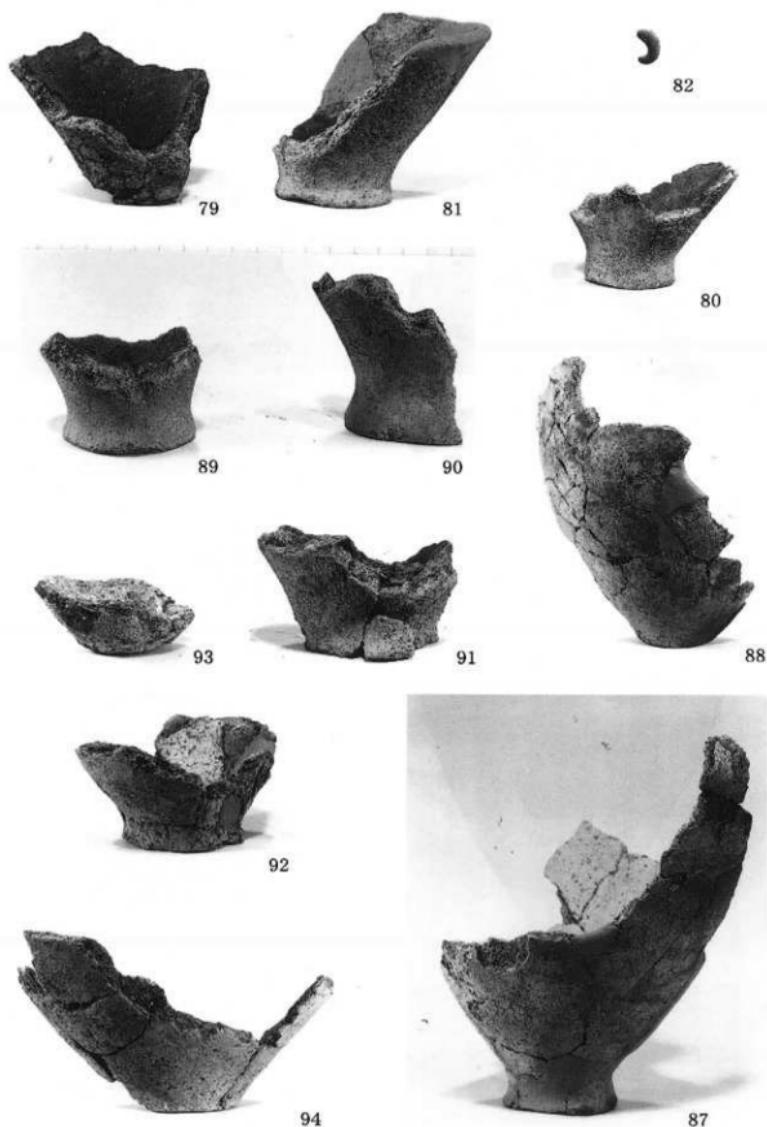
76



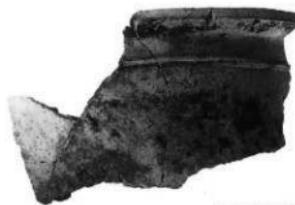
77

78

弥生時代の出土遺物



弥生時代の出土遺物



84



97



85



96



98



100



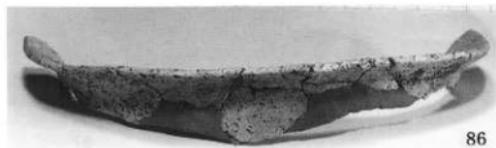
83



95

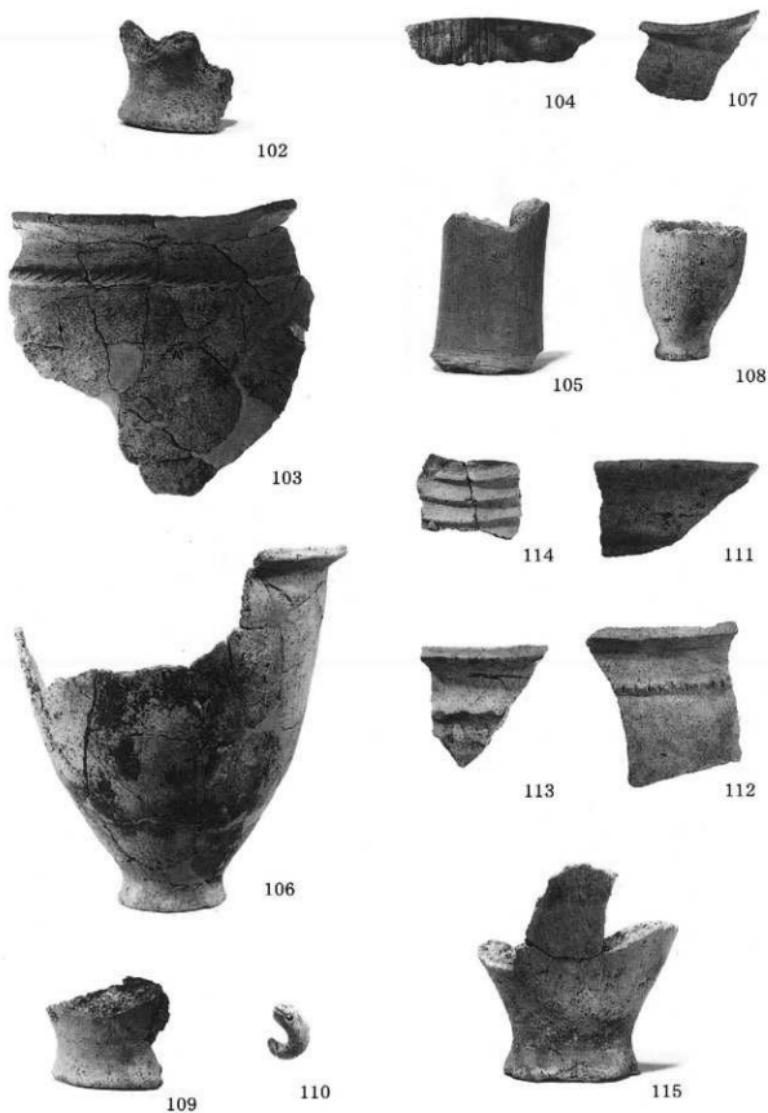


99



86

弥生時代の出土遺物

図版
31

弥生時代の出土遺物



116



117



120



118



119



121



122

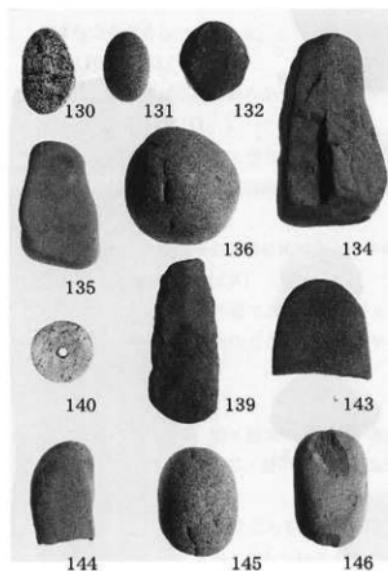
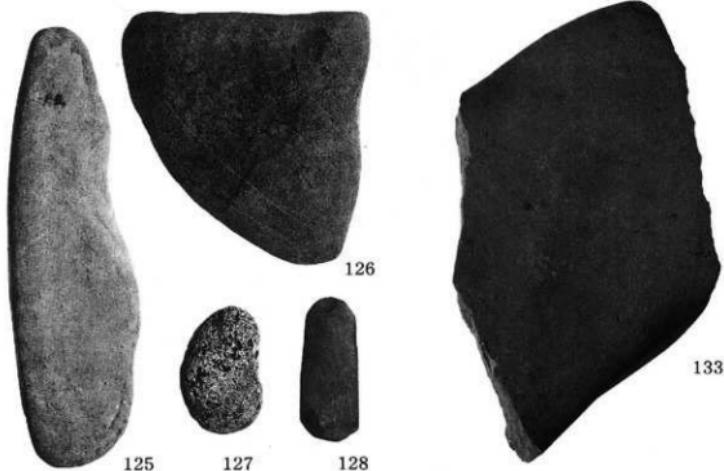


123

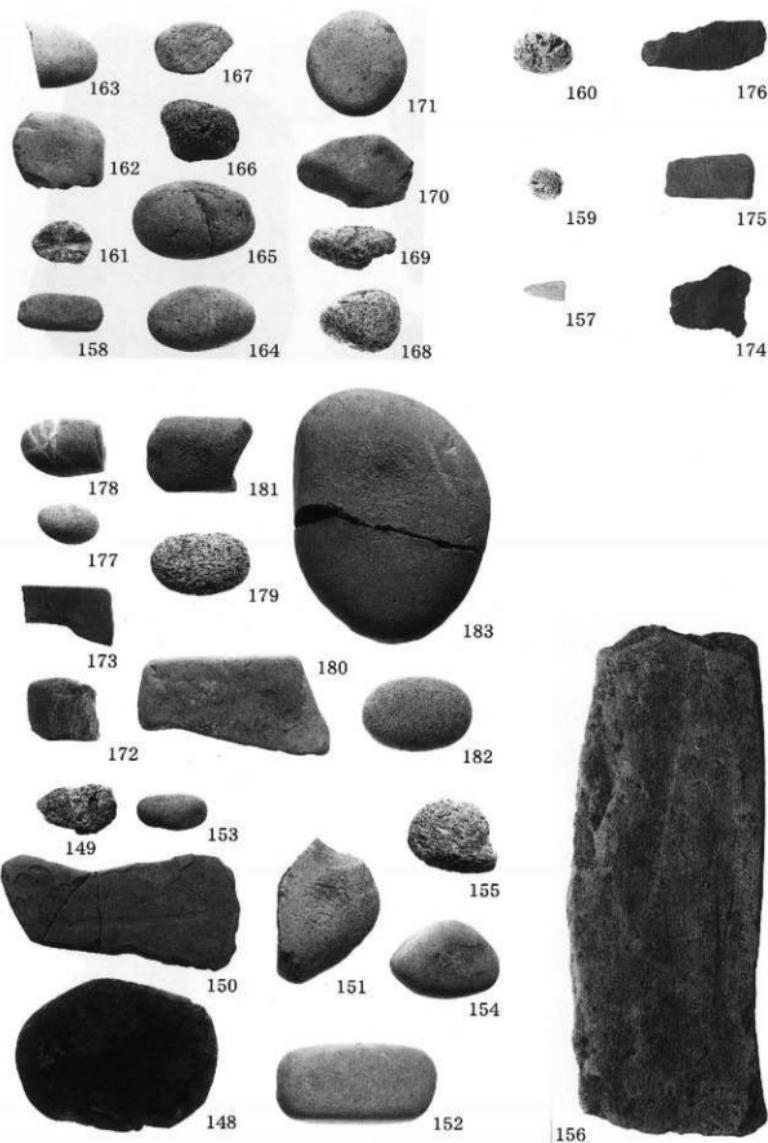


124

弥生時代の出土遺物



弥生時代の出土遺物



弥生時代の出土遺物

第IV章 ズクノ山第2遺跡A、B、C地区

第1節 調査の概要

遺跡は、鹿村野台地の北側、ズクノ山第2遺跡E地区とF地区に挟まれた地点に立地する。調査前は起伏のない平坦な畑地であったが、第Ⅲ層であるアカホヤ火山灰層上面まで掘削した際に、ズクノ山第2遺跡F地区の丘陵の影響により、西側から東側に向かって緩やかに傾斜していることが明らかとなった。

調査にあたっては、試掘の際にアカホヤ火山灰層であるⅣ層の上位で遺物が確認されていることから、Ⅱ層を取り除いた時点まで機械による掘削を行い、以下は手掘りによる調査を行った。その結果、B地区以外にはⅣ層の上位に遺物包含層の堆積は確認されず、B地区においても遺物の出土はごく僅かであった。しかし、Ⅳ層まで下がった時点で、多数のピット群を検出した。A地区は、層を取り除いてⅥ層上面まで掘り下げたが、遺物の出土は数点のみであった。また、C地区は西側の一部に深掘りを行い、遺物の有無を確認した。

第2節 層序

本調査における層序は、Ⅰ層からⅩⅡ層まで分別できた。堆積状況は、地区によってかなりのばらつきがあった。

I層(10YR黒2/1)

耕作土層。ボロボロと軟らかく崩れる。水分は殆ど含まない。

II層(7.5YR黒1.7/1)

軟質であり、水分を少し含む。色調がⅠ層に似ていることもあり、見分け辛い。A・B区で検出された柱穴の実際の検出面は、Ⅱ層とⅢ層の境界である。

III a層(10YR黒褐2/2)

軟質であるが、Ⅰ層やⅡ層に比べるとやや硬い。水分を少し含む。

III b層(10YR灰黄褐4/2)

アカホヤ火山灰直上の層である。固く締まっている。層中には1mm程度の白色粒子が僅かに混入している。他に火山ガラスやアカホヤ火山灰の細かい粒子も含むが、一般的な二次堆積層よりも締まっている。

IV a層(明黄褐6/8)

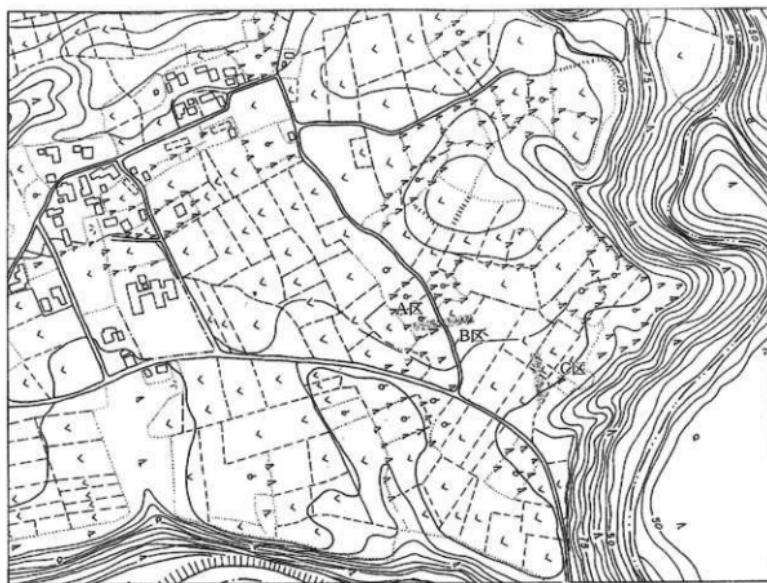
アカホヤ火山灰層。固く締まっており、水分は全く含まない。他層との混入はなく、非常にプライマリーな状態である。層中には、火山ガラスが多量に含まれる。

IV b層(明黄褐6/6)

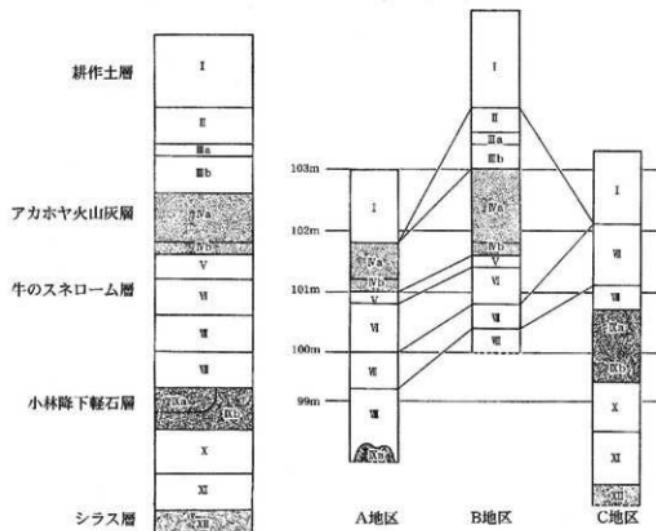
アカホヤ火山灰層の下位である。固く締まっている。水分は少し含む。層中には、オレンジ色の軟質粒子や、Ⅳa層よりも大粒の火山ガラスを多量に含む。他に、角閃石も中量含む。

V層(2.5Y黒褐3/1)

Ⅳ層とVI層の漸移層。固く締まっており、水分を少し含む。層中にはオレンジ色の軟質粒



第1図 ズクノ山第2遺跡A~C地区周辺地形図(1/1,500)



第2図 土層柱状模式図

子・大粒の火山ガラス・角閃石など、IV b層でも確認された粒子が、それぞれ少量含まれる。

VI層 (10YR暗褐3/3)

牛のスネローム層。大変固く締まっており、水分を少し含む。層中には細かな軽石が多く含まれる。

VII層 (10YR暗褐3/3)

純文時代早期のローム層。固く締まっている。水分を多く含む。色調はVI層と同じであるが、VII層で多く確認された細かな軽石は、ごく僅かしか含まれない。

IX層 (10YR褐4/4)

固く締まっているものの、VII層より軟質である。粒子が細かく、水分を多く含み、粘性に富む。層中には、IX a～b層に多く含まれるオレンジ色の軟質粒子を、僅かに認めることができる。

IX a層 (5Yオリーブ黄6/3)

小林降下軽石層。大変固く締まっており、水分を少し含む。層中には、オレンジ色の軟質粒子や細かな軽石が多量に含まれ、それらが高密度で固まった印象を受ける。色調は安定せず、所々黒味がかかっているが、炭化物の混入はない。

IX b層 (10YR灰黄褐5/2)

IX a層と同じく小林降下軽石層である。大変固く締まっており、水分を多く含む。層中に含まれる粒子はIX a層と全く同じであるが、密度は中量程度であり、粒子も細かい。

X層 (10YR黒褐3/1)

固く締まったローム層。固さや水分はIX b層に似ているが、IX層で一般的に見られたオレンジ色の軟質粒子は、この層では殆ど見られない。

X I層 (2.5Y浅黄7/3)

固く締まったローム層。X層よりも軟質である。水分を多く含み、粘性に富む。混入物は殆ど含まない。

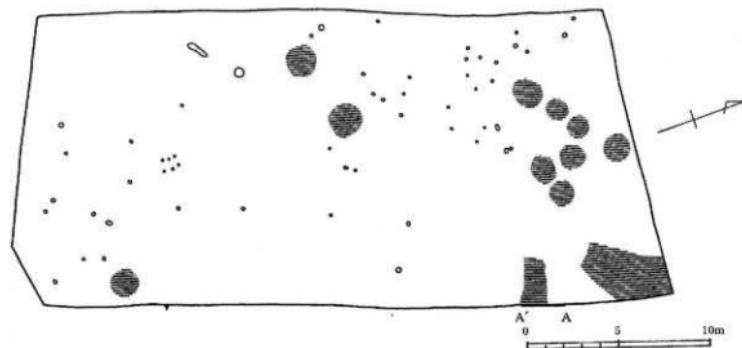
X II層 (5Y浅黄7/4)

シラス層。粒子は粗く、軟質であり、水分は全くない。層中には、小粒の軽石や火山ガラスを多量に含む。

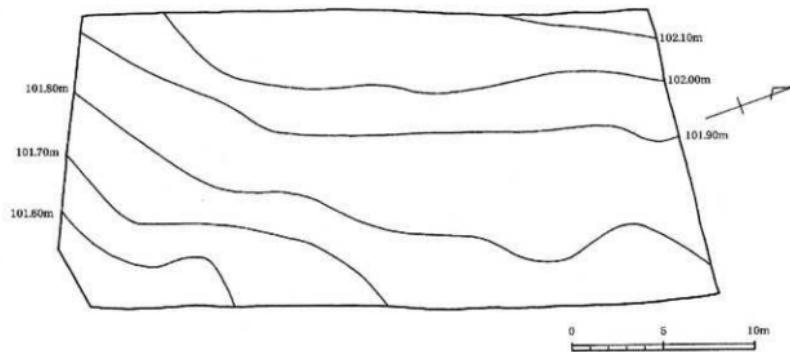
第3節 各地区的調査結果

A地区

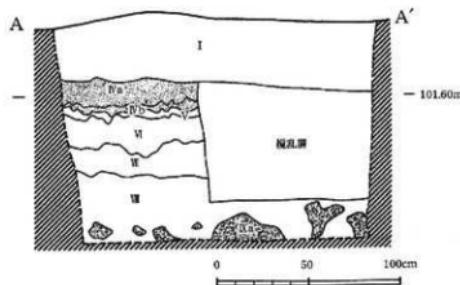
アカホヤ上面まで掘削を進めたところ、近・現代の擾乱と共にピット群を60基確認した。検出されたピット群は、総数60基に上り、主に調査区の西側に分布していた。平面形は、径10～20cmの円形を呈すものが殆どであるが、深さはIV層上面から15～50cmと、かなりのばらつきがある。覆土は、II層の黒色土層の中に、IV層のアカホヤ火山灰層のブロックが入っていた状態であった。覆土中からは、少量ながら縄文時代後期と考えられる土器片が出土したため、遺構が構築された時期は、縄文時代後期である可能性が高い。ピットの配置には、住居を想定



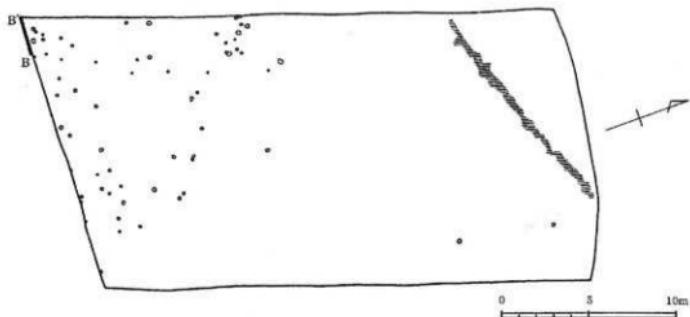
第3図 A区遺構分布図(トーン部分は近代以降のもの)



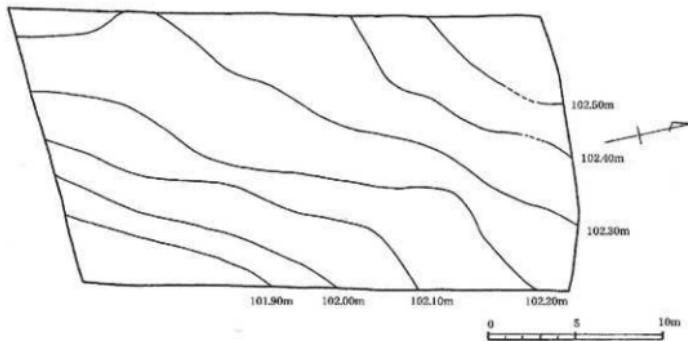
第4図 A区コンタ図(第IVa層上面)



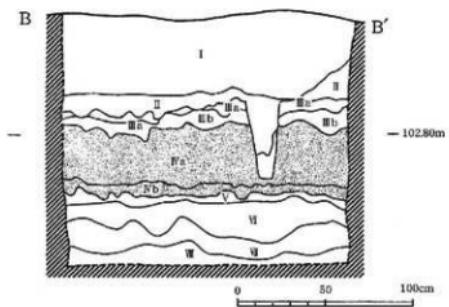
第5図 A区土層断面図



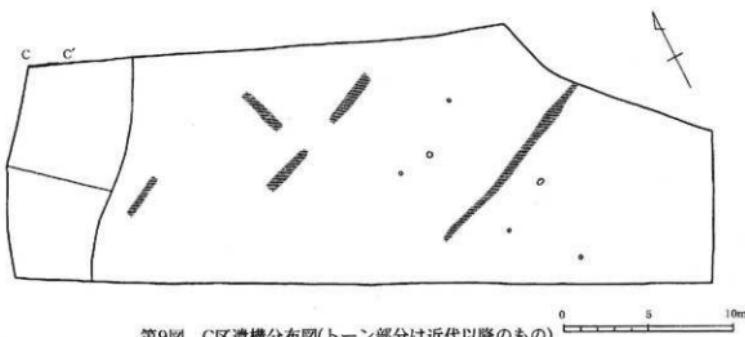
第6図 B区遺構分布図(トーン部分は近代以降のもの)



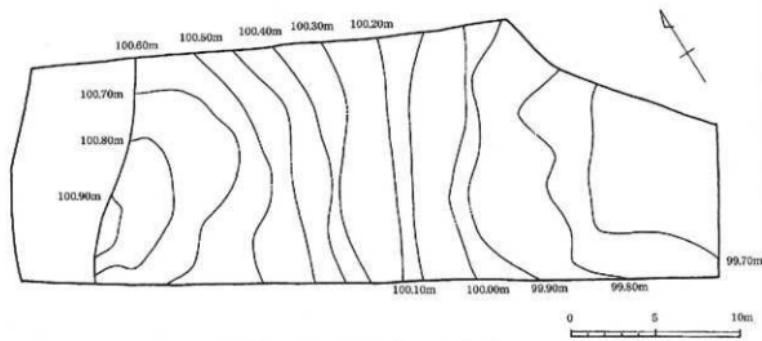
第7図 B区コンタ図(第IVa層上面)



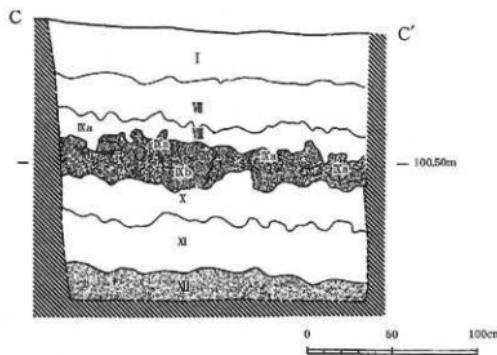
第8図 B区土層断面図



第9図 C区造構分布図(トーン部分は近代以降のもの)



第10図 C区コンタ図(第IVa層上面)



第11図 C区土層断面図

できるような、規則性やまとまりは認められなかった。

調査は、その後Ⅲ層の除去を行い、Ⅳ層の調査を行ったところ、上層において、輪郭のはつきりしない、円形～断面形を呈す黒いシミを確認した。半裁すると、断面はボウル状を呈していた。古環境研究所に分析を依頼したところ、スキの株跡との結論であった。そのままⅣ層の調査を行ったが、遺物の出土は数点に留まった。

B地区

I層を取り除き、Ⅳ層まで手掘りによる調査を行ったところ、数点の遺物が出土した。いずれも小片であり、具体的な時期は不明であるが、うち1点が岩崎式土器であったことから、縄文時代後期と考えられる。その後、Ⅳ層の上面で、A地区同様ピット群を検出した。総数は69基であり、南側に著しく集中した分布状況であった。平面形や深さ、覆土等の特徴は、A地区のそれと全く同じである。また、断面上で検出されたピットの観察から、掘り込みの上面はⅡ層下面であることが判明した。なお、北側からは浅い溝も検出されたが、覆土の観察から、近・現代のものであることが明らかとなった。

C地区

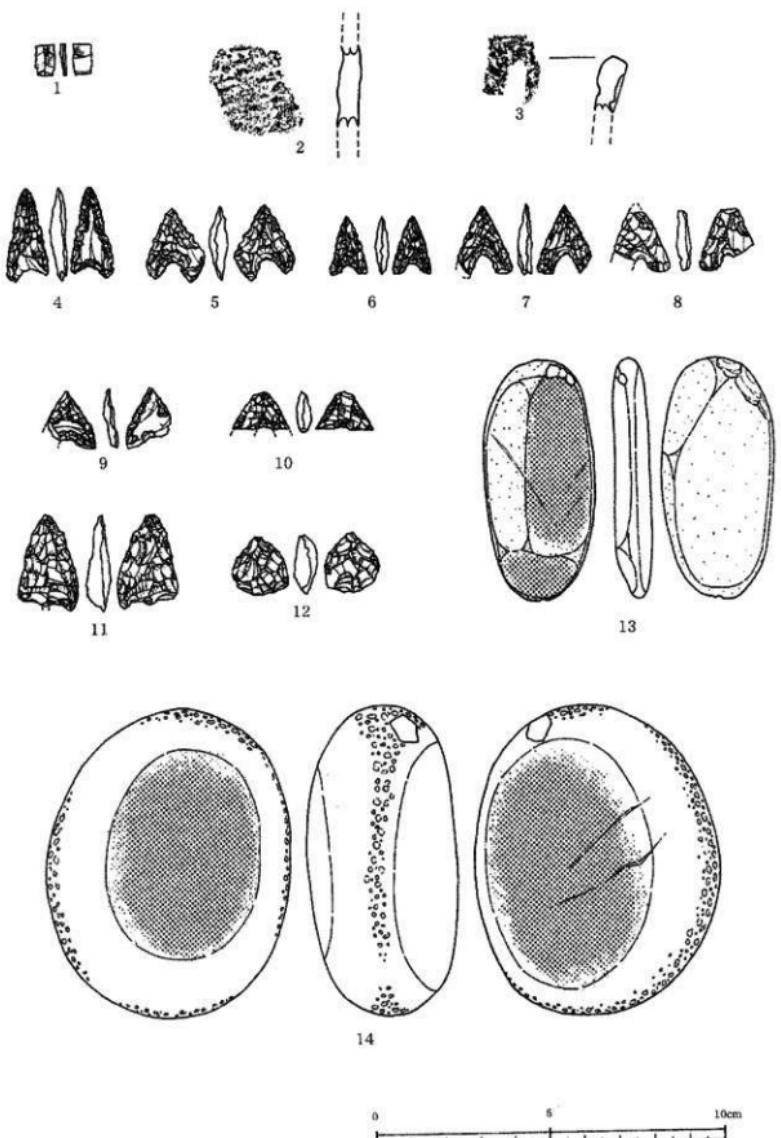
I層を取り除いたところ、既にⅣ層は残されておらず、Ⅶ層が広がっていた。西端部のみ手掘りによる調査を行ったが、遺物は全く確認できなかった。Ⅸ層を掘りぬき、X層を掘り下げたところ、黒曜石製の細石刃が1点出土した。なお、東側からは溝跡も検出されたが、これは近・現代のものであった。

第4節 出土遺物(第12図)

(1)は、桶状の剥離を連続的に行う石核から剥離された、黒曜石製の細石刃である。上部、下部共に欠損しているが、これは調査時における欠損とは異なる。C地区のX層より出土した。(2)は、口縁部付近にあたり、棒状の工具による凹点が施文されていることから、縄文時代中期末～後期初頭の岩崎式土器と考えられる。(3)は、斜位の条痕が内外面に行われる。時期は不明である。(4～12)は石鏃である。うち(4～10)は完成品で、基部には明確な抉りが設けられる。(11・12)は、両面に調製が行われているものの、形状が不明瞭であり、未製品と考えられる。(13)は、薄い円礫の表面に研磨痕が残され、磨石の一種であると考えられる。(14)は磨石である。両面に研磨痕が、周縁には敲打痕が認められる。

第5節 小結

この調査では、試掘によりアカホヤ上層で縄文時代後期の生活跡が出土すると思われたが、包含層はB地区の一部を除いて既に削平されていたために、遺物は確認できなかった。しかし、A・B地区で検出されたピット群は、Ⅱ層より掘り込まれていることや、覆土内の出土土器より、縄文時代後期である可能性が高いといえる。ピットの配置にまとまりは認められなかった



第12図 出土遺物実測図

が、恐らく掘立柱建物、もしくは平地式住居に伴うと思われる。

A地区の一部では、縄文時代早期の遺物包含層であるVI層も調査を行ったが、遺物は極めて少量であった。当時この地点は東西の丘陵の間にあたるため、集落を営むには不向きな立地条件であったと考えられる。なお、C地区からは黒曜石製の細石刃が出土している。出土層位はX層であり、IX層の小林降下輕石層の下層にあたる。近隣のズクノ山第2遺跡F地区のe区からは、AT上位より石器群が確認されたほか、層位不明ながらチャート製の細石刃も出土した。この出土例は、鹿村野台地の旧石器時代を知る上で参考となるであろう。



A区 調査区近景(西から)



B区 調査区近景(北から)



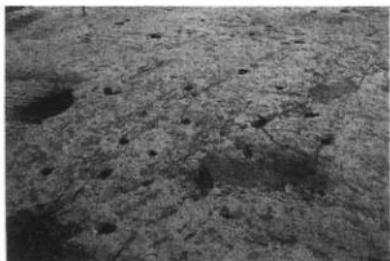
C区 調査区近景(西から)



C区 溝状遺構検出状況(北から)



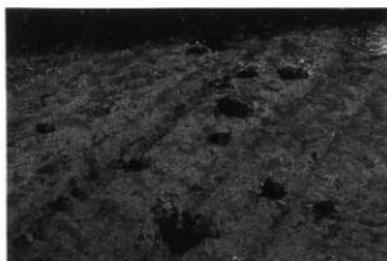
B区 溝状遺構検出状況(北から)



A区 ピット群検出状況(南東から)



A区 ピット群検出状況(北東から)



A区 ピット群検出状況(西から)



A区 東壁土層断面(西から)



B区 南壁土層断面(北から)



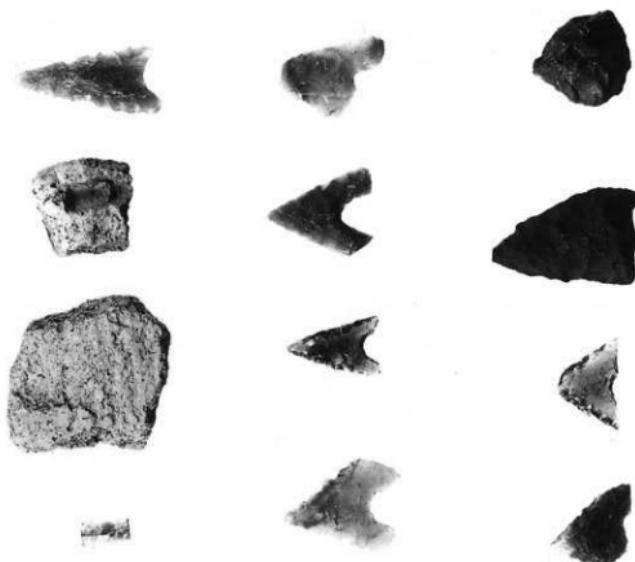
C区 北壁土層断面(南から)



作業風景



出土遺物(磨石)



出土遺物(土器・石器)

第V章 ズクノ山第2遺跡E地区

第1節 調査の概要

遺跡は鹿村野台地の北東端部にあたり、南北に走る県道花見田野線が、黒北に向かって大きくカーブする地点の東側に位置する。調査前は起伏のない平坦な畠地であったが、耕作土を除去した段階で、調査区の西側が全体的に大きく落ち込んでいるほか、遺物集中区を南北に横切る緩やかな落ち込みも認められた。一方、調査区の中央付近からは、開墾の際に削平された微高地も確認された。

層序は後述するが、本遺跡の調査にあたっては、第II層上面と第III層上面の二度に分けて表土の掘削を行ったところ、調査区西側は第I層や第III層が分厚く堆積しており、開発事業による遺物包含層への影響は少ないと判断できたため、東側に集中して、手掘りによる調査を行うことにした。その結果、縄文時代早期に属する土器や石器等の遺物、集石造構や土坑などの遺構が確認された。このうち、調査区北側において列状に並んで確認された土坑は、III層上面で検出されたが、集石造構の検出面は、いずれもVI層下面付近であった。遺物は、主にIV層からV層にかけて確認された。出土土器の大半は、早期前葉と思われる貝殻条痕が施された土器であり、検出された集石造構の多くも、この土器が製作された時期に構築されたものと考えられる。

第2節 層序

調査区内の基本層序は、I層からX層に分別できた。堆積状況は第2図の通りである。

I層 (2.5Y 黒褐色 3/2)

耕作土層である。軟質であり、粘性は全くない。層中にはA h ブロックが多量、ガラス質粒子が少量、白色粒子が微量含まれる。遺物としては、縄文早期の遺物のほかに、近代以降の陶磁器や、弥生時代の磨製石鐵に使用される結晶片岩の破片も採集されている。

II層 (10YR 黄橙 7/8)

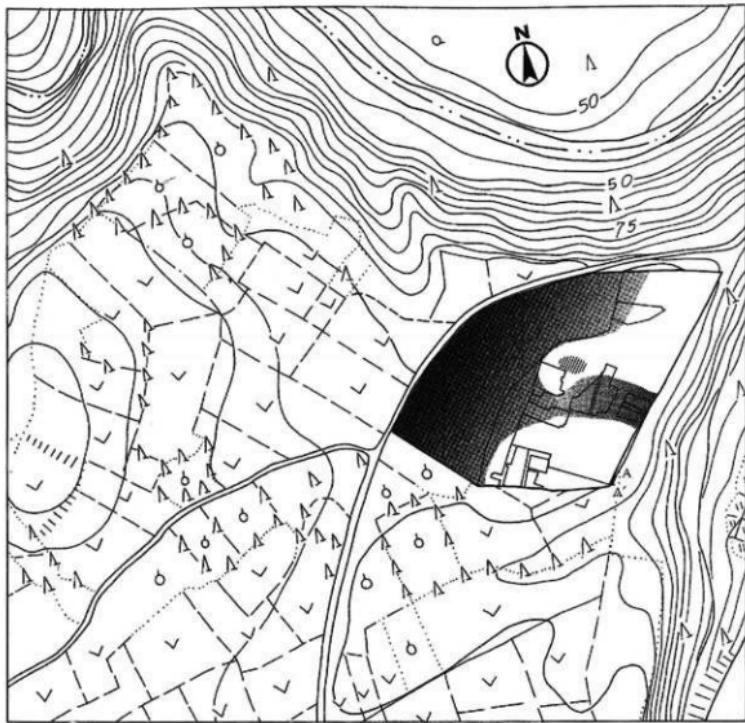
アカホヤ火山灰層である。軟質でサラサラしており、粘性は全くない。層中にはガラス質粒子を多量、黒色粒子を中量、白色粒子を少量含む。上部が削平されているため、二次堆積層は確認されなかった。

III層 (2.5Y 暗灰黄 4/2)

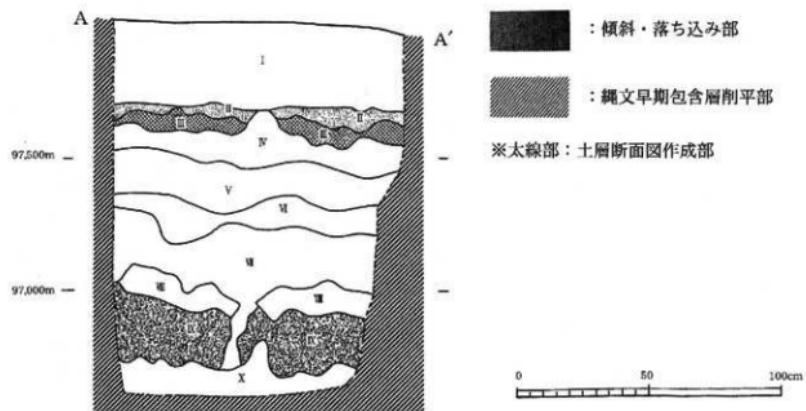
牛のスネローム層である。極めて固く締まっており、粘性は僅かにある。層中には、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を多量、ガラス質粒子を多量含む。南西側に行くほど堆積が厚く、南西端部の断面では約20cmに達していた。

IV層 (10YR 黄褐 5/6)

早期ローム層である。固く締まっており、粘性がある。層中には、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を中量、ガラス質粒子を多量、黒色粒子を微量含む。また、ややまだら状



第1図 ズクノ第2遺跡E地区周辺地形図(S=1/1000)



第2図 ズクノ山第2遺跡E地区土層断面図

の斑紋が見られる。これら混入物の量から、下層との線引きが可能である。縄文時代遺物包含層は、この層からⅦ層の間である。

Ⅴ層 (10YR黄褐色5/6)

Ⅳ層と同じく早期ローム層である。固く締まっており、粘性がある。層中には、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を中量含むほか、炭も微量混入する。Ⅵ層よりもまだら状の斑紋が強くなる傾向にある。

Ⅵ層 (10YRにぶい黄褐色5/4)

Ⅳ・Ⅴ層よりもやや軟質ながら、固く締まった層である。粘性は僅かにある。層中には、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量含み、炭も微量混入する。Ⅳ層から続く混入物は、いずれも少量のみに留まるほか、まだら状の斑紋も一旦消える。遺物の出土もこの層が最も多いため、Ⅳ層の下面からⅦ層の上面が、縄文時代早期前業の生活面であったと考えられる。

Ⅶ層 (10YR褐色4/4)

固く締まっており、粘性がある。層中には、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状の斑紋が強く出ており、色調は不安定である。なお、第2図ではこの層が一部下層に入り込んでいるが、これは水穴である。

Ⅷ層 (10YR褐色4/4=平均)

Ⅶ層とⅨ層の漸移的な層である。まだら状の斑紋が強く、極めて固く締まった部分と、それほど固くない部分から構成される粘性は一様にある。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を微量含む。

Ⅹ層 (10YRにぶい黄褐色5/4)

小林降下軽石層である。層は極めて固く締まっており、粘性は少しある。角閃石の粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を多量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。Ⅹ層の粒子も少量ながら混入する。小林降下軽石層が、これほど分厚く堆積するのは、この調査区の特徴と言える。

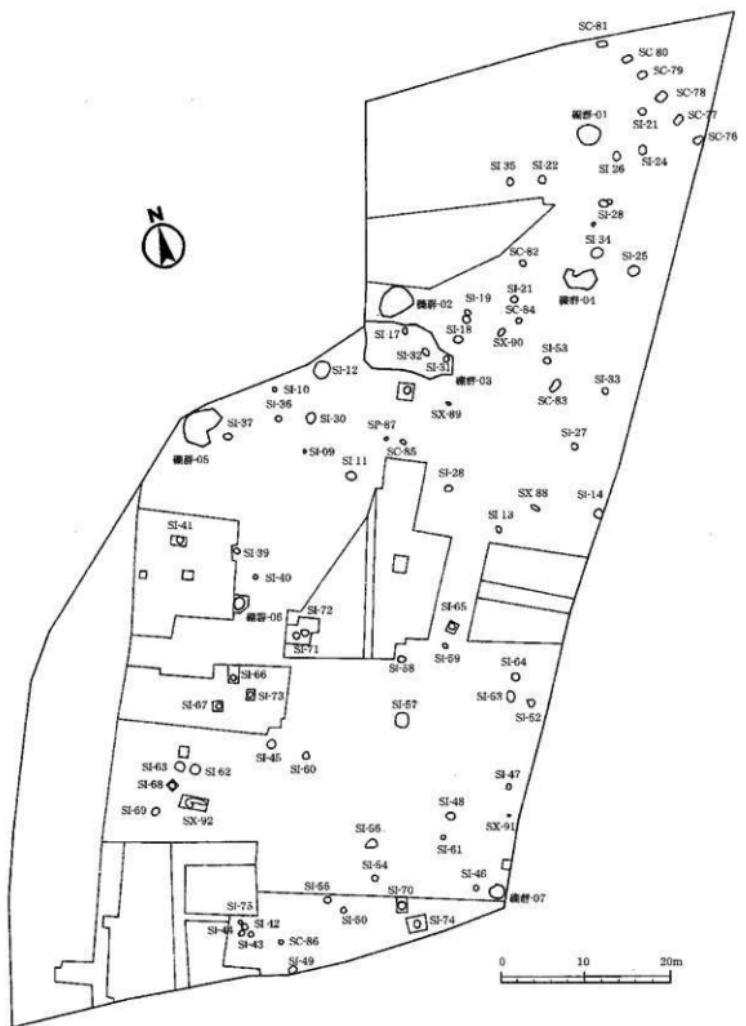
Ⅺ層 (10YR黄褐色5/6)

極めて固く、粘性に富む。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を多量、黒色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。小林降下軽石層を挟んで再びローム層に戻るが、固さや粘性には大きな開きがある。この層より下位は旧石器時代に堆積した層である、トレンチから遺物は確認されなかった。

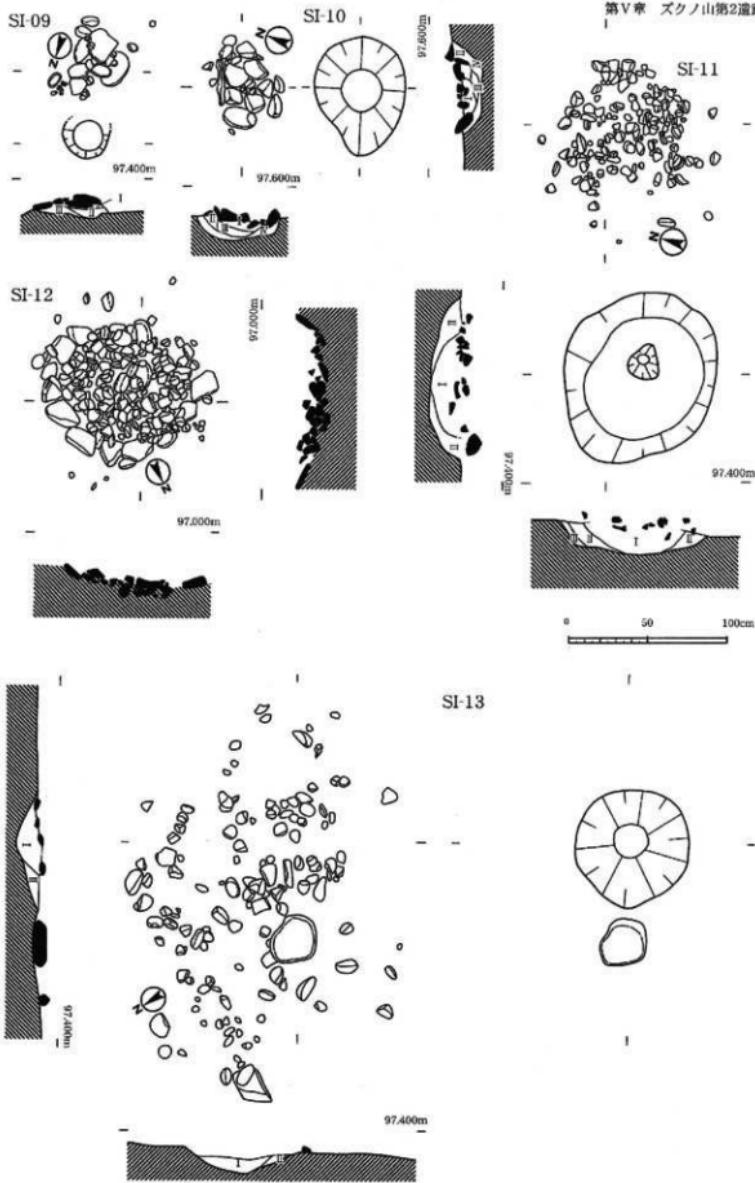
第3節 検出遺構

I・礫群

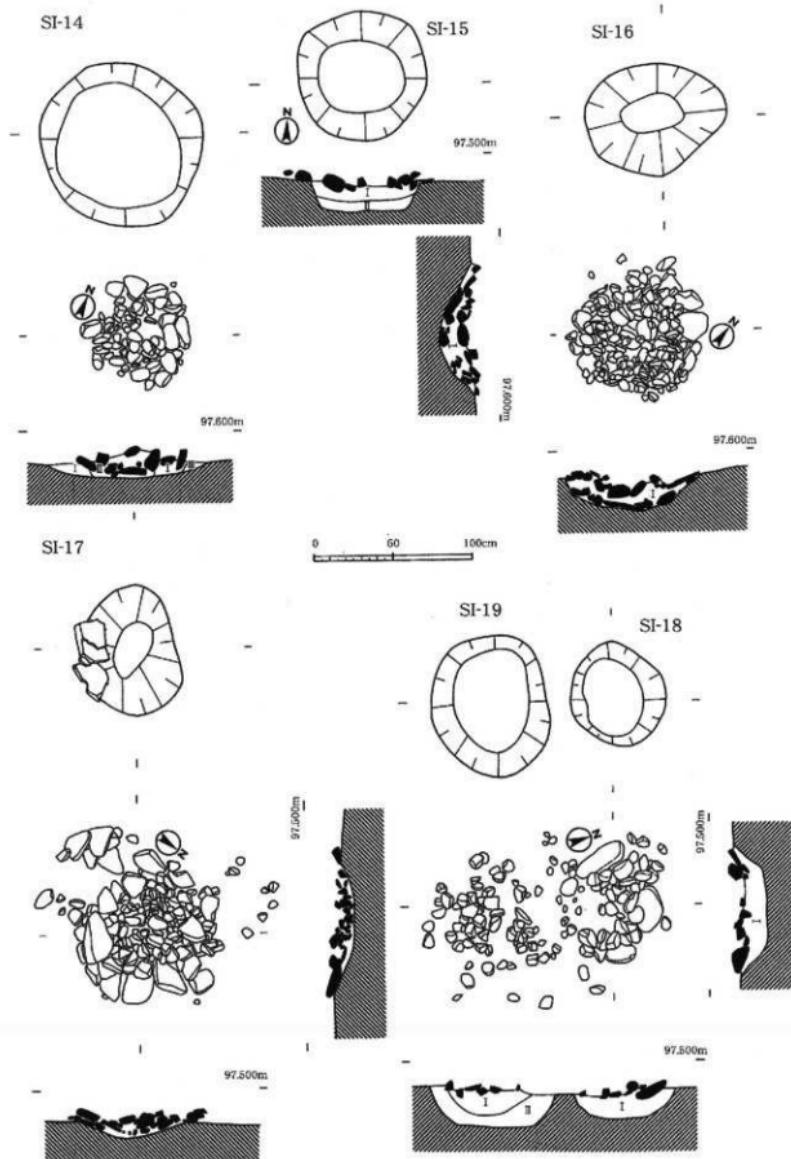
8基確認された。これらの分布には、次のような傾向が見られる。礫群2・3・5は北西部の傾斜に沿っており、礫群1・4・7は平坦地上に、また礫群6は調査区を横切る緩やかな落ち込みの最も深い地点で検出された。大きさは、約50m²である礫群3以外はいずれも小ぶりで



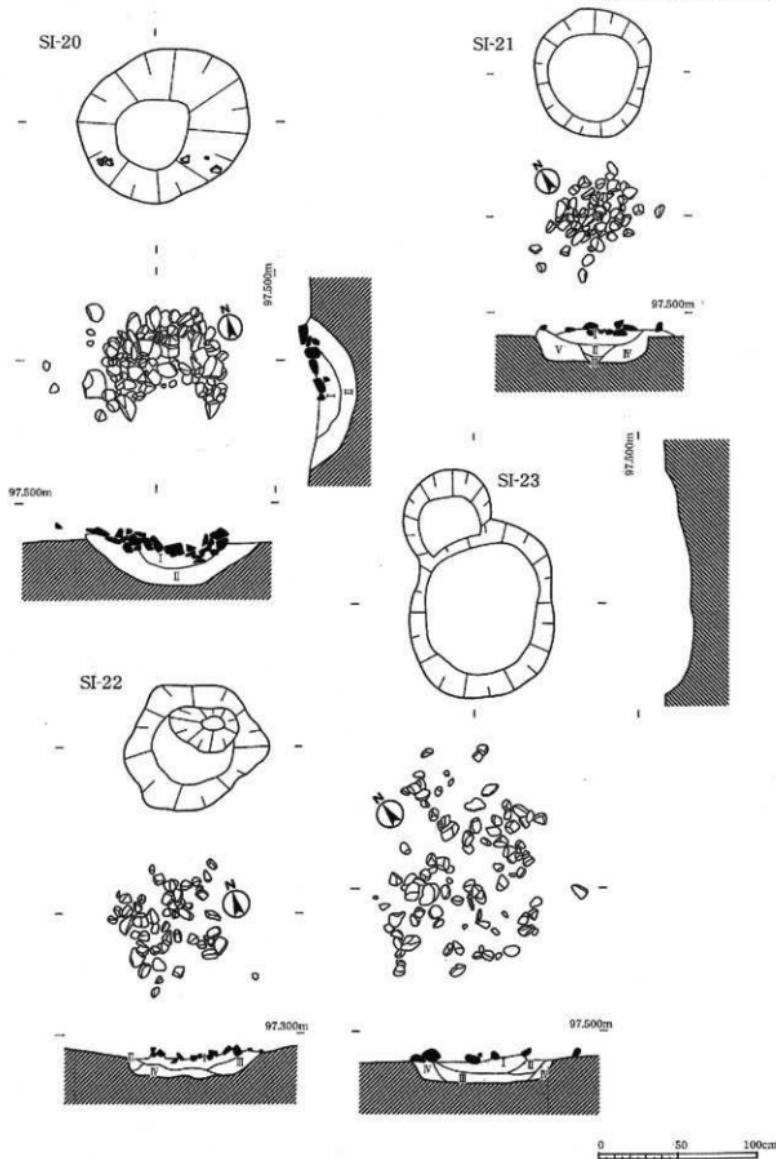
第3図 遺構配置図(1/600)



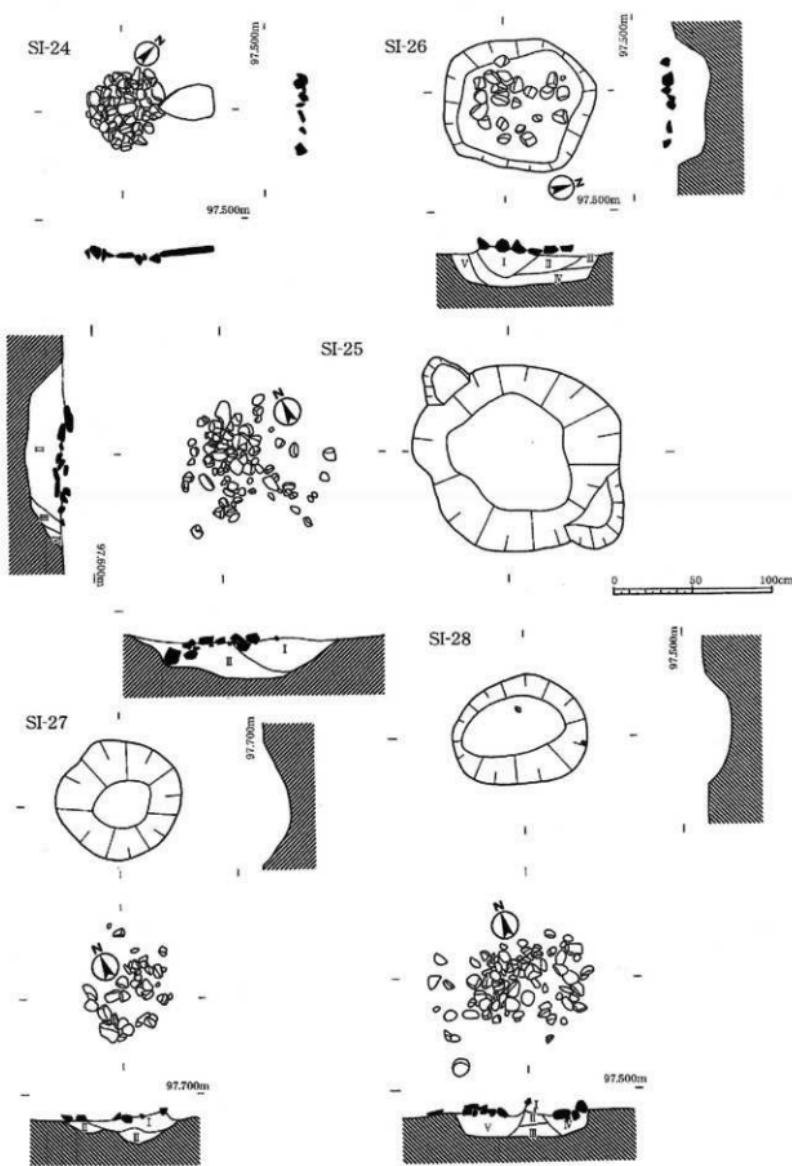
第4図 集石造構実測図(1)



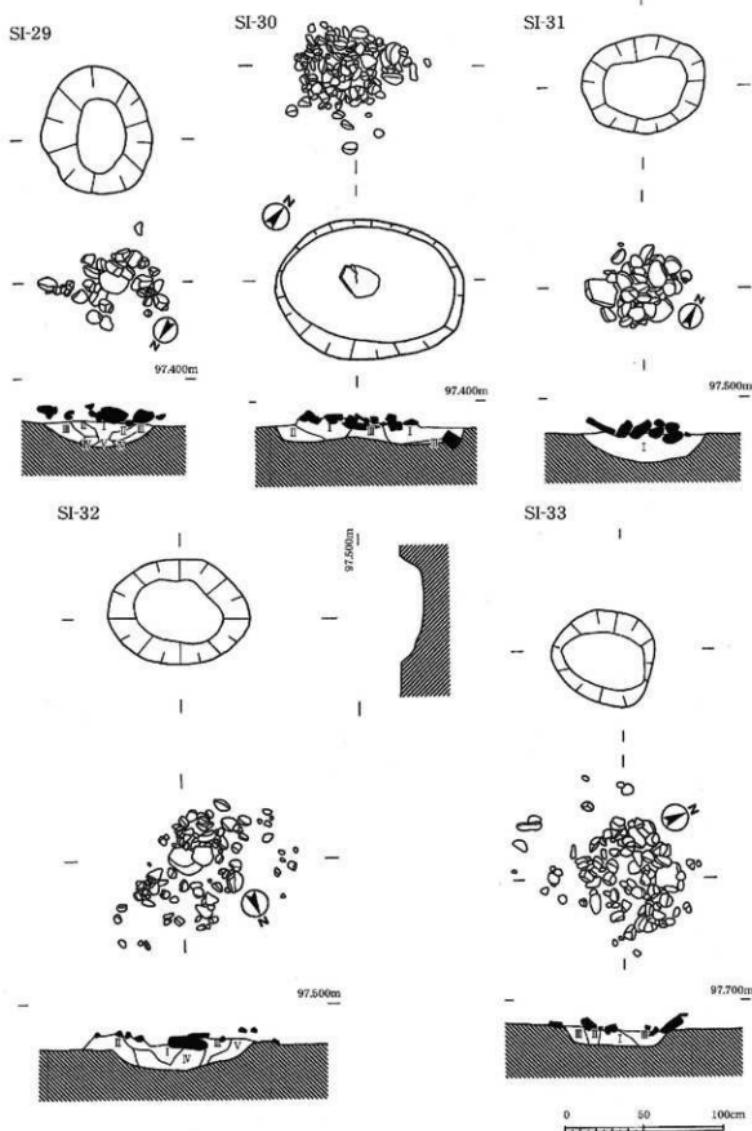
第5図 集石造構実測図(2)



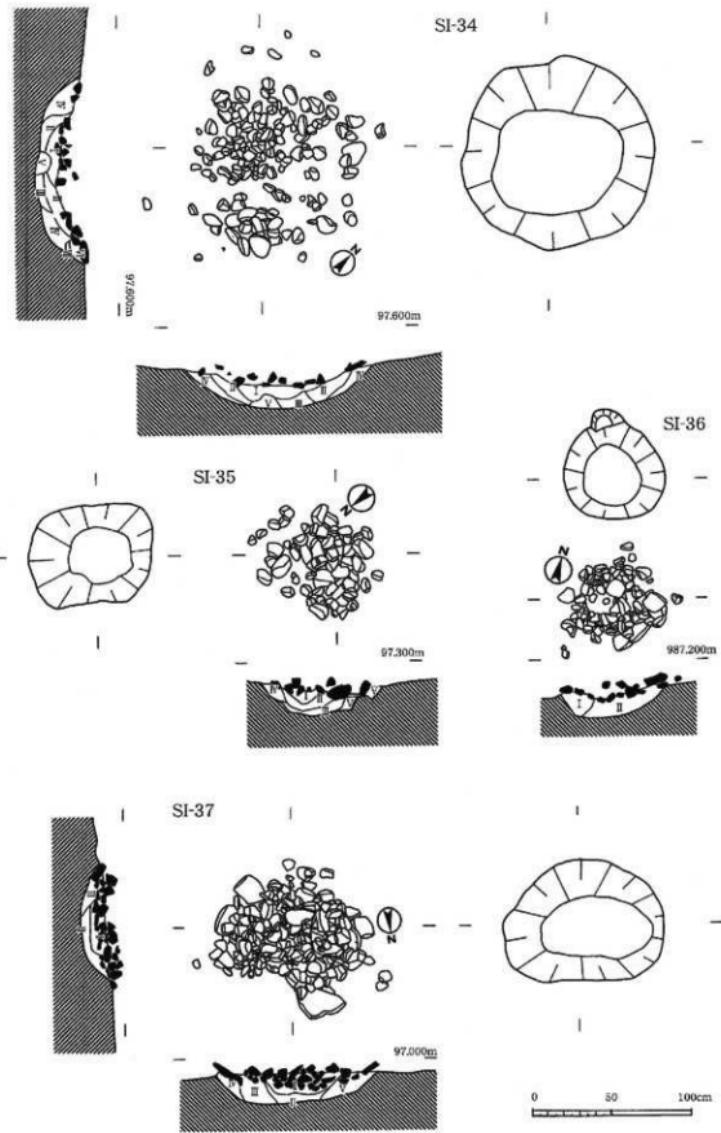
第6図 集石構造実測図(3)



第7図 集石遺構実測図(4)

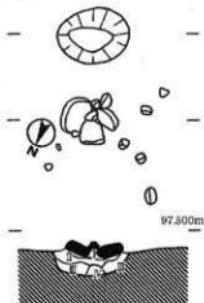


第8図 集石遺構実測図(5)

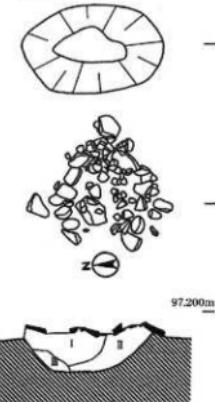


第9図 集石構造実測図(6)

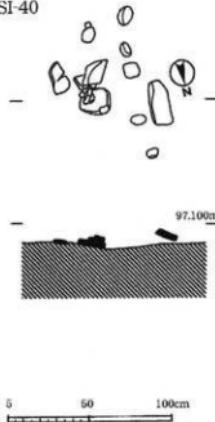
SI-38



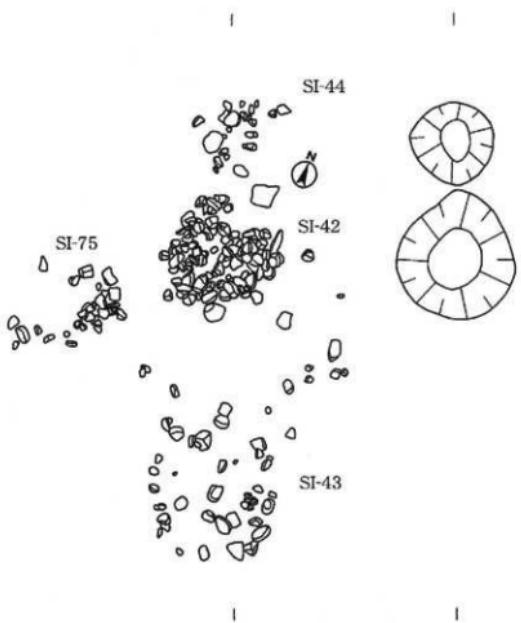
SI-39



SI-40

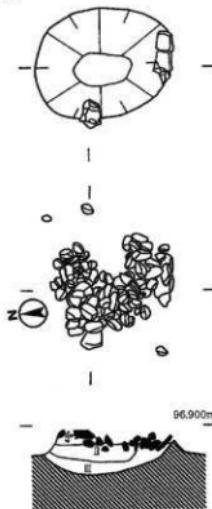


5 50 100cm

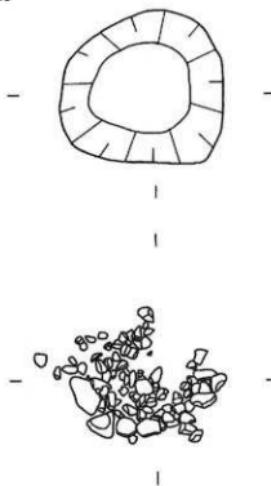


第10図 集石遺構実測図(7)

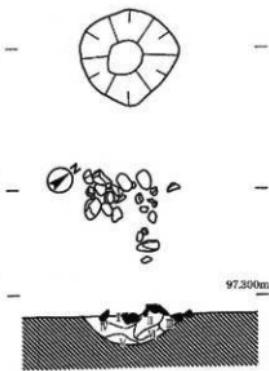
SI-41



SI-45



SI-46

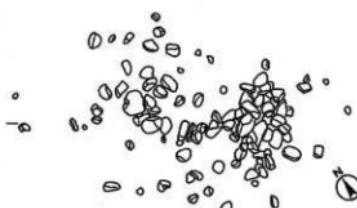
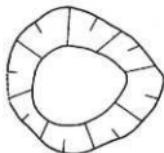


SI-47

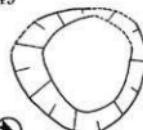


第11図 集石遺構実測図(8)

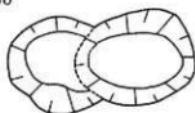
SI-48



SI-49



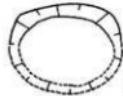
SI-50



0 50 100cm



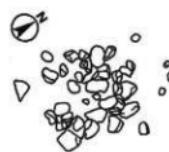
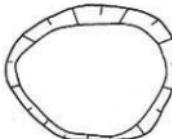
SI-52



97.500m



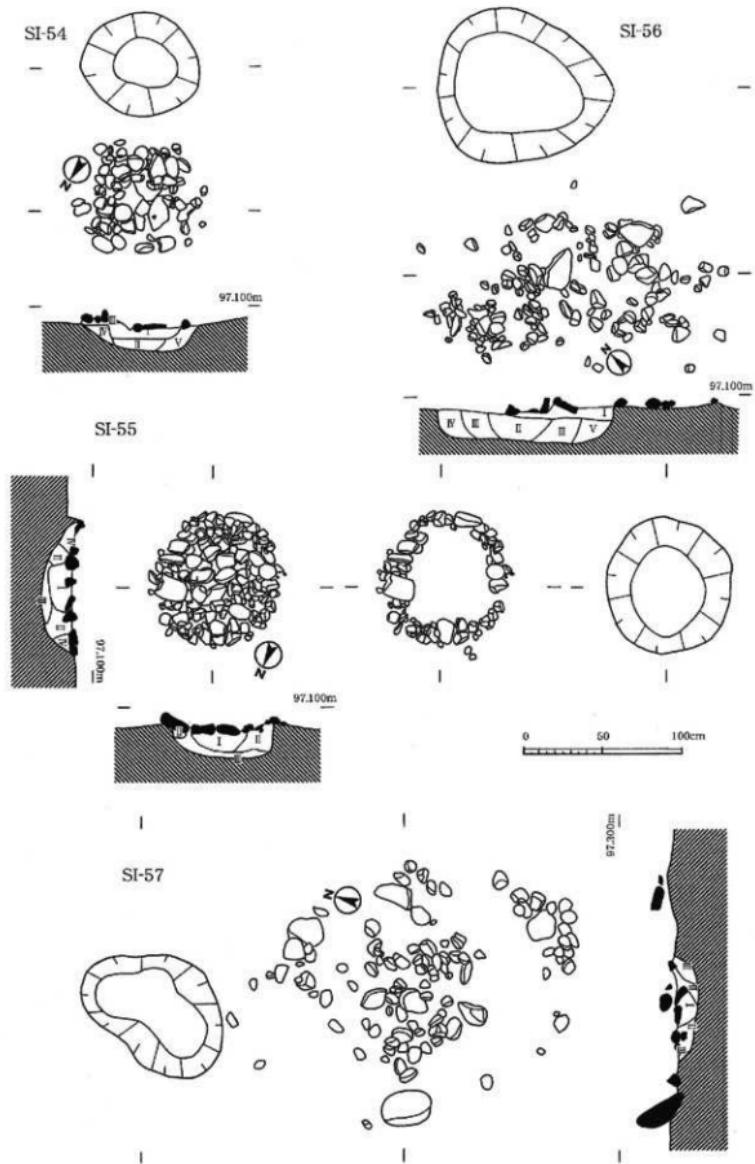
SI-53



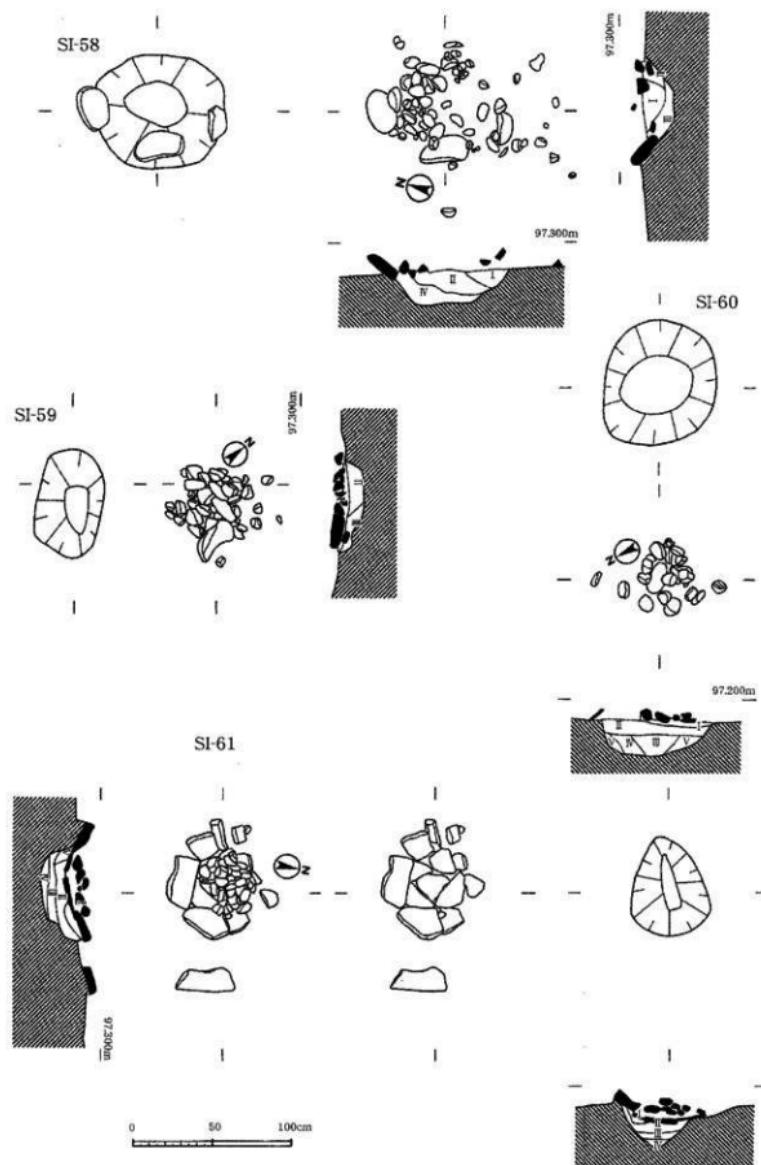
97.600m



第12図 集石遺構実測図(9)

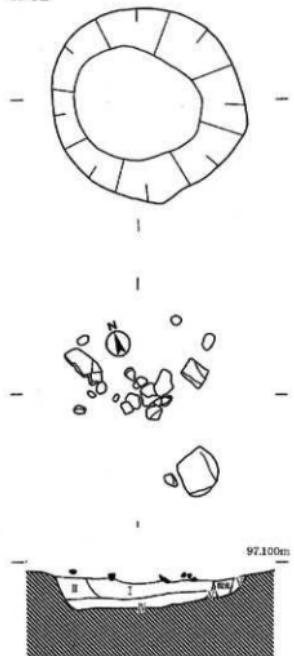


第13図 集石遺構実測図(10)

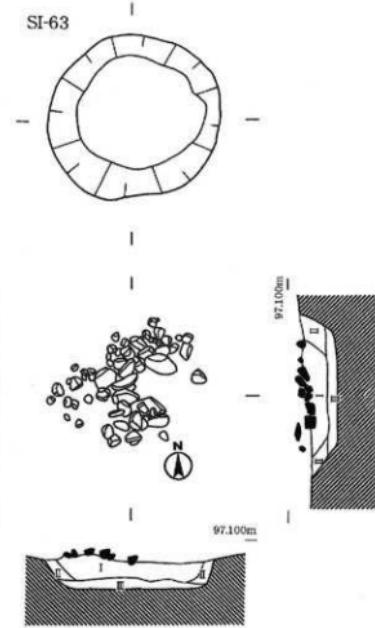


第14図 集石構造実測図(11)

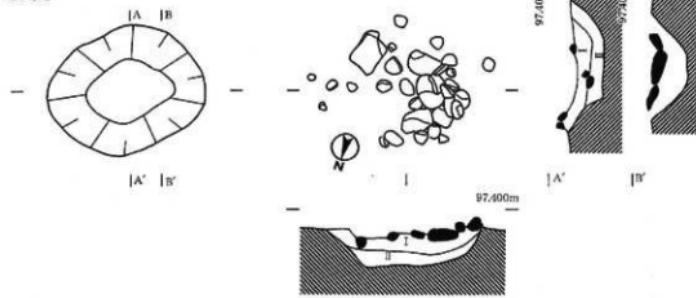
SI-62



SI-63



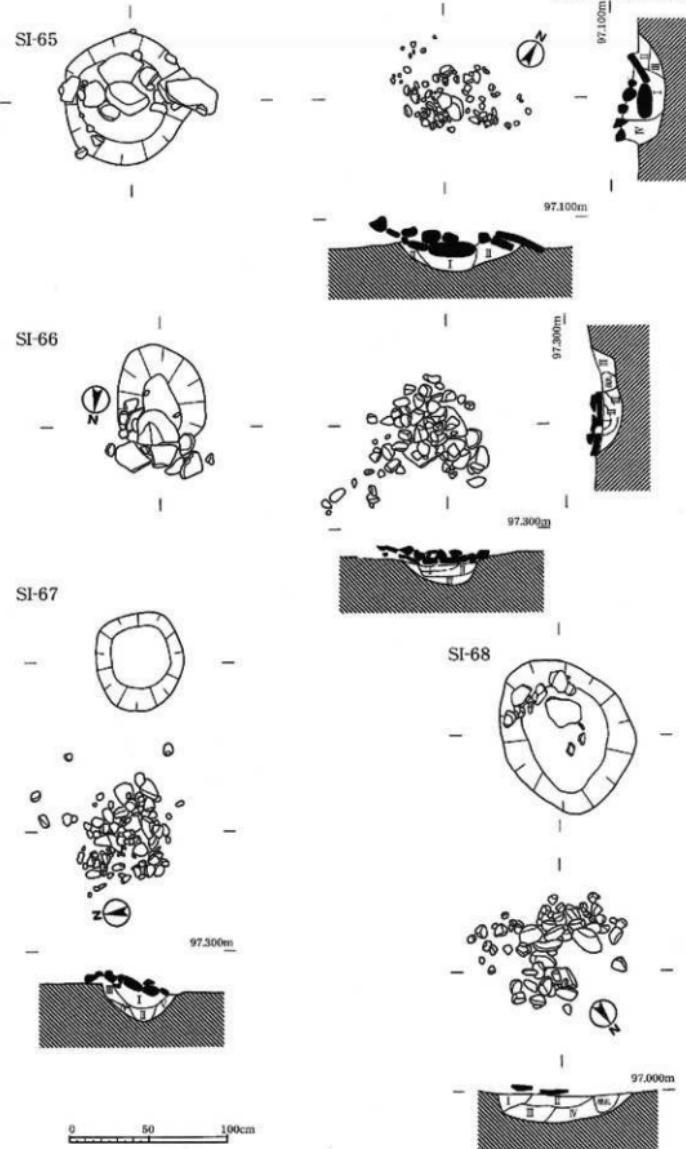
SI-64



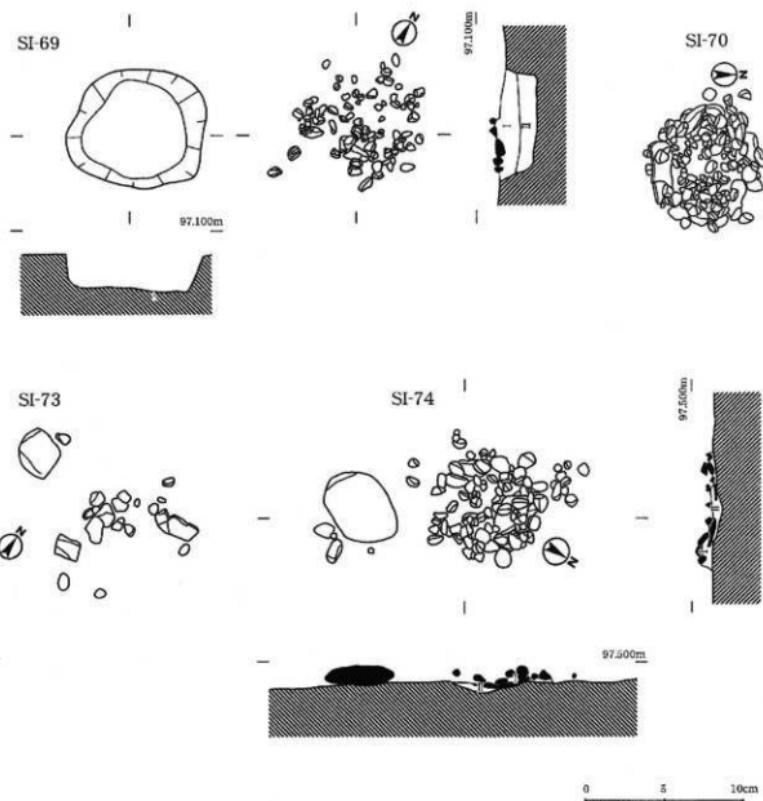
0 50 100cm

第15図 集石遺構実測図(12)

第V章 ズノ山第2遭跡E地区



第16図 集石遺構実測図(13)



第17図 集石遺構実測図(14)

あり、礫の堆積も10cm近くと浅かった。特に礫群6(1.2m^3)や礫群7(2.1m^3)に至っては、掘り込みを作わない集石遺構に近い状態といえる。

II・集石遺構(第4～17図)

67基検出された。南北に広がる平坦面よりも、若干斜面になる地点より多く検出されている。なお、これらは以下の通りに分類が可能である。

- I a類：礫の集中が認められず、小規模なもの(7基)
 - I b類：礫の集中が認められないが、分布範囲内に石皿を伴うもの(9基)
 - II 類：礫の集中が認められ、小規模なもの(21基)
 - III 類：礫の集中が認められ、底石を配するもの(6基)
 - IV a類：花弁状配石が行われるもの(4基)
 - IV b類：遺構の一端に平坦な礫を配するもの(11基)
 - V 類：遺構の周縁と底面に扁平な礫を配するもの(4基)
- 遺構の観察結果と分類は、表1の通りである。

III・土坑

11基検出されたうち、6基は土坑列(SC-76~81)である。調査区北側において、北々西の方向に、約2.5m間隔で並んでいた(第18図)。Ⅲ層上面で検出され、SC-79の覆土は、いずれも牛のスネローム(Ⅲ層)とアカホヤ火山灰(Ⅱ層)が層状に堆積しており、早期後葉に埋没したことや、掘った時に生じた土砂を、そのまま戻したものではない。これが土壙墓である可能性を考慮して、SC-78の覆土を採取し、古環境研究所にリン酸分析を委託したが、リン酸は確認されなかった。

SC-76(第19図)

E34° Nを主軸とし、長軸110cm、短軸85cmのやや歪な長方形を呈する。深さは40cmである。

SC-77(第19図)

E20° Nを主軸とし、長軸120cm、短軸90cmの歪な長方形を呈する。深さは、テラス部で35cm、最深部で50cmである。

SC-78(第19図)

E18° Nを主軸とし、長軸140cm、短軸100cmのやや歪な長方形を呈する。両端で緩やかに傾斜しながら、中央部の円形の底面に至る。深さは最深部で55cmに達する。断面は一部オーバーハングする。覆土には、炭の破片や白色粒が認められた。

SC-79(第19図)

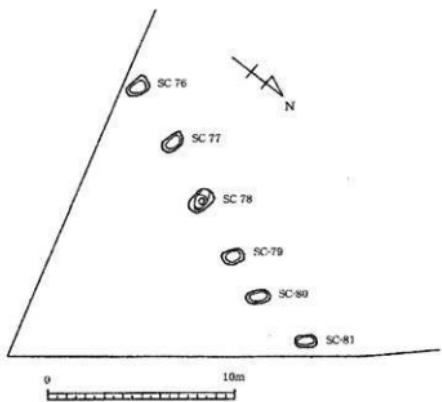
E18° Nを主軸とし、N長軸115cm、短軸80cmの長方形を呈する。深さは約40cmに至る。覆土の上部は牛のスネローム層であり、その上層からは炭の破片の混入も確認された。

SC-80(第19図)

E30° Nを主軸とし、長軸130cm、短軸75cmのやや歪な橢円形を呈する。深さは30cm程度である。

SC-81(第19図)

E23° Nを主軸とし、長軸110cm、短軸60cmのやや歪な長方形を呈する。深さは60cm近くに達する。



第18図 士坑列実測図

れる。

SC-85 (第20図)

長軸80cm、短軸45cmの楕円形を呈する。深さは10cmと、大変浅い。覆土中には、炭の破片が僅かながら含まれる。

SC-86 (第20図)

長軸180cm、短軸90cmのやや歪な楕円形を呈する。深さは35cmである。覆土中には、アカホヤ火山灰の混入が見られる。

IV・ビット

1基のみの検出である。

SP-87 (第20図)

調査区の北西部より検出された。ビットの東側外壁付近からは、土器の胴部片が検出されたほか、遺構中央部付近からは、比較的大ぶりの礫も確認されている。

V・配石遺構

調査区内からは、意図的に礫を配したと考えられる遺構が5基確認された。

SX-88 (第21図)

調査区を東西に横切る緩やかな谷の北側斜面上にて検出された。W60° Nを主軸とし、長軸115cm、短軸35cmのやや歪な楕円形を呈す、深さ15cm足らずの掘り込みが設けら

SC-82 (第20図)

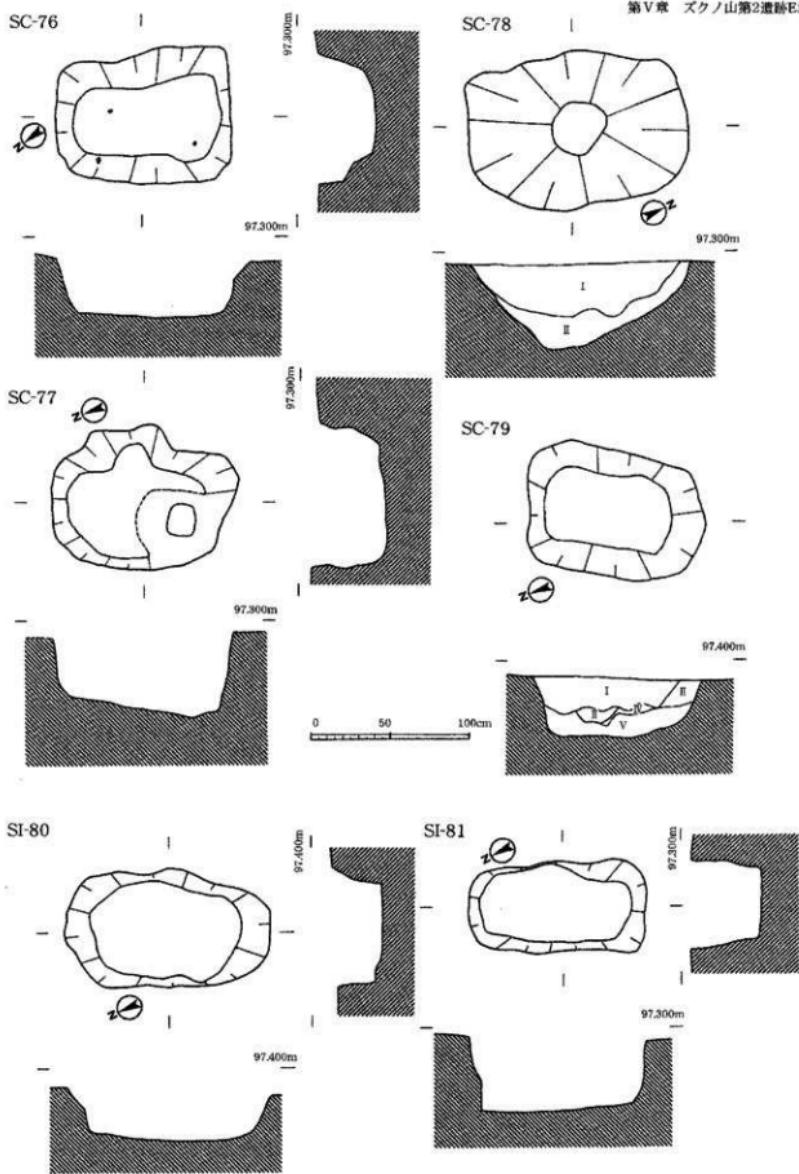
径80cmのやや歪な円形を呈する。検出面付近には、小ぶりの礫が数個見られる。深さは、最深部でも20cmに満たない。覆土中に炭の破片が混入する。

SC-83 (第20図)

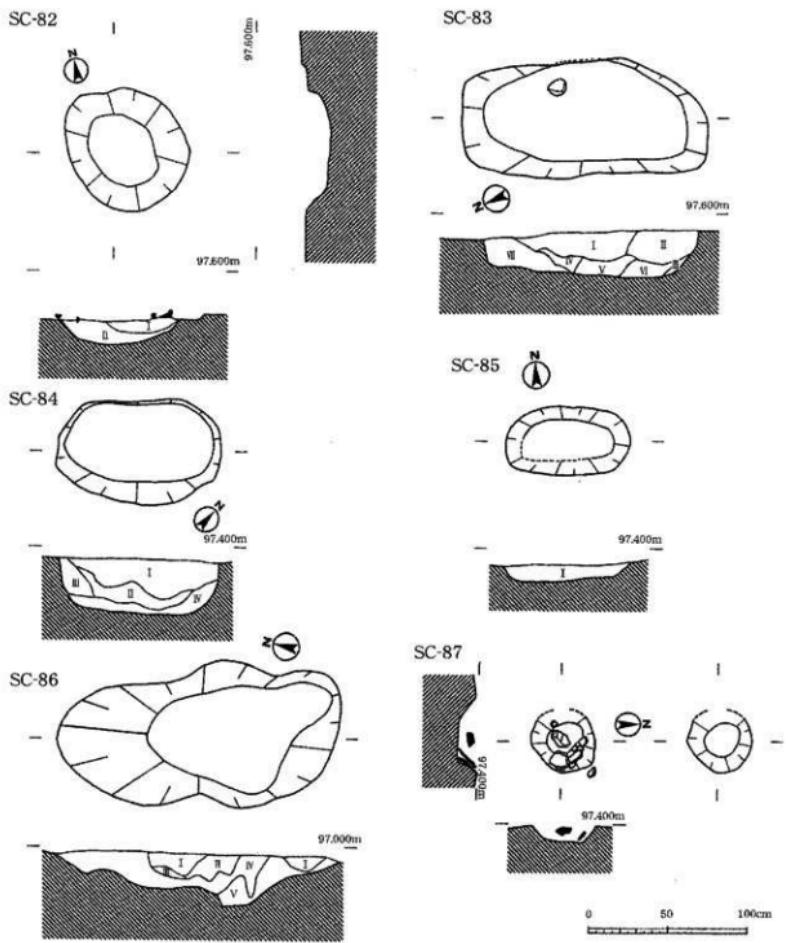
長軸115cm、短軸75cmのやや歪な長方形を呈する。深さは30cmである。覆土中にはアカホヤ火山灰のブロックが含まれていた。

SC-84 (第20図)

長軸105cm、短軸70cmの楕円形を呈する。深さは35cmである。覆土中には、僅かながら炭が含まれる。



第19図 土坑実測図(1)



第20図 土坑(2)・ピット実測図(1)

れる。その中には、板状の礫や扁平な円礫が、4個並んだ状態で検出された。礫は、検出面に向けてやや北側に傾けて配置されており、礫の周りには、角度を維持するようシルト質の土を入れている。この礫の中には、被熱による赤変とも思えるものもあるが、掘り込みの覆土からは炭や焼土など、火の使用を示す混入物は確認されない。なお、遺構の周囲、特に東側からは磨石が多く出土している。

SX-89 (第21図)

調査区北側台地上の、ほぼ中央部にて検出された。W72° Nを主軸とし、長軸85cm、短軸23cmの歪な楕円形を呈す、深さ10cm前後の掘り込みが設けられる。その中には板状の礫と扁平な円礫が、3個並んだ状態で検出された。礫は南側にやや傾いており、礫周辺のみに見られる土層は、SX-01と同様、これも角度を維持するための手が加えられたものと考えられる。掘り込みの深さは変化があるが、配置する礫の上場が揃うよう、深さを調整したようにも見える。なお、最も西側に配置された礫には、被熱とも思える赤変が認められる。しかし、遺構の覆土中に含まれる炭化物は、包含層中でも確認される程度であり、火の使用を積極的に示す根拠は確認できなかった。遺構の南部には、板状の礫が確認されたほか、遺構の周囲、特に北側からは、磨石が多く出土した。

SX-90 (第21図)

調査区北側台地上の、やや北側にて検出された。W77° Nを主軸とし、長軸65cm、短軸28cmの楕円形を呈す、深さ20cmの掘り込みが設けられる。その中には横向きに立てられた扁平な円礫が1個検出された。礫は北側に僅かに傾いた状態で埋設されている。礫の上面は、打撃により欠損している。掘り込みの覆土には、炭の混入は認められない。

SX-91 (第21図)

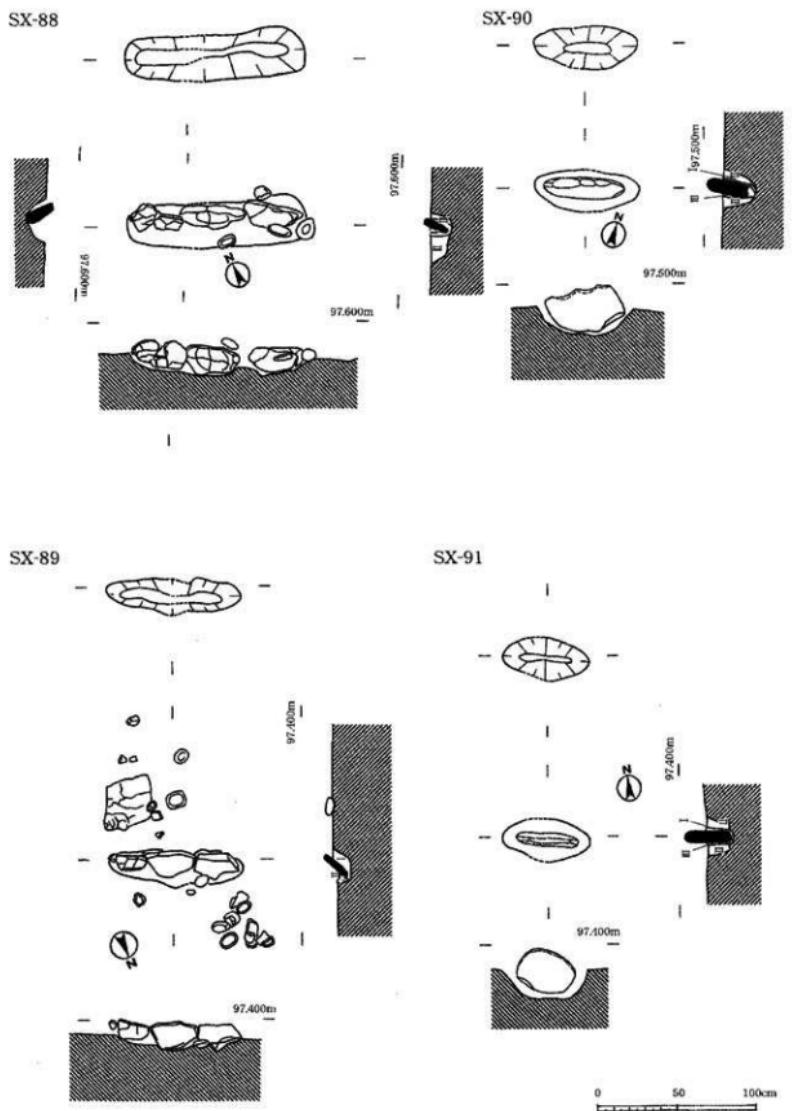
調査区南部の台地上、調査区の東端付近にて検出された。主軸はほぼ東西のライン上にあり、長軸55cm、短軸28cmのやや歪な楕円形を呈す、深さ20cmの掘り込みが設けられる。その中には長径50cmの扁平な円礫が1個、検出面に対しほぼ垂直に立った状態で埋設されていた。礫の表面には、人為的に手が加えられた痕跡は認められなかったほか、掘り込みの覆土には、炭の混入は確認できなかった。

SX-92 (第22図)

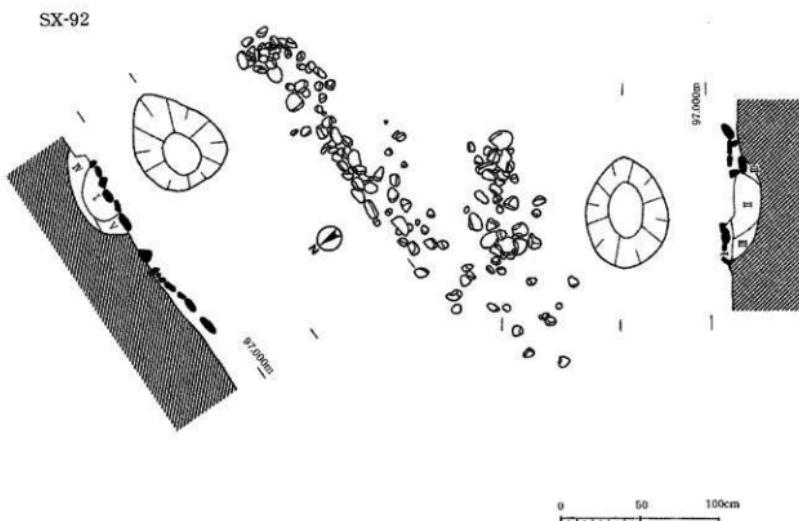
調査区南部台地上の西側にて検出された。遺構は、東西のラインに沿って、小ぶりの円礫が、列状に約200cmにわたって並んだ状態で検出された。礫は、中央部は数個単位で規則的に並んでいるが、両端、特に西側は雑然と分布するのみである。礫を取り除くと、長軸約60cm、短軸50cm、深さ約20cmの掘り込みが2基、遺構の両端から検出されたが、礫の並びの下位には、掘り込みは認められなかった。覆土からは、炭化物や焼土は検出されなかった。

SX-93

調査区南側の平坦部上で検出された。径5cm位の、小ぶりな砂岩の扁平な円礫を、10個近く集めたものである。礫の表面には、研磨などの人為的な加工は行われない。この周囲にも、同形の礫が散在していた。



第21図 配石遺構実測図(1)



第22図 配石造構実測図(2)

第4節 出土遺物

I・遺構内出土遺物(第23~25図1~46)

(1~2)は接合する。(5)は、松などの小枝で回転施文したと考えられる。(35)の外面は、条痕を全面に行った後、羽状の貝殻腹縁刺突を行っている。(36)は、両面に大まかな剥離を行ったのち、端部に連続的な調整を行っている。これは、石斧を製作するために行われた剥離であり、研磨を施す前に欠損したため放棄したと考えられる。(39)は、石斧の完形品である。剥離作業の後に研磨を施し完成させているが、刃部には剥離痕が残されており、アクシデントにより欠損したものを再生させる途中であったと考えられる。(40~44・46)は磨石である。(45)は、扁平な礫を用いた、小型の石皿である。

II・包含層出土土器

次のI類~XI類に分類を行った。

表1 集石壇構造統計表

遺物名	図版番号	出土場所	標的範囲(m)	刺込みの深さ(m)	種別	配石	炭化度	分類	備考
貝殻条痕文	SJ-09 第4回	0.40×0.40	0.05	密	×	×	III	上部は既に削平されていた	
型式不明	SJ-10 第4回	0.60×0.40	0.16	密	○	×	IVb		
—	SJ-11 第4回	1.00×1.00	0.21	密	○	×	II		
型式不明	SJ-12 第4回	1.15×0.90	—	密	○	×	IVa	剥ぎ取りを行った	
—	SJ-13 第4回	2.20×1.50	0.15	疎	×	○	I b		
—	SJ-14 第5回	0.70×0.70	0.18	密	○	×	V		
—	SJ-15 第5回	0.80×0.80	0.2	疎	×	○	I a		
型式不明	SJ-16 第5回	0.90×0.70	0.25	密	○	×	V		
磨石	SJ-17 第5回	0.90×0.90	0.11	密	○	×	IVa		
—	SJ-18 第5回	0.70×0.60	0.2	密	○	×	IVb		
—	SJ-19 第5回	0.70×0.60	0.25	密	×	○	II		
型式不明	SJ-20 第6回	0.70×0.70	0.29	密	○	×	IVb		
—	SJ-21 第6回	0.60×0.60	0.17	密	×	×	II		
剥片	SJ-22 第6回	0.70×0.70	0.15	疎	×	×	II		
—	SJ-23 第6回	1.50×1.50	0.13	疎	×	○	II		
—	SJ-24 第7回	0.50×0.50	—	疎	×	×	H	石組が隣接する	
型式不明	SJ-25 第7回	1.00×0.70	0.26	密	×	×	II		
—	SJ-26 第7回	0.70×0.60	0.23	疎	×	○	I a		
—	SJ-27 第7回	0.70×0.50	0.17	疎	×	○	I a		
剥片	SJ-28 第7回	1.10×0.60	0.15	密	×	×	II		
—	SJ-29 第8回	0.70×0.50	0.15	密	×	×	II		
型式不明	SJ-30 第8回	0.70×0.60	0.12	密	×	×	II		
—	SJ-31 第8回	0.60×0.50	0.18	密	×	×	IVb		
—	SJ-32 第8回	1.10×0.70	0.17	疎	×	×	I b		
型式不明	SJ-33 第8回	0.70×0.70	0.09	密	○	×	IVb		
石斧	SJ-34 第9回	1.40×1.20	0.27	密	×	×	H		
坤型文(初期)	SJ-35 第9回	0.65×0.65	0.21	密	×	×	II		
—	SJ-36 第9回	0.70×0.60	0.21	密	○	×	IVb		
—	SJ-37 第9回	1.10×1.10	0.22	密	○	×	IVb		
—	SJ-38 第10回	0.30×0.30	0.15	密	○	×	I b		
—	SJ-39 第10回	0.80×0.80	0.24	密	○	×	IVa		
磨石	SJ-40 第10回	0.70×0.70	—	疎	×	×	I b		
剥片	SJ-41 第11回	0.70×0.60	0.22	密	○	×	IVb		
貝殻条痕文	SJ-42 第10回	0.70×0.70	0.23	密	×	×	I b		
貝殻条痕文	SJ-43 第10回	0.70×0.70	—	疎	×	×	H		
—	SJ-44 第10回	0.50×0.50	0.18	疎	×	×	I a		
—	SJ-45 第11回	1.10×0.80	0.24	密	○	×	IVb		
—	SJ-46 第11回	0.60×0.50	0.17	疎	×	×	I b		
—	SJ-47 第11回	0.70×0.60	—	密	×	×	IVb		
—	SJ-48 第12回	1.80×1.10	0.3	疎	×	×	I a		
—	SJ-49 第12回	0.80×0.80	0.23	密	×	×	III		
—	SJ-50 第12回	0.70×0.50	0.2	密	×	×	H	掘り込みを2基作る	
—	SJ-51 第12回	0.60×0.40	0.15	疎	×	○	?		
—	SJ-52 第12回	0.90×0.60	0.15	疎	×	×	?		
—	SJ-53 第12回	0.60×0.60	0.08	疎	×	×	H		
—	SJ-54 第13回	0.70×0.70	0.15	密	×	×	III		
—	SJ-55 第13回	0.80×0.80	0.23	密	○	×	H		
—	SJ-56 第13回	2.00×0.90	0.24	疎	×	×	I b		
—	SJ-57 第13回	2.00×1.60	0.15	疎	×	×	I b		
—	SJ-58 第14回	0.90×0.70	0.18	疎	○	×	IVb		
—	SJ-59 第14回	0.60×0.60	0.15	密	×	×	H		
—	SJ-60 第14回	0.40×0.40	0.25	密	×	×	H		
貝殻条痕文	SJ-61 第14回	0.70×0.60	0.3	密	○	×	V	石組が観者である	
薄手熊文	SJ-62 第15回	1.00×1.00	0.2	疎	×	×	I b	剥ぎ取りを行った	
—	SJ-63 第15回	0.90×0.60	0.15	密	×	×	H		
型式不明	SJ-64 第15回	0.90×0.70	0.27	密	×	×	III		
—	SJ-65 第16回	0.90×0.60	0.2	密	○	×	III		
—	SJ-66 第16回	0.70×0.70	0.17	密	○	×	III		
—	SJ-67 第16回	0.60×0.60	0.24	疎	×	×	H		
—	SJ-68 第16回	0.70×0.70	0.17	密	×	×	H		
—	SJ-69 第17回	0.70×0.70	0.24	疎	×	×	I a		
貝殻条痕文	SJ-70 第17回	0.70×0.70	—	密	○	×	IVa	平面形は内レンズ状	
—	SJ-71 —	1.10×0.80	—	密	—	○	?		
—	SJ-72 —	0.80×0.80	—	密	—	○	?		
—	SJ-73 第17回	1.00×1.00	—	疎	×	×	?		
—	SJ-74 第17回	0.70×0.70	0.06	密	○	×	V		
—	SJ-75 第10回	0.40×0.40	—	疎	×	×	I a		

表2 遣構覆土注記(1)

SI-09 I層 10YR明黄褐色6/6	固く締まっている。粘性はない。角閃石を少量、白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量含む。	SI-19 I層 10YR黒褐色3/2	固く締まっている。粘性僅かにある。炭を中量、オレンジ色の軟質粒子を多量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を多量含む。まだら状を呈す。植物の根が著しく入りこむ。
II層 10YR黄褐色6/6	固く締まっている。粘性はない。白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量、角閃石を少量含む。層はややまだら状を呈す。	II層 10YR明黄褐色4/3	固く締まっている。層はまだら状を呈し、分層は容易でない。炭片を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。
III層 10YR褐色4/4	粘性は殆どない。白色粒子を中量、ガラス質粒子を多量、角閃石を少量含む。層はややまだら状を呈す。	SI-20 I層 10YR暗褐色3/3	太め固く締まっている。ややまだら状を呈し、分層は容易でない。炭を少量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。
SI-10 I層 10YR暗褐色3/3	固く締まっている。水分を含むが、粘性は殆どない。白色粒子を多量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。まだら状を呈す。	II層 10YR褐色4/4	固く締まっている。層はまだら状を呈し、分層は容易でない。粘性は全くない。炭を少量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を少量含む。植物の根が著しく入りこむ。
II層 10YR黒褐色4/3	1層より更に固く締まっている。ガラス質粒子を中量、砂粒を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈す。	SI-21 I層 10YR暗褐色3/3	固く締まった層。まだら状を呈する。黄色粒子が少量、白色粒子を少量、炭を中量含む。粘性はあまりない。分層は困難である。
III層 10YRにぶ黄褐色4/3	水分を含むが、粘性は殆どない。白色粒子を少量、角閃石を少量、ガラス質粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈す。	II層 10YR褐色3/2	1層よりもやや軟質。混入物はI層と同じであるが、黄色粒子はここでは見られず、白色粒子は中量に増加する。粘性は少しある。
IV層 10YR褐色4/3	粘性は殆どない。ガラス質粒子を多量、角閃石を中量、白色粒子を少量含む。	III層 10YR暗褐色3/3	I層よりもやや軟質。粘性はあまりなく、サラサラした感触である。黄色粒子を微量、白色粒子を少量含む。この層はまだら状にならず、安定した色調である。
SI-11 I層 7, 5YR暗褐色2/1	固く締まっている。角閃石を微量、白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量、赤色粒子を微量含む。層中に炭、砂利を多量に含む。粘性は殆どない。	IV層 10YR暗褐色3/2	固く締まっている。粘性は少しある。層はまだら状を呈す。白色粒子と炭が混入する。床面との境ははつきりしている。
II層 10YRにぶ黄褐色4/3	1層より更に固く締まっている。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量含む。炭も中量見られるが、中には大きめの欠片も混入する。	V層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性がある。層はまだら状を呈す。炭をごく微量、白色粒子を微量含む。
III層 10YR褐色4/4	やや固い層。白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、砂粒を中量含む。炭は微細で認めた。	SI-22 I層 7, 5YR褐色4/3	固く締まっている。粘性は殆どなく、まだら状を呈す。層の中には植物の根が網に入りこむ。炭を多量、白色粒子を少量、黒色粒子を少量含む。
SI-13 I層 10YR暗褐色3/3の中に10YR褐色4/4が入る。	固く締まっている。黒色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量、炭を少量含む。粘性に富む。	II層 10YR暗褐色2/3	固く締まっている。まだら状を呈す。層の中には植物の根が網に入りこむ。炭を多量、白色粒子を中量含む。粘性は殆どない。
II層 10YR褐色4/4	粘性に富む。ガラス質粒子を多量、黑色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を少量含む。	III層 10YR暗褐色3/2	固く締まっている。粘性殆どない。まだら状を呈す。赤色粒子を少量、炭を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。
SI-14 I層 10YR褐色4/6	層は固く締まつており、他層とは分別が容易である。ガラス質粒子を多量、炭を中量含む。まだら状を呈す。	SI-23 I層 10YR暗褐色3/2	固く締まつた層。まだら状を呈し、粘性はあまりない。炭を中量、ガラス質粒子を中量含む。層の中にはAhに似た小ブロックが少く確認できる。
II層 10YR褐色4/6	層は軟質であり、粘性に富む。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、黑色粒子を微量含む。植物の根が深く入り込んでいた。	II層 10YR暗褐色3/3	固く締まっている。まだら状を呈す。層の中には植物の根が網に入りこむ。炭を少量、白色粒子を中量含む。粘性は殆どない。
III層 10YR褐色3/3	固く締まつており、粘性は殆どない。ガラス質粒子を多量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	III層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや軟質。粘性に富む。まだら状を呈す。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
II層 10YR褐色4/4	固く締まつており、粘性は少しある。赤色粒子を微量、角閃石を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈し、層中の赤色は一定でない。	IV層 10YR褐色4/4	軟質。粘性に富む。ガラス質粒子を微量、白色粒子を微量、炭を微量含む。
SI-15 I層 10YRにぶ黄褐色4/2	固く締まつており、粘性は殆どない。角閃石を少量、ガラス質粒子を中量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	SI-25 I層 10YR褐色4/4	軟質である。まだら状を呈し、粘性は全くない。ガラス質粒子を多量、砂利を少量、赤色粒子を微量含む。植物の根が著しく入りこむ。
II層 10YR褐色5/6	層は固く締まつておらず、粘性は殆どない。白色粒子を微量、炭を微量含む。		
SI-16 I層 10YR褐色4/4	やや軟質で、粘性あり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。		
II層 10YR褐色5/6	固く締まつており、粘性は少しある。赤色粒子を微量、角閃石を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈し、層中の赤色は一定でない。		
SI-17 I層 10YR褐色5/6	やや軟質で、粘性あり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。		
SI-18 I層 10YR褐色4/4	固く締まつており、粘性僅かにある。砂利を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を多量、層はまだら状を呈す。		

表3 遺構覆土注記(2)

SI-25	II層 10YRにぶ黄褐色4/3 固く縮まったく層。まだら状を呈する。植物の根が間に入りこむ。白色粒子を微量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	SI-29	II層 10YRにぶ黄褐色4/3 やや軟質である。粘性あり。オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を中量、まだら状を呈す。
III層	10YR褐色4/4 層はまだら状を呈し、粘性がある。炭を少量、ガラス質粒子を多量、砂利を少々含む。	III層	10YR褐色4/4 やや軟質である。粘性に富む。まだら状であり。ガラス質粒子を多量含む。
IV層	10YRにぶ黄褐色5/4 まだら状を呈し、III層との境界の判別が非常に難しい。オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、炭を微量含む。粘性がある。	IV層	10YR褐色4/4 やや軟質である。粘性あり。まだら状を呈し、III層との境界は明確でない。ガラス質粒子を少々含む。
SI-26	I層 10YR暗褐色3/3 固く縮まったく層。まだら状を呈する。粘性はあまりない。炭を中量、白色粒子を少々、ガラス質粒子を微量含む。	V層	10YR暗褐色3/4 やや軟質であるが、SI-21の履歴では最も固い。粘性なし。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少々含む。
II層	10YRにぶ黄褐色3/4 固く縮まっている。まだら状を呈す。炭を少々、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	SI-30	I層 10YR褐色4/4 固く縮まっている。オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を少々、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々含む。まだら状を呈し、分層は困難である。
III層	10YR褐色4/4 固く縮めている。ややまだら状を呈す。白色粒子を微量、ガラス質粒子を少々含む。粘性殆どない。	II層	10YR黄褐色5/8 やや固く縮まっている。炭を微量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々含む。まだら状を呈し、粘性殆どなし。
IV層	10YR暗褐色3/3 比較的柔らかい。ややまだら状を呈す。ガラス質粒子を少量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子をごく微量含むが、炭は認められない。粘性少しあり。	III層	10YR褐色4/6 層は固く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少々、角閃石を少々含む。層の色調は安定している。
V層	10YR褐色4/4 やや固く縮まっており、粘性あり。層の色調は安定している。ガラス質粒子を少量、白色粒子を微量含む。	IV層	7, SYR褐色4/4 固く縮まっている。層の色調は安定している。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少々、角閃石を中量含む。
SI-27	I層 10YR黄褐色5/6 固く縮まっている。ややまだら状を呈す。白色粒子を少々、ガラス質粒子を多量、炭を少々、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	SI-31	I層 10YRにぶ黄褐色4/3 固く縮まっている。まだら状を呈する。ガラス質粒子を多量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量含む。粘性は殆どない。
II層	10YR褐色4/4 固く縮まっている。粘性殆どない。まだら状を呈す。炭を少々、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々含む。まだら状を呈す。	SI-32	I層 10YR褐色4/4 たいへん固く縮まっている。粘性全くない。角閃石を少々、炭を少々、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量含む。まだら状を呈す。
SI-28	I層 10YRにぶ黄褐色5/4 粘性殆どない。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、砂利を微量、オレンジ色の軟質粒子を少々含む。まだら状を呈す。	II層	10YRにぶ黄褐色4/3 固く縮まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黑色粒子を少々、色調は安定している。
II層	10YR褐色4/4 固く縮めており、粘性はあまりない。ガラス質粒子を少々、白色粒子を多量、炭を少々含む。	III層	10YR黄褐色5/8 固く縮まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、黑色粒子を少々、白色粒子を微量ふくむ。まだら状を呈している。
III層	10YR褐色4/6 固く縮まっている。粘性あり。白色粒子を少々、ガラス質粒子を微量、黒色粒子を少々含む。まだら状を呈す。	IV層	10YR黒褐色3/2 固く縮まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々、黑色粒子を少々含む。まだら状を呈する。
IV層	10YRにぶ黄褐色4/3 固く縮まっている。まだら状を呈す。黑色粒子を少々、ガラス質粒子を微量、粘性あり。	V層	10YR暗褐色3/4 固く縮まっている。粘性殆どなし。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、黑色粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈す。
V層	10YR暗褐色3/3 固く縮まっている。粘性あり。オレンジ色の軟質粒子を少々、白色粒子を少々、ガラス質粒子を少々、黑色粒子を少々含む。	SI-33	I層 10YR暗褐色3/3 固く縮まっている。粘性殆どなし。層の中には植物が密に入りこむ。砂利を多量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子も微量含む。
SI-29	I層 2, SYR褐色3/2 やや軟質の層。粘性あり。ガラス質粒子を中量含む。		

表4 遺構覆土注記(3)

SI-33 II層 10YR黄褐色5/6 軟質の層。粘性に富む。ガラス質粒子を中量、砂利を中量含む。まだら状を呈している。	SI-37 II層 10YRにぶ黄褐色4/3 固く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。
III層 10YR暗褐色3/4 固く縮まっている。まだら状を呈す。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量含む。層中の炭の粒子は比較的大きい。	III層 10YRにぶ黄褐色5/4 固く縮まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状の斑紋が著しい。
SI-34 I層 7, 5YR黒1, 7/1 固く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。炭を細かい粒子となって、層全体に多量に入する。	IV層 10YR褐色4/4 固く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、角閃石を微量含む。層の色調は安定している。
II層 10YR黒褐色2/2 固く縮まっている。粘性に富む。まだら状を呈す。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量、炭を多量含む。	SI-38 I層 10YR明黄褐色6/6、にぶ黄褐色4/3 やや固く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を微量含む。上記の色調がまだら状に混入。
III層 10YR3/2 やや固く縮まっている。粘性あり。ガラス質の粒子を多量、白色粒子を少量、赤色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はまだら状を呈す。	II層 10YRにぶ黄褐色4/3 固く縮まっている。粘性あり。炭を微量、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈す。
IV層 10YR黒褐色3/2 やや固く縮まっている。まだら状を呈するが、III層よりも弱くなっている。他の出入物等の特徴については、III層と同じである。	III層 10YR灰褐色4/2、褐4/4 やや固く縮まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。上記の色調の層がまだら状に混入する。
V層 10YR3/2 やや固く縮まっている。粘性あり。色調は安定している。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、赤色粒子を微量含む。まだら状を呈す。	IV層 10YR黄褐色5/6 やや軟質であり、粘性に富む。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量含む。層の色調は安定している。
VI層 10YR暗褐色3/3 やや固く縮まっている。粘性は殆どない。角閃石を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、赤色粒子を少量含む。層の色調は安定している。	SI-39 I層 10YR褐色4/4 固く縮まっている。粘性少しあり。白色粒子を少量、黑色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の上部には、熱により碎けたと思われる礫の碎片が多く混入していた。
VII層 10YRにぶ黄褐色4/3 やや固く縮まっている。粘性に富む。炭を多量、ガラス質粒子を多量含む。	II層 10YR黄褐色5/6 固く縮まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈す。
SI-35 I層 10YR粘褐色3/2 固く縮まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を中量含む。まだら状を呈す。	III層 10YRにぶ黄褐色5/4 軟質である。粘性少しあり。白色粒子を微量、ガラス質粒子を少量、角閃石を微量含む。まだら状を呈す。
II層 10YR褐色4/4 固く縮まっている。粘性僅かにあり。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量含む。	SI-41 I層 10YR褐色4/4 粘性あり。白色粒子を微量、黑色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。ややまだら状を呈す。
SI-36 I層 10YR暗褐色3/4 固く縮まっている。粘性少しある。植物の根が炭に入り込む。白色粒子が多量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈す。	II層 10YR褐色4/4 固く縮まっている。粘性に富む。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、角閃石を少量含む。色調は安定している。
II層 7, 5YR褐色4/5 固く縮まっている。粘性少しある。黒色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	III層 10YR黄褐色5/6 粘性少しあり。黑色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。抱り込み床面との層は、色調がはつきり異なる。
SI-37 I層 10YR褐色4/4 たいへん固く縮まっている。粘性全くない。白色粒子を中量、ガラス質粒子を多量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈す。	SI-43 I層 10YR黒褐色3/1 固く縮まっている。粘性少しあり。白色粒子を中量、炭を微量、赤色粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。

表5 遺構覆土注記(4)

SI-43	II層 2, 5Yオリーブ褐色4/3	固く締まっており、粘性に富む。白色粒子を中量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。色調が独特であるため、判別が可能である。	SI-48	II層 10YR黒褐色3/2	たいへん固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。炭を少量含む。
SI-44	I層 10YR暗褐色3/3	たいへん固く締まっており、粘性あり。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を少量、赤色粒子を微量含む。層中には、集石遺構の様が少し入りこんでいる。	III層	10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性は僅かにある。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、炭を微量、黒色粒子を微量含む。
	II層 10YR黒褐色2/3	固く締まっている。粘性あり。白色粒子を多量、炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。	IV層	7, 5YR黒褐色3/2	固く締まっている。粘性あり。炭を微量、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はまだら状を呈する。
	III層 2, 5Y黒褐色2/2	やや固く締まっており、粘性に富む。白色粒子を多量、炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を微量含む。	SI-49	I層 10YR暗褐色3/3	固く締まっている。粘性は僅かにある。ガラス質粒子を少量、黒色粒子を微量、白色粒子を多量、炭を微量含む。層はまだら状を呈する。
SI-45	I層 10YR黄褐色5/6	固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子中量、白色粒子微量、炭微量、オレンジ色の軟質粒子微量。層はやまだら状を呈す。	II層	10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性殆どない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだら状を呈する。
	II層 10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子中量、黒色粒子を微量、白色粒子を少量。層はまだら状を呈す。炭は確認されなかった。	III層	10YR黒褐色3/2	固く締まっている。粘性殆どない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだら状を呈す。
SI-46	I層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性あり。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量、黑色粒子を少量含む。層の色調は安定している。	IV層	2, 5Y黄褐色5/4	層は極めて軟質である。粘性は全くない。ガラス質粒子を多量、黑色粒子を少量、白色粒子を少量含む。
	II層 2, 5Y黄褐色5/4	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黑色粒子を微量含む。層の色調は安定している。	SI-50	I層 10YR黄褐色5/6-10YRにぶ黄褐色4/3	部分的に固さが異なる。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、角閃石を少量含む。層は上記の色調がまだら状に交り合っている。
	III層 10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、黑色粒子を微量含む。層の色調は、やまだら状を呈す。	II層	10YRにぶ黄褐色5/4	やや固く締まっている。粘性少しあり。角閃石を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。層はまだら状を呈するが、色調においてI層ほどの開きはない。
	IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を少量、黑色粒子を微量、白色粒子を微量含む。層はまだらが顕著に認められる。	III層	10YR褐色4/4-10YRにぶ黄褐色4/3	たいへん固く締まっている。粘性全くなし。
	V層 2, 5Yオリーブ褐色4/3	やや固く締まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を多量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を微量含む。層の色調は安定している。			炭を少量、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を多量、ガラス質粒子を少量含む。上記2色が混じり合う。
	VI層 2, 5Yオリーブ褐色4/3	軟質である。粘性僅かにある。ガラス質粒子を中量含む。層は堆積も特徴も不自然な状態である。	IV層	10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性僅かにあり。炭を微量、白色粒子を中量、黑色粒子を微量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を多量含む。土色は安定している。
SI-48	I層 10YR黒褐色3/2	固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、角閃石を微量、白色粒子を中量、赤色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈す。	SI-51	I層 10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性少しあり。炭を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を微量含む。

表6 遺構覆土注記(5)

SI-51 II層 10YR暗褐色3/3	固く締まっている。粘性は殆どない。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。層はまだら状を呈す。	SI-55 II層 2,5Yオリーブ褐色4/4	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、赤色粒子を微量、炭を少々。オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだら状を呈す。
III層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性殆どない。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、オレンジ色を少量含む。色調は安定している。	III層 10YR褐色4/4	たいへん固く締まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。まだら状を呈す。
SI-52 I層 10YR暗褐色3/3	固く締まっている。ガラス質粒子を多量、炭を少量、白色粒子を微量含む。層の色調は一定している。	IV層 10YR暗褐色3/4	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
II層 10YR褐色4/4	やや固く締まっており、粘性少しあり。炭を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈す。	SI-56 I層 10YR暗褐色3/3・10YRにぶ黄褐色5/4	固く締まっている。粘性殆どない。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。上記に層が交じり合う。
III層 10YR暗褐色3/2	固く締まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、角閃石を微量、白色粒子を少量、炭を微量含む。ややまだら状を呈す。	II層 10YR黒褐色2/3	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を少量含む。ややまだら状を呈す。
IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや固く締まっており、粘性少しあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、炭を微量含む。土色は安定している。	III層 10YR暗褐色3/3・10YR黒褐色3/2	固く締まっている。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々、角閃石を微量、炭を少々含む。色調は、上記の2色が交じり合う。
V層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや固く締まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、炭を少量含む。IV層との違いは土色であり、こちらはまだら状を呈す。	IV層 10YR暗褐色3/3	固く締まっている。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。色調は安定している。
SI-53 I層 7, 5YR褐色4/4	たいへん固く締まっている。粘性はあまりない。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、炭を微量含む。層は安定している。	V層 10YR暗褐色3/4	固く締まっている。粘性殆どなし。ガラス質粒子を多量、黑色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈す。
II層 10YR黄褐色5/6	やや固く締まっており、粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだが強く、色調の変化が激しい。	SI-57 I層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。色調は安定している。
SI-54 I層 10YR黒褐色3/2	固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を少量含む。ややまだら状を呈す。	II層 10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだら状を呈す。
II層 10YR褐色4/4	固く締まっている。粘性あり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。まだら状の斑紋が顕著である。粘性あり。	III層 10YRにぶ黄褐色5/4	やや軟質である。粘性少しあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、炭を微量含む。色調は安定する。
III層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや固く締まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少々、黒色粒子を少量含む。層の色調は安定している。	IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。II層以上にまだら状を呈す。
SI-55 I層 2, 5Y褐色3/2	固く締まっている。粘性少ない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量、ガラス質粒子を少量含む。ややまだら状を呈す。	SI-58 I層 10YR褐色4/4	たいへん固く締まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量、黑色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
		II層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く締まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を中量、黑色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、炭を微量含む。層はまだら状を呈す。

表7 遺構覆土注記(6)

SI-58	Ⅲ層 10YR褐色3/4	圓く縮まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を少量、白色粒子を微量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈している。	SI-61	IV層 10YRにぶ黄褐色5/4	同じく縮まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を中量、角閃石を微量含む。
	IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや圓く縮まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少々、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈している。	V層	10YR黒褐色3/2	圓く縮まっている。粘性少しあり。角閃石を少量、ガラス質粒子を中量、白色粒子を少々含む。
SI-59	I層 10YR暗褐色5/6	圓く縮まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黑色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。	SI-62	I層 10YR灰黃褐色4/2	たいへん圓く縮まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。
	II層 10YR暗褐色3/3	圓く縮まっている。粘性はあまりない。ガラス質粒子を多量、炭を微量、黑色粒子を中量、白色粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。	II層	10YRにぶ黄褐色4/3	たいへん圓く縮まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。
	III層 10YRにぶ黄褐色6/4	圓く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々、黑色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。	III層	10YR黑褐色3/2	たいへん圓く縮まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量、黑色粒子を微量含む。炭は全く含まない。
SI-60	I層 10YRにぶ黄褐色4/3	圓く縮まっている。粘性少しあり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、黑色粒子を少量含む。まだら状を呈する。	IV層	10YR暗褐色4/4	たいへん圓く縮まっている。粘性全くなし。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、角閃石を微量含む。他の層より赤味が強く、白色粒子が少ない。
	II層 10YR黒褐色3/2	圓く縮まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黑色粒子を少量含む。ややまだら状を呈する。	V層	10YRにぶ黄褐色5/4	たいへん圓く縮まっている。粘性全くなし。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、黑色粒子を微量含む。
	III層 10YR褐色4/4	圓く縮まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少々、黑色粒子を少々、白色粒子を中量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。	SI-63	I層 10YR暗褐色3/2	圓く縮まっている。粘性あり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。層の色調は安定している。
	IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや軟質である。粘性は殆どない。炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黑色粒子を少々、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。層はまだらが強い。	II層	10YR灰黃褐色4/2	圓く縮まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、炭を少量、ガラス質粒子を微量含む。層の色調は安定している。
	V層 10YR暗褐色3/3	やや軟質である。粘性殆どない。オレンジ色の軟質粒子を微量、角閃石を少量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。層の色調は安定している。	III層	10YRにぶ黄褐色4/3	やや軟質である。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、黑色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を少々含む。
SI-61	I層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや圓く縮まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、角閃石を微量、白色粒子を微量含む。層の色調は安定している。	SI-64	I層 10YR褐色4/4	たいへん圓く縮まっている。粘性少しあり。オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を中量、黑色粒子を少々、ガラス質粒子を少量、炭を微量含む。層はまだら状の斑駁が顕著である。
	II層 10YR暗褐色3/3	圓く縮まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を多量、黑色粒子を微量、白色粒子を微量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。	II層	10YRにぶ黄褐色4/3	やや縮まっている。粘性わずかにあり。角閃石を微量、白色粒子を少々、ガラス質粒子を少々含む。
	III層 10YR暗褐色3/4	圓く縮まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少々、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。	SI-65	I層 10YRにぶ黄褐色4/3	圓く縮まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少々、炭を少々含む。まだら状を呈する。
			II層	10YR暗褐色3/4	圓く縮まっている。粘性あり。黑色粒子を微量、白色粒子を多量、ガラス質粒子を少々、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。

表8 遺構覆土注記(7)

SI-65 III層 10YR黄褐色4/2	固く結まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を微量含む。層はまだら状が顕著に認められる。	SI-68 III層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや軟質であり、粘性に富む。白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。層の色調は安定している。
IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く結まっている。粘性全くない。炭を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、黑色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状の斑紋が顕著に認められる。	IV層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや固く結まっている。粘性あり。白色粒子を中量、角閃石を微量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈する。
V層 10YRにぶ黄褐色5/3	固く結まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を多量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を中量含む。層の色調は上層より安定している。	SI-69 I層 10YR暗褐色3/2	固く結まっている。粘性ある。白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量、炭を少量含む。この他上位の層が破碎し、層中に少農流入する。
SI-66 I層 10YR黄褐色5/6	固く結まっている。粘性なし。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。	II層 10YR暗褐色3/4	固く結まっている。粘性に富む。炭を微量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
II層 10YRにぶ黄褐色4/4	軟質であり、粘性全くない。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、黑色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。	SI-74 I層 10YR暗褐色3/4	軟質である。粘性少しあり。白色粒子を少量含む。植物の根が密に入りこむ。
III層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや軟質で、粘性少しある。黑色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈する。	II層 10YR黑褐色2/2	固く結まっている。ガラス質粒子を微量、角閃石を少量含む。層はまだら状を呈する。
SI-67 I層 10YR暗褐色3/3	固く結まっている。粘性あり。炭を多量、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。	SC-78 I層 10YRにぶ黄褐色4/3	粘性殆どない。5mm大のAhブロックが多く混入している。炭、白色粒子も多く認められた。層はやや固く結まっていた。
II層 10YR黄褐色5/6	固く結まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、黑色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を多量、ガラス質粒子を中量含む。層はややまだら状を呈する。	SC-79 I層 2, 5Y暗褐色3/3	粘性殆どない。層中には、1~3cm大のAhブロックを少量、1cm大の炭を微量含む。他に白色粒子と、直方体の透明な粒子を中量含んでいる。層はたいへん固く結まっている。
III層 10YR暗褐色4/4	固く結まっている。粘性あり。炭を少量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を少量、赤色粒子を微量含む。	II層 2, 5Y 5Y暗褐色3/2	たいへん固く結まっている。粘性は殆どない。I層で確認されたAhブロックは屢々にまで減少するが、他の混入物の割合は同じである。層の色調は安定している。
IV層 10YR黄褐色5/4	固く結まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。	III層 10YR暗褐色3/4	たいへん固く結まっている。粘性は殆どない。層中には3cm大のAhブロックが多く見とめられるが、それ以外の特徴はII層に変化はない。
V層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く結まっている。粘性少しあり。白色粒子を少量、角閃石を微量、ガラス質粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。	IV層 10YR明黄褐色6/8	軟質でサラサラしている。粘性は全くない。2~3cm大のAhブロックを多量に含む。
SI-68 I層 10YR暗褐色3/3	固く結まっている。粘性あり。白色粒子を多量、炭を微量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。	V層 10YR暗褐色3/3	たいへん固く結まっている。粘性殆どない。オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を少量、白色粒子を少量含む。
II層 10YR暗褐色3/4	固く結まっている。粘性に富む。白色粒子を多量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈する。	SC-82 I層 10YR暗褐色3/3	固く結まっている。粘性はあまりない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量に含む。層はまだら状を呈している。

表9 遺構覆土注記(8)

SC-82 II層 10YR黒褐色3/2	固く縮まっている。粘性少しあり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量含む。層はまだら状を呈している。	SC-86 V層 10YR黒褐色1/1	やや軟質である。粘性に富む。Ah粒子を多量、ガラス質粒子を中量、白色粒子を多量含む。
SC-83 I層 2, 5Y黒褐色3/2	固く縮まっている。粘性あり。1~2cm大のAhブロックを少量、ガラス質粒子を多量に含む。	SC-88 I層 10YR黒褐色6/1	たいへん軟質である。粘性少しあり。白色粒子が少量含まれるが、他には混入物は認められない。
II層 2, 5Y黒褐色3/2	I層よりもやや当量が強い。Ah粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。粘性少しあり。	II層 10YRにぶ黄褐色4/3	固く縮まっている。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。粘性は少しあり。層の色調は安定している。
III層 10YR褐色4/4	固く縮まつたロームが流入する。粘性は僅かである。混入物等は確認されなかつた。	SX-89 I層 10YR褐色4/6	固く縮まっている。粘性は殆どない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、赤色粒子を微量含む。
IV層 10YR黒褐色3/2	固く縮まつたローム層である。粘性に富む。ガラス質粒子を少量、Ah粒子を中量含む。	II層 10YR褐色5/6	やや固く縮まっている。オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を中量含む。粘性は今くなく、固くボロボロと崩れる。
V層 2, 5Y黒褐色3/2	やや固く縮まっている。Ah粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。粘性に富む。	SX-90 I層 10YRにぶ黄褐色4/4	軟質である。粘性は今くなく、サラサラしている。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。
VI層 2, 5Y暗灰褐色4/2	固く縮まつたローム層である。粘性に富む。ガラス質粒子とAh粒子を微量含む。	II層 10YRにぶ黄褐色5/4	たいへん固く縮まっている。粘性全くなし。オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量、黑色粒子を微量含む。
VII層 10YR黒褐色2/3	固く縮まっている。粘性に富む。ガラス質粒子、Ahブロック、炭の粒子を少量含む。	III層 10YR明黄褐色5/6	やや軟質である。粘性少しあり。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。
SC-84 I層 10YRにぶ黄褐色5/3	たいへん固く縮まっている。粘性に富む。白色粒子を多量、ガラス質粒子を多量、Ah粒子を特に多量、角閃石を微量、炭を微量含む。層の色調は安定している。	SX-91 I層 10YR明黄褐色4/6	固く縮まっている。粘性殆どなく、取り出すとボロボロと崩れ落ちる。ガラス質粒子を中量、白色粒子を微量含む。
II層 10YR暗灰褐色3/3	やや軟質である。粘性に富む。Ah粒子を特に多量、炭を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。層の色調は安定している。	II層 10YR黄褐色5/6	固く縮まっている。粘性僅か。白色粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈している。
III層 10YR明黄褐色6/6	やや軟質である。粘性に富む。Ah粒子を特に多量、白色粒子を中量、炭を微量、ガラス質粒子を中量含む。層の色調は安定している。	III層 10YR明黄褐色6/6	軟質である。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量含む。
SC-85 I層 10YR褐色4/4	たいへん固く縮まっている。粘性少しあり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量、炭を微量含む。	SX-92 I層 10YR褐色4/6	固く縮まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、角閃石を微量、ガラス質粒子を微量含む。
SC-86 I層 2, 5Yにぶ黄褐色6/4	軟質であり、粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、Ah粒子を多量、黑色粒子を少量含む。	II層 10YR暗褐色3/3	たいへん固く縮まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黑色粒子を微量含む。
II層 10YRにぶ黄褐色4/3	やや軟質であり、粘性あり。Ah粒子を特に多量、ガラス質粒子を多量、黑色粒子を微量含む。	III層 10YRにぶ黄褐色4/3	たいへん固く縮まっている。粘性少しある。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黑色粒子を微量、ガラス質粒子を少量含む。層の色調は安定している。
III層 10YR褐色4/4	やや軟質であり、粘性あり。Ah粒子を中量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。		
IV層 10YRにぶ黄褐色4/3-10YR黄褐色7/8	やや軟質であり、粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、大小のAhブロックを多量に含む。その間に下層のロームが混入した状態である。		

表10 遺構覆土注記(9)

SX-92 IV層 10YRに近い黄褐色4/3	固く締まっている。粘性あり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量、灰を微量含む。
V層 10YR褐色3/3	固く締まっている。粘性少しあり、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。
VI層 10YR褐色4/4	やや固く締まっている。粘性少しある。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はややまだら状を呈する。

I類：無文で薄手の土器（第26図47～61）

(47～58・61)の器面には、繊維痕が確認できる。(48～51)は同一個体である。(53)の外側は、ナデの後二枚貝による条痕が胴部上半から下半の一部に施されており、内面は、口縁部から胴部にかけて二枚貝条痕が横位に施されているが、外側とは異なる原体を使用している。繊維痕の密度は最も高く、外底部付近には、煤が付着している。(56・57)は同一個体である。(59)は、遺構内出土遺物の(29)と同一個体である。この外側は、工具による不定方向のナデと指によるナデが併用され、内面は、縦位に貝殻条痕を施した後、横位ナデを行っている。

II類：楕円押型文土器（第27図62～70）

この類の土器もI類と同様、胎土に繊維が見られる。(62～64)は、一部に無文帯を有する。(62)は、横位楕円押型文が、内外面共に施されている。外側は、2列目との間に幅狭の無文帯が形成される。(63)の外側にも、無文帯が認められる。(64)の外側は、楕円押型文を施した後にナデ消しにより無文部を設けているが、これが無文帯を意識したものとは断言できない。(66)の外側は、指押さえのためか、意図的なナデなのかは不明であるが、楕円押型文が一部消失している。(67～70)の外側は、全面に楕円押型文が施されている。(68)の穿孔は、貫通しているか不明である。

III類：円筒形土器

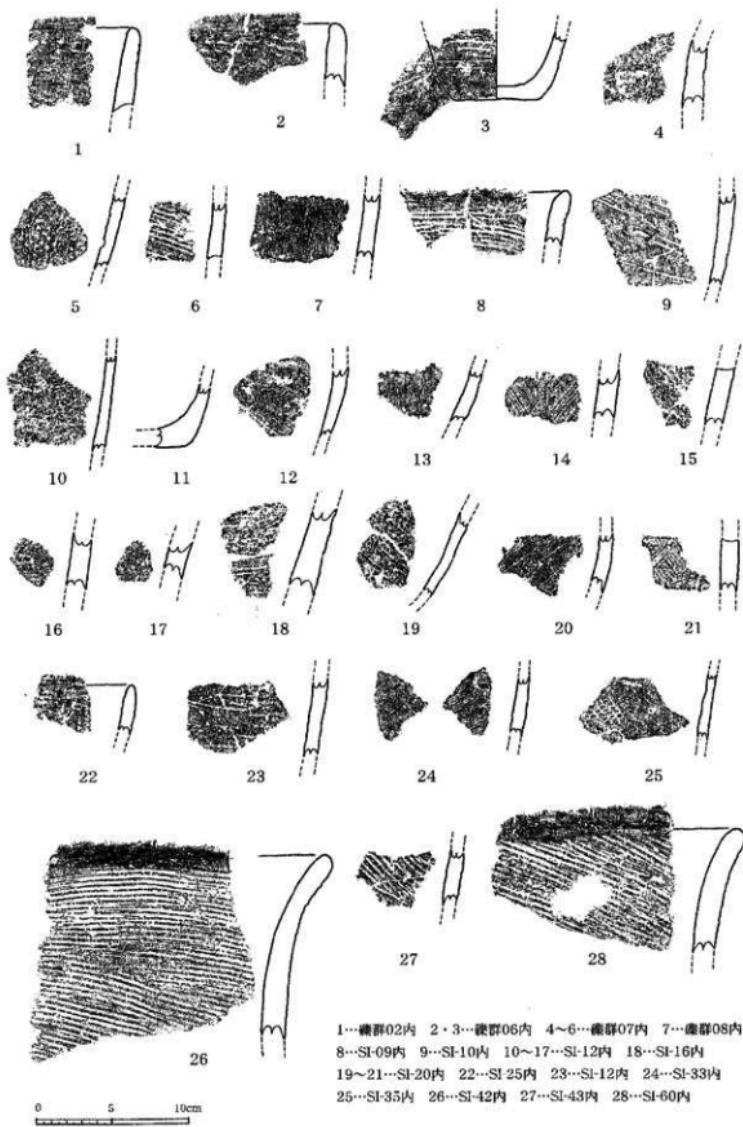
2種に細別することが可能である。

III A：前平式土器（第27図71～73）

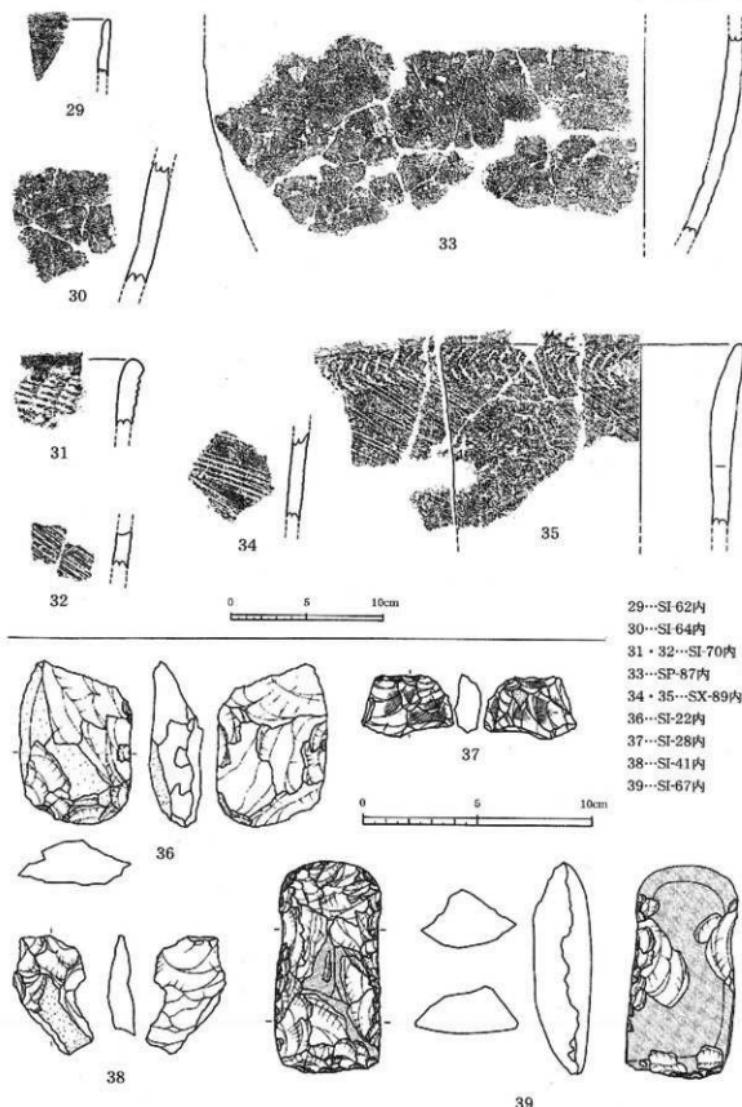
(71)の外側は、貝殻腹縁により口縁部に押引きが施されている。(72・73)は、条痕を施した後、口縁部に工具によりやや深い刺突を行っている。

III B：石版式土器（第27図74）

貝殻腹縁による刺突を口縁部に連続的に施し、その下部に綾杉状の条痕を同じ貝殻で施している。また、口唇部に近い部分は貝殻腹縁刺突の上からナデが行われている。



第23図 遺構内出土遺物実測図(1)



第24図 遺構内出土遺物実測図(2)



40



42



41

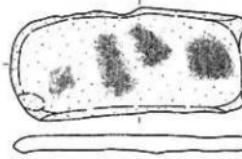


43

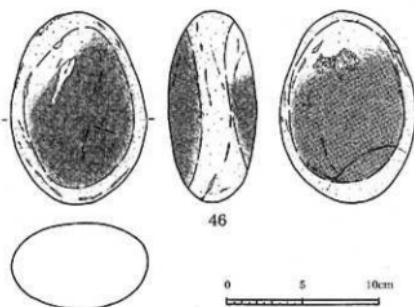


44

40~42---SI-09内
43---SI-17内
44---SI-40内
45---SP-42内
46---SX-89内



45



46

0 5 10cm

第25図 遺構内出土遺物実測図(3)

地土(A:角閃石 B:普通輝石 C:白色輝石 D:長石 E:砂粒 F:赤鐵鉱 G:黒雲母石 H:透入)

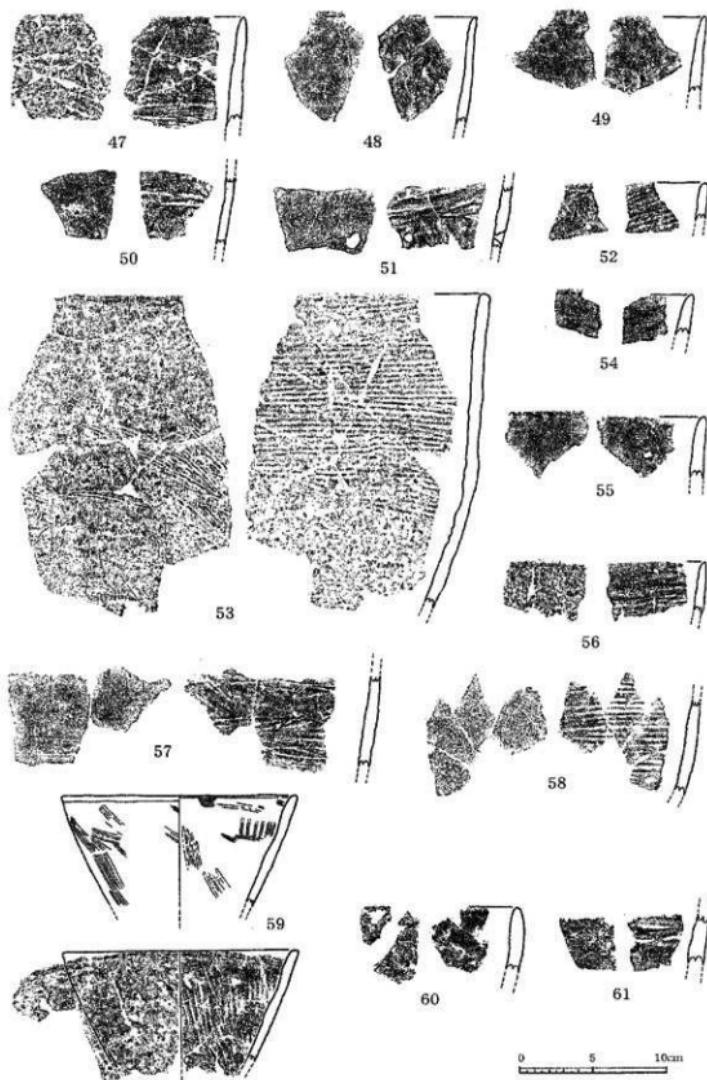
No.	出土場所	分類	部位	形	色	量	中:中量	多:多量	少:少量	特:特有	備考
1	種野2	V B	口腔部	外: 斜位直立 内: 丁寧な輪郭	外: 浅赤褐色2, 5W7/4 内: にぶい黄褐色10W7/4	A: 少C: 中D: 多E: 少F: 中	2と同	軽体	口唇部ミガキ		
2	種野6	V B	口腔部	外: 制位直立輪郭一員斜面輪郭切欠カナデ 内: 丁寧な輪郭ミガキ	外: 淡褐色2, 5W8/6 内: にぶい黄褐色10W8/6	A: 少C: 中D: 多E: 少F: 中	1と同	軽体	口唇部ミガキ		
3	種野6	X II	底部	外: 斜位直立輪郭一員斜面輪郭切欠カナデ 内: ミガキ	外: 淡褐色2, 6W7/2 内: 黄褐色2, 6W7/1	A: 少C: 中D: 多E: 少F: 濃 外: 淡黃褐色10W8/4 内: 淡黃褐色2, 6W8/4	底面1等なミガキ				
4	種野7	—	胸部	内: 輪郭により不明	A: 中C: 中D: 特多E: 中F: 濃						
5	種野7	X I	底部	外: 扇回転文一員ナデ 内: 輪郭カナデ	外: にぶい黄褐色10W6/4 内: にぶい黄褐色10W6/4	C: 少D: 濃E: 中	17と同	軽体			
6	種野7	V E	胸部	外: 斜位直立輪郭一員ナデ 内: ミガキ	外: 浅褐色2, 5W6/6 内: 淡褐色2, 5W6/6	A: 濃C: 中D: 多E: 少					
7	種野8	X I	底部	外: 輪位ミガキ 内: 1等な輪郭ナデ	外: 淡褐色2, 5W8/4 内: 淡褐色2, 5W8/4	A: 少C: 少D: 濃					
8	S1-09	V A	口腔部	外: 槌位直立輪郭一員ナデ 内: ミガキ	外: 淡褐色2, 5W8/4 内: にぶい黄褐色10W8/2	A: 少C: 少D: 多E: 中F: 濃					
9	S1-10	V E	胸部	外: ナデ直位直立輪郭 内: 槌位ナデ直位輪郭	外: にぶい黄褐色10W7/4 内: にぶい黄褐色7, 5W6/4	A: 濃C: 少D: 多E: 少F: 濃					
10	S1-12	—	胸部	外: 輪郭により不明	外: 淡褐色2, 5W7/3 内: 淡褐色2, 5W7/3	A: 少C: 少D: 特多E: 中	11と同	軽体			
11	S1-12	X II	底部	外: ナデ	外: 淡黃褐色10W8/4 内: にぶい黄褐色10W8/4	A: 多C: 多D: 特多E: 中	10と同	軽体			
12	S1-12	V E	胸部	外: ナデ直位直立 内: 丁寧な斜立輪郭	外: にぶい黄褐色10W7/3 内: にぶい黄褐色10W7/3	C: 多E: 少F: 濃G: 少					
13	S1-12	X I	胸部	外: ナデ直位輪郭 内: 輪位ミガキ	外: にぶい黄褐色10W7/3 内: にぶい黄褐色7, 5W7/2	C: 少D: 中					
14	S1-12	X I	胸部	外: 横張状の輪郭 内: 丁寧な輪郭ナデ	外: にぶい黄褐色10W8/4 内: にぶい黄褐色10W8/4	A: 少C: 少D: 多E: 中F: 濃	21と同	軽体			
15	S1-12	X I	胸部	外: 制位? ナデ	外: 淡褐色2, 5W8/4 内: 淡褐色2, 5W8/4	A: 少C: 少D: 多					
16	S1-12	X I	胸部	外: 輪位直位一員ナデ 内: 輪位ナデ	外: 淡褐色2, 6W8/3 内: 淡黃褐色10W8/4	A: 少C: 少D: 特多E: 中					
17	S1-12	X I	胸部	外: ナデ	外: にぶい黄褐色10W7/3 内: にぶい黄褐色10W7/3	A: 少C: 中D: 特多E: 濃H: 少					
18	S1-16	X I	胸部	外: 槌位直立 内: 丁寧なミガキ	外: にぶい黄褐色10W7/4 内: 淡褐色2, 6W8/4	A: 中C: 中D: 特多E: 少F: 少					
19	S1-20	—	底部	外: 輪位直立 内: 丁寧なミガキ	外: 淡黃褐色10W8/4 内: にぶい黄褐色10W7/3	A: 少C: 中D: 特多E: 中F: 濃					
20	S1-20	V E	胸部	外: 横位直立 内: 輪位ミガキ	外: 淡褐色2, 6W7/2 内: 苦味2, 5W6/1	A: 濃C: 中D: 多E: 濃F: 少					

表11 滝構内出土器類表(1)

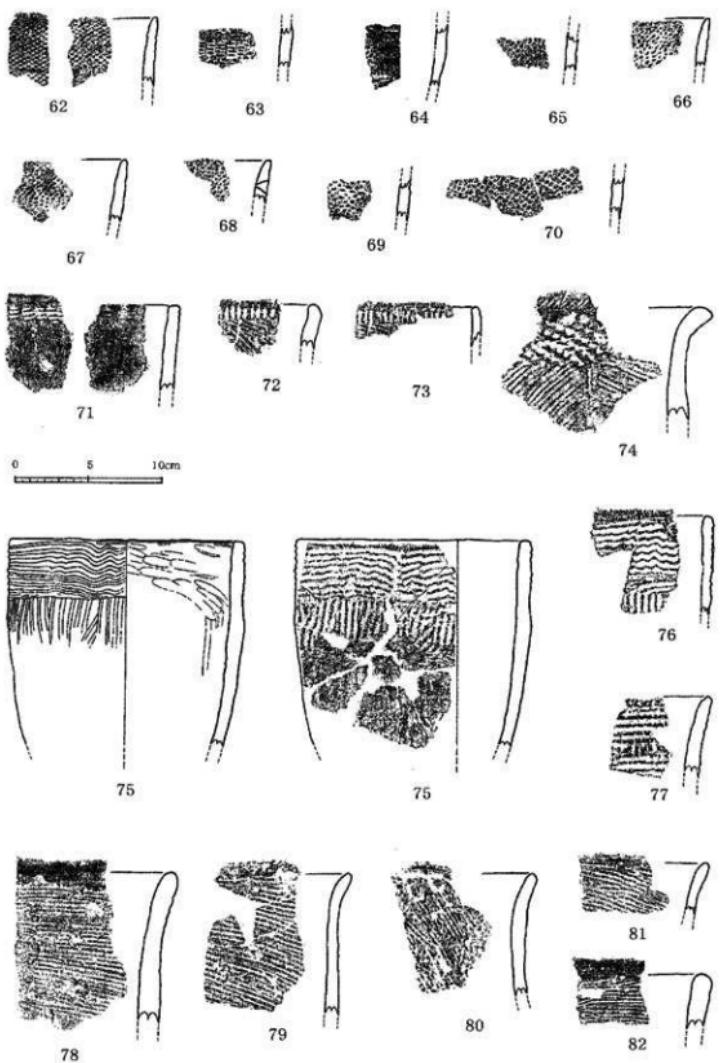
地土(4.角閃石、8.輝石、9.斜長石、O.白雲母、D.長石、E.砂岩、F.滑面岩片、G.無名片、H.火成岩)

No.	山土選択	分類	部位	外: 線形の木板 内: T字型の木板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/3	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 微 内: C: 少D: 少E: 少	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 微 内: C: 少D: 少E: 少	14と同一個体
21	SI-20	X I	解剖	外: 線形の木板 内: T字型の木板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/3	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 微 内: C: 少D: 少E: 少	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 微 内: C: 少D: 少E: 少	14と同一個体
22	SI-25	I	口縫部	外: ナデ 内: ナデ	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/3	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 微 内: C: 少D: 少E: 少	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 微 内: C: 少D: 少E: 少	14と同一個体
23	SI-30	VI I	解剖	外: 新立位骨板 内: T字型骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/2	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少 内: に長い根毛、W形/4	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少 内: に長い根毛、W形/4	14と同一個体
24	SI-33	I	解剖	外: 余根 内: 余根	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/2	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少 内: に長い根毛、W形/4	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少 内: に長い根毛、W形/4	14と同一個体
25	SI-35	II	解剖	外: 新立位骨板→ナデ 内: 新立位骨板→ナデ	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/3	葉	外: A: 中C: 少E: 多F: 微 内: 游離2.87/3	花	外: A: 中C: 少E: 多F: 微 内: 游離2.87/3	14と同一個体
26	SI-42	VIA	口縫～解剖	外: 新立位骨板→新立位骨板 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: 游離2.87/3 内: 游離2.87/3	葉	外: A: 多C: 少E: 中F: 微H: 無 内: A: 多C: 少E: 中F: 微H: 無	花	外: A: 多C: 少E: 中F: 微H: 無 内: A: 多C: 少E: 中F: 微H: 無	14と同一個体
27	SI-43	VE	解剖	外: 新立位骨板 内: ナデ	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/4	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少 内: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少 内: A: 中C: 少E: 中F: 少H: 少	14と同一個体
28	SI-60	VIA	口縫～解剖	外: 新立位骨板→ナデ 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/1	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 中 内: A: 中C: 少E: 中F: 中	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 中 内: A: 中C: 少E: 中F: 中	14と同一個体
29	SI-62	I	口縫部	外: 新立位骨板→ナデ 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/2 内: に長い根毛、W形/1	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 微 内: 游離10R/1	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 微 内: 游離10R/1	14と同一個体
30	SI-64	X I	解剖	外: 不完全骨板の複数の柔軟 内: 不完全骨板の複数の柔軟	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: に長い根毛、W形/3	葉	外: A: 中C: 多E: 多F: 少H: 中 内: A: 中C: 多E: 多F: 少H: 中	花	外: A: 中C: 多E: 多F: 少H: 中 内: A: 中C: 多E: 多F: 少H: 中	14と同一個体
31	SI-70	VC	口縫部	外: 新立位骨板 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/2 内: に長い根毛、W形/1	葉	外: A: 中C: 中E: 中F: 濃 内: A: 中C: 中E: 中F: 濃	花	外: A: 中C: 中E: 中F: 濃 内: A: 中C: 中E: 中F: 濃	14と同一個体
32	SI-70	VE	解剖	外: 新立位骨板 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: 游離2.87/6	葉	外: A: 中C: 中E: 中F: 濃 内: 游離2.87/6	花	外: A: 中C: 中E: 中F: 濃 内: 游離2.87/6	14と同一個体
33	SI-86	X	解剖	外: ナデ→既立位骨板 内: 新立位骨板→既立位骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/4 内: 游離2.87/6	葉	外: A: 中C: 多E: 中F: 中 内: 游離2.87/6	花	外: A: 中C: 多E: 中F: 中 内: 游離2.87/6	14と同一個体
34	SI-88	VE	解剖	外: 新立位骨板 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: に長い根毛、W形/3 内: 新立位骨板	葉	外: A: 中C: 少E: 中F: 中H: 少 内: 游離2.87/3	花	外: A: 中C: 少E: 中F: 中H: 少 内: 游離2.87/3	14と同一個体
35	SI-88	VC	口縫部	外: 新立位骨板→新立位骨板 内: 新立位骨板	清 空	茎	外: 游離2.87/3 内: 游離2.87/4	葉	外: A: 中C: 多E: 中F: 中H: 少 内: 游離2.87/4	花	外: A: 中C: 多E: 中F: 中H: 少 内: 游離2.87/4	14と同一個体

表12 遺構内出土器観察表(2)



第26図 出土土器実測図(1)



第27図 出土土器実測図(2)

IV類：中原式土器（第27図75～77）

(75)は、貝殻腹縁による条線が施文されている。外面胴部の残存状況が悪いが、胴部以下は無文のようである。内面は、ミガキによる調整が認められる。(76)の外面は、貝殻腹縁による波状の横位沈線の後、横位沈線一縦位沈線が施文されている。内面は、ミガキによる調整が認められる。(77)の外面は、貝殻腹縁による横位沈線の後、一部の横位沈線の上から縦位沈線を施文する。

IV類：貝殻条痕文土器

5種に細別が可能である。

VA：貝殻腹縁連続刺突を有しない土器（第27・28図78～93）

(78～85・87・88)の外面は、条痕が施され、内面は口唇部からミガキによる調整が行われている。(83・84)は、同一個体である。(86)は、口縁部に横位条痕が施文されているほか、補修孔と考えられる穿孔がある。(88)の外面には、弧を描くような条痕が確認できる。(89)は、焼成不良であり、残存状況が悪いが、外面には斜位条痕が施文されているのが確認できる。(90)は、弧を描くような条痕が斜位に行われている。(91・92)は同一個体である。外面は、貝殻腹縁による横位条痕の後、ナデ消しが施される。内面は、口唇部からミガキによる調整が行われている。(93)は、外面にやや波状気味の斜位貝殻条痕を行っている。

VB：貝殻腹縁連続刺突を1列施す土器（第28～29図94～113）

この類の土器は、一部残存状況が悪く確認できないものを除いて、口唇部から内面にかけて、横位のミガキ調整が行われている。(94・95)の外面は、口縁部に刺突を行った後、刺突文様帯を避けて条痕を施している。(96・97)の外面は、斜位条痕の後、口縁部に刺突を行っている。(98・99)は同一個体である。外面は、弧を描くように条痕を行った後、口縁部に貝殻腹縁刺突を連続的に施している。(100)の外面は、刺突を施した後、刺突部から斜位に条痕が施されている。(101)は、不定方向の条痕を全面に行なった後、刺突を施し一部ナデを行う。(102～105)は、口縁部にやや押引き気味の貝殻腹縁刺突を行った後、斜位条痕を胴部に施文する。口縁部と胴部の文様帯の区別は、あまり明確でない。(105)は、押引きと条痕の工具は異なる。(106・107)は同一個体である。外面は、条痕を行なった後、貝殻腹縁押引を口縁部に行なっている。また、胴部の一部に無文帯を有する。(108)の外面は、口縁部に押引(ロッキング)を施した後、斜位条痕を施す。(109・110)の外面は、二枚貝腹縁による短沈線を口縁部に行なった後、その文様帯の下位に弧を描くような条痕を行なっている。(111)の外面は口縁部に押し引きを行なった後、胴部に条痕を浅く行い、ナデ消したように見える。口唇部から内面上部はケズリ調整を行い、胴部にかけてはナデ調整を行なっている。(112)の外面は、口縁部に斜位短沈線を行なった後、斜位条痕を全面に行なっている。(113)は、全面に斜位条痕を行なった後、口縁部に斜位短沈線を行なっている。

VC：貝殻腹縁刺突を2列施す土器（第29～30図114～125）

(114)は、横位条痕を全面に施した後、刺突を行なっている。(115)は、斜位条痕を全面に施した後、ほぼ縦位の刺突を巡らせていている。内面は、口唇部と口縁部付近の一部にケズリ調整

が確認できる。(116)は、1列目の刺突を行った後、横位条痕を行い、条痕の上から2列目の刺突を行っている。内面は、横位のミガキ調整を行っている。(117)の外面に行われた刺突は、1列目と2列目の工具は同じであるが、2列目は、1列目よりも浅く施される。(118~121)は、斜位条痕を全面に行った後、異なる工具を用いて、斜位刺突を行っている。(122)は、斜位刺突を行った後、同角度・同方向の条痕を行っているため、刺突文が目立たない。(123)は、斜位条痕を全面に行った後、同角度・同方向で押引きを行っている。(124)は、斜位条痕を全面に行った後、刺突を行なう口縁部のみをナデ消し、角度が極端に異なる2列の斜位刺突を行っている。(125)は、摩滅が著しく、確認しづらい状況であるが、刺突と条痕が斜位に行われているのが、辛うじて確認できる。

VD：貝殻腹縁刺突が2列以上ある土器（第30図126~133）

(126・127)は同一個体である。外面は、横位条痕を行ってナデ消した後、斜位押引を3列巡らせている。(128)にも、3列の横位刺突が行われる。(129)は、横位刺突を2列行った後、斜位条痕を行い、再び刺突を行っている。(130)は、横位刺突を3列行った後、斜位刺突を直下に行い、横位条痕を施し、斜位条痕を行う。(131)は、横位に連続刺突を行うことで文様区画を設定し、区画内の一帯を、縦位の刺突で埋めている。(132)は、不定方向の粗雑な条痕の後、口縁部に刺突を1列目は深く、2・3列は浅く行っている。(133)は、条痕を行った後、横位刺突を行う。口唇部から内面にかけてはミガキ調整を行う。

VE：それ以外の土器及び胸部（第30図134~139）

(134)は、条痕を斜位に行った後、横位の短沈線を施している。(135)は、横位条痕を行っている。器壁が厚い。(136)は、斜位条痕を全面に施した後、羽状の刺突を2列行っている。工具は貝殻腹縁の最もカーブしている部分2つを残すように加工したものと考えられる。(137)は、横位の刺突を2列めぐらした後、その下部に不定方向のケズリを施している。(138)は、観察表では、不定方向の条痕と記載したが、区画からはみ出した条痕を、一部ナデ消しているようにも見受けられるため、この条痕は調製ではなく文様を意識した可能性もある。(139)は、縦位の刺突を行う。

VI：下剥式土器（第31図140~146）

(140・141)の外面は、横位の刺突を施している。口縁がやや内傾する。(142・143)は、縦位の刺突を施している。(144)は、刺突を横位に施す。(145・146)は、斜位や縦位の刺突を組み合わせることで、文様を形成している。

VII：桑ノ丸式土器

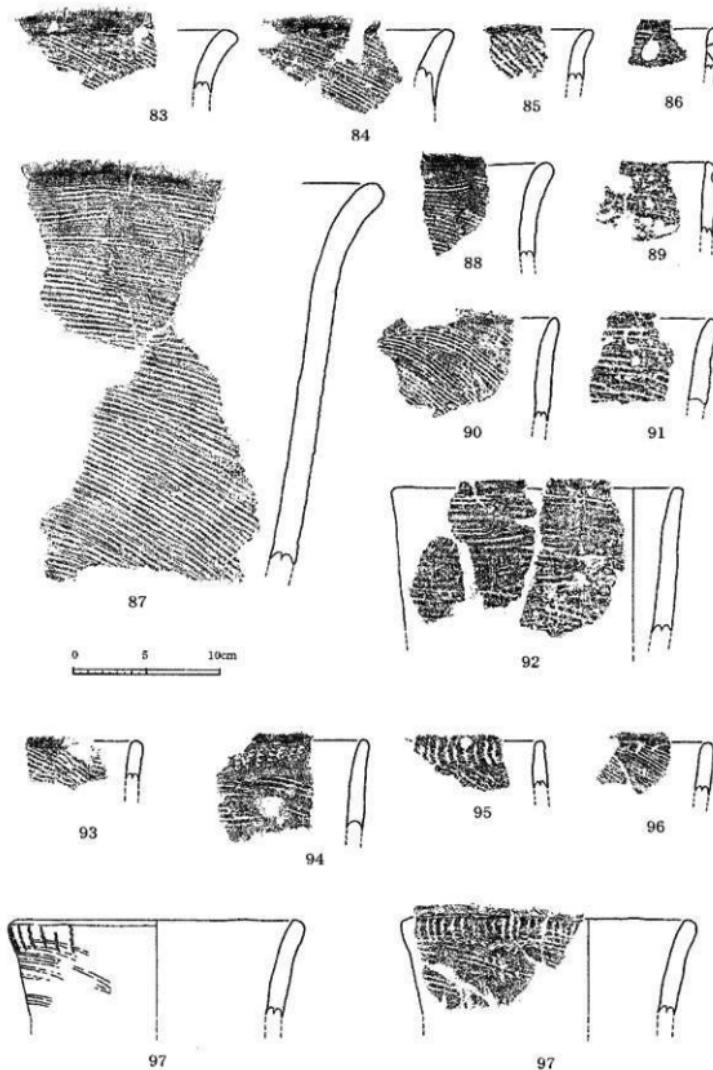
3種に細別が可能である。

VIIA：短沈線を羽状に施す土器（第31図147・148）

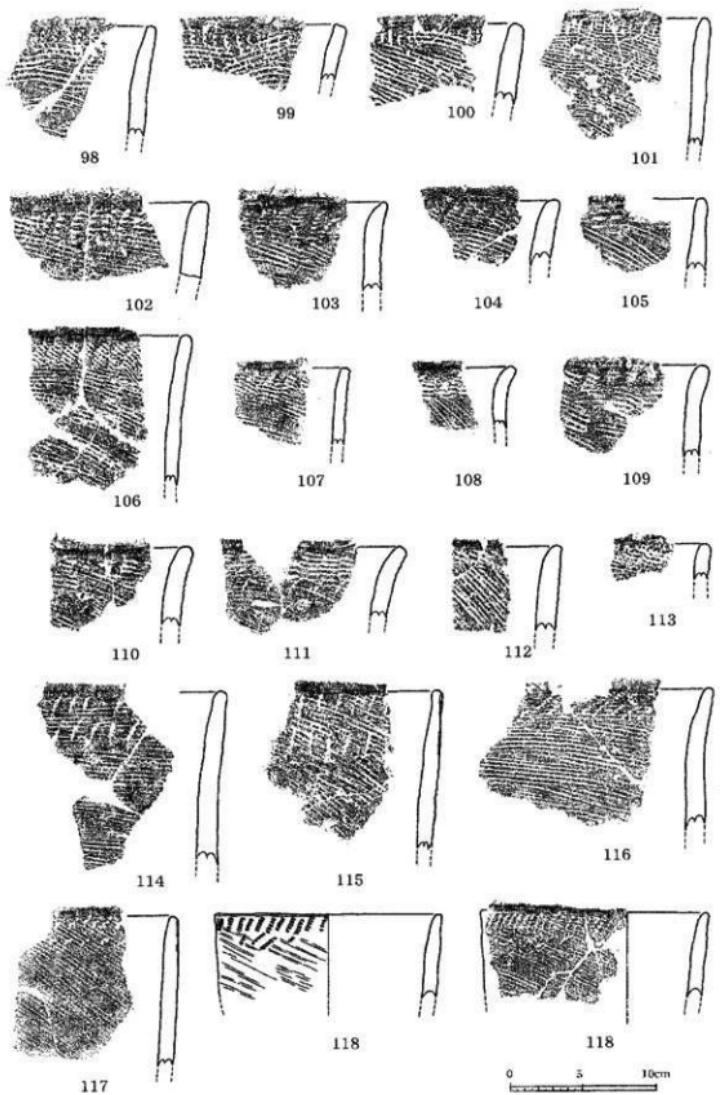
口縁部は丸みを帯び、やや内傾する。口唇部付近に浅い斜位刺突を1列巡らせた後、羽状短沈線を施す。内面は、ケズリの後にミガキを行なう。

VIIIB：短沈線を横位に施す土器（第31図149・150）

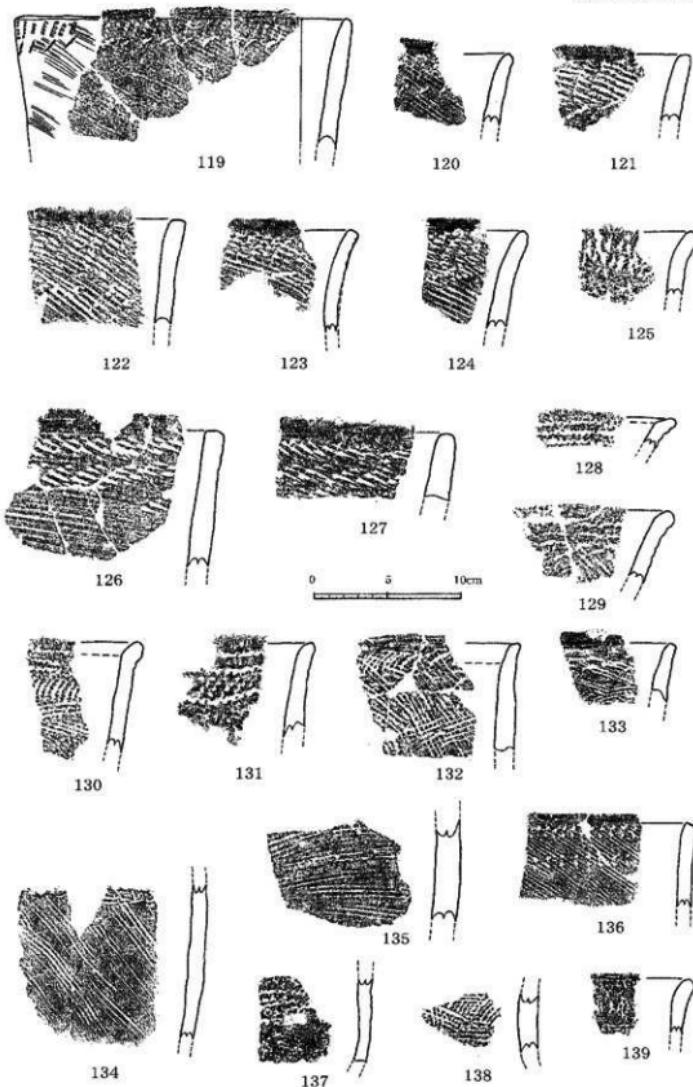
(149)の外面は、口唇部付近に浅い斜位刺突を1列巡らせた後、やや羽状気味の横位短沈線



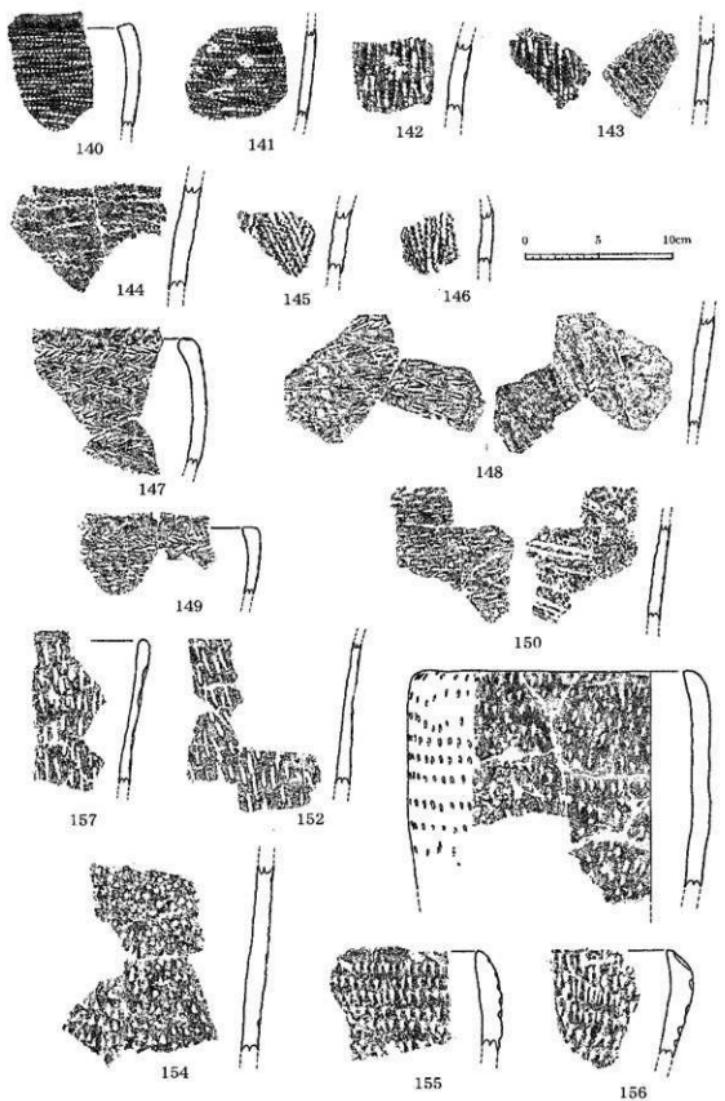
第28図 出土土器実測図(3)



第29図 出土土器実測図(4)



第30図 出土土器実測図(5)



第31図 出土器実測図(6)

を施している。内面は、ケズリの後にミガキを行う。(150)も、やや羽状気味の横位短沈線を施している。内面は、ケズリ調整の後に横位条痕を行う。

VIC：短沈線を縦位に施す土器（第31図151～156）

(151・152)は、器壁が薄く硬質である。(153～156)の器壁は厚く、軟質である。口縁部がやや内傾する。

VI：平格式土器（第32図157・158）

(157)は、横位沈痕と連点により文様を形成している。(158)は、口唇部を斜位短沈線で埋めた後、口縁部と内面の最上部に刺突を連続的に1列巡らせてている。残存状況から、胸部にも連点が確認できる。

IX：塞ノ神式土器（第32図159～165）

(159)は、斜位条痕を組み合わせて、文様を形成する。

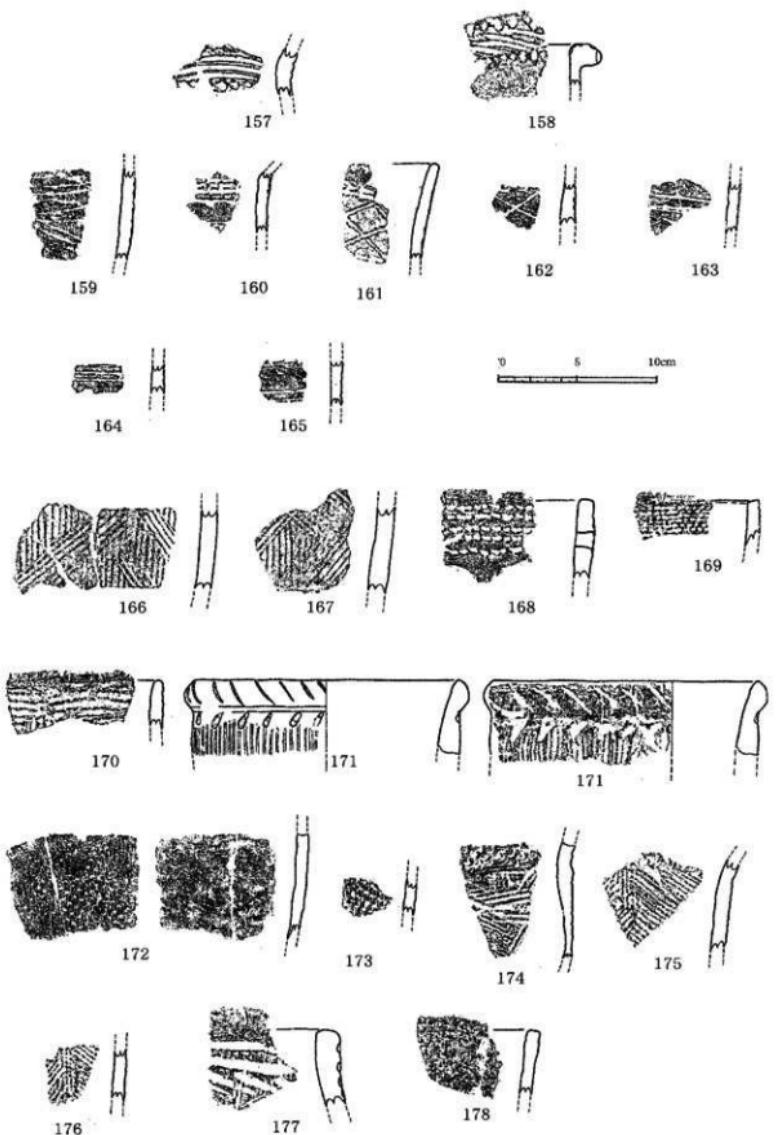
(160～165)は同一個体である。貝殻腹縁による押引と櫛状工具による横位沈線文や、鋭利な工具による格子目状沈線文を有する。

X：その他の土器（第32図166～178）

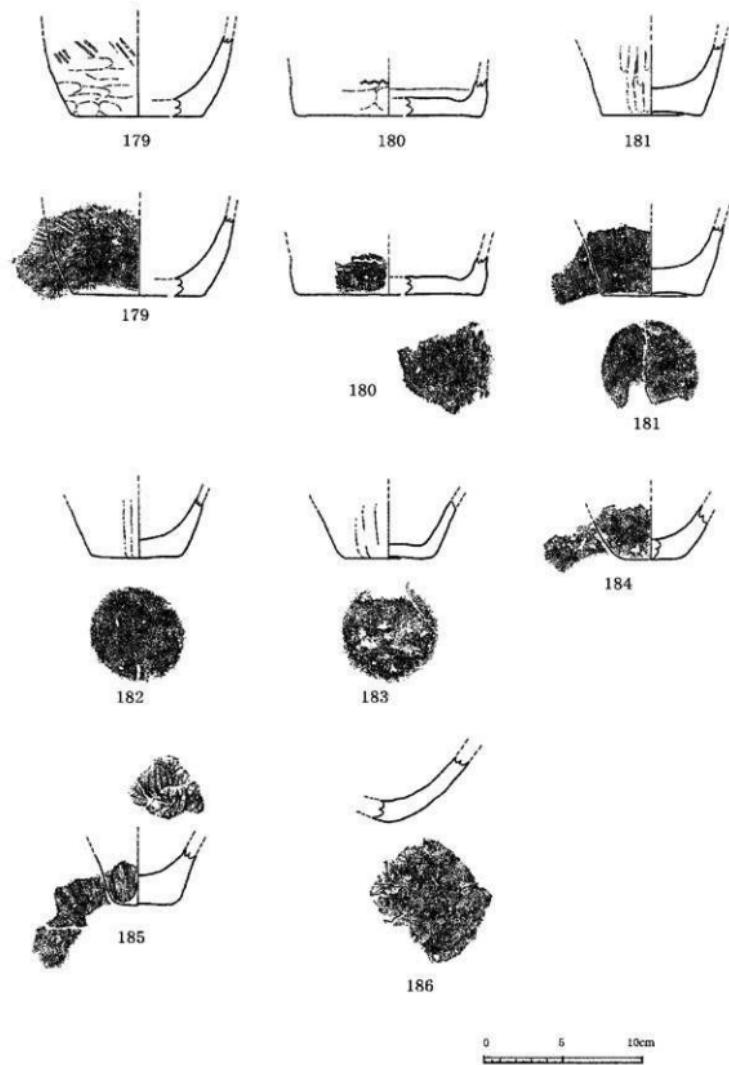
(166・167)は、条痕が不定方向に施された後、ナデが行われている。(168・169)は、石坂式新段階、あるいは下剥峯式の可能性がある。(168)は、ナデ調整の後、貝殻腹縁による横位連続刺突が5列行われている。(169)は、直立した口縁部に工具により連続刺突が行われている。(170)は、口縁部に横位沈線を施した後、その下部に縦位沈線が施されている。(171)は、肥厚した口縁部に貝殻腹縁斜位刺突が巡らされており、胴部には巻貝を押圧したような圧痕文が一列巡らされている。その下部には縦位貝殻条痕が行われている。(172・173)の外面上に見られる文様は、小さな突起物を有する軸状工具の回転施文であるとされている。この文様は、残存状況が悪く明言できないが、遺構内出土の(5)や(15)にも行われている。(172)の胎土は砂粒というよりも砂利のような混和材が含まれる。(174)の外面上は、沈線で区画を設定した後、区画内に貝殻腹縁刺突で埋めて文様を形成している。(175・176)の外面上は、縫杉状の沈線を施している。(177)は、節を有する棒状の原体を圧痕する。(178)は、内・外面上ともナデ調整である。

XI：底部（第33図179～186）

(179)に行われた斜位の条痕の下部は、横位のミガキ調整を行い、底面には、丁寧なミガキ調整を行っている。内面には、丁寧なナデ調整が行われる。(180)は、ミガキ調整の後、貝殻腹縁による横位刺突が施される。内面はナデ調整である。(181)は、縦位のヘラミガキが行われ、底面にはミガキのような丁寧な調整が確認できる。また、やや上げ底気味である。(182)の外面上、底面はミガキ調整を行っており、内面はナデ調整である。(183)は、外面上に縦位のミガキ調整を行っており、底面・内面はナデ調整である。これも、やや上げ底気味である。(185)は、外面上に縦位のミガキを行い、底面は丁寧なナデ調整を行っている。内面は、中心部に向けてミガキを行っている。(186)は丸底を呈する。内・外面上ともにナデ調整を行っているが、内面は粗雑に行っている。器面の調整や胎土から、I類の底部であると考えられる。



第32図 出土土器実測図(7)



第33図 出土土器実測図(8)

II・石器

石錐(第40~46)図 187~436・457

250点出土した。(457)を除いて縄文時代早期のものである。石錐は、その形態的特徴から、以下の通りに細分を行った。

I a類：小型で、尖端部と基部の頂点が正三角形状になるもの。

I b類：小型で、尖端部と基部の頂点が正三角形状よりもやや長くなるもの。

II a類：幅が狭く、長いもの。

II b類：II a類よりも、やや短いもの。

III 類：抉りが明確に入るものの。

IV 類：その他の形状を持つものの。

この細分結果、及び観察結果は、表20~25のとおりである。

主体を占める黒曜石の石材については、昨年度報告したF地区も含め、以下の通りに細分を行った。なお、この作業にあたっては、馬籠充道氏、山田鉄哉氏、山下実氏のご指導を賜った。

黒曜石A：黒色で透明度が高く、小粒で透明な気泡を混入する。

黒曜石B：乳白色で表面がざらざらしている。稀に赤色粒子を混入する。

黒曜石C：漆黒であるが、風化面は灰色がかかる。

黒曜石D：漆黒であり、透明度は低い。混入物は白色で気泡よりも大きい。

黒曜石E：黒色であり、透明度は全くない。

黒曜石F：それ以外、若しくは判別不能。

このうち、E地区で確認された黒曜石はA,B,E,F類である。中でもA類の割合は石錐全体の4分の3を占めており、他の石材を圧倒している。(第VI章 表4)

黒曜石以外の石材としては、チャート類の割合が高い。この石材は、その特徴から良質チャート、赤色チャート、粗悪なチャートの3つに細分を行った。

(311)の剥離面に認められる表面に細かな線状の擦痕は、フィッシャーではなく、何らかの使用痕であると思われる。また、(332・336・337)等、脚部のみ残存するものは、欠損後、石錐として使用した可能性も考えられる。

尖頭状石器(第45・46図437~456)

20点出土した。石材は、石錐の主体を占めた黒曜石は2点のみであり、ホルンフェルス、チャート類の割合が高い。

石錐(第46図458~461)

4点出土した。(458)は、尖端部に対する調整を両縁から行っているが、面的な剥離が多いめ、断面形は平たいままである。(459)は、厚めの剥片の一辺に尖端部を作出したものである。(460)は、片面のみに調整を行ったため、断面形は二等辺三角形である。(461)は、礫面近くの半月形の剥片を用いたものである。

石槍(第47図462・463)

2点出土した。(462)は、角礫の端部を剥離した際に作出された三角錐の剥片を用いたもので

胎土(a)、角閃石(b)、白雲母(c)、長石(d)、砂(e)、粉(f)、無色鉱(g)、褐色鉱(h)、鐵鉱(i)

No.	平面・断面分類	基 位	外:	内:	色	陶 土	胎 土	偏 方
47	第34回	I 口縁～肩部 外: 極端なナデ 内: 小さなナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 口縁: 5W6/3	外: 中: 5W6/4 内: 5W6/3	A: 黒; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に繊維混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
48	第34回	I 山腹～脚部 外: 小さなナデ 内: 不足方向のナデ	外: 口縁: 5W6/2 内: 不足方向のナデ	外: 口縁: 5W6/3 内: 不足方向のナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
49	第34回	I 口縁部 外: ベルナカのナデ 内: ベルナカのナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ベルナカのナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 口縁: 5W6/4	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
50	第34回	I 脚部 外: 下部のナデ 内: 相違なナデ～脚部系底	外: 口縁: 5W6/4 内: 下部のナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 下部のナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
51	第34回	I 山腹部分 外: 下部のナデ 内: 相違なナデ～脚部系底	外: 口縁: 5W6/4 内: 下部のナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 下部のナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
52	第34回	I 口縁部 外: 極端なナデ 内: 極端なナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 極端なナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 極端なナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
53	第34回	I 口縁部 外: ナデ～脚部 内: 極端なナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 極端なナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 極端なナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
54	第34回	I 口縁部 外: ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: ナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
55	第34回	I 口縁部 外: ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: ナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
56	第34回	I 口縁部 外: ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: ナデ	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
57	第34回	I 脚部 外: ナデ～下部のナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ～下部のナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: 口縁: 5W6/6	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
58	第34回	I 口縁～脚部 外: 小走りのナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 小走りのナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: 口縁: 5W6/3	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
59	第34回	I 口縁～脚部 外: ナデ～下部のナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ～下部のナデ	外: 口縁: 5W6/2 内: 口縁: 5W6/1	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
60	第34回	I 口縁部 外: ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: 口縁: 5W6/6	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
61	第34回	I 脚部 外: 小走りのナデ	外: 脚部: 5W6/4 内: 小走りのナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: 口縁: 5W6/3	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
62	第35回	II 口縁部 外: ナデ～脚部系底	外: 口縁: 5W6/4 内: ナデ～脚部系底	外: 口縁: 5W6/8 内: 口縁: 5W6/8	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
63	第35回	II 口縁部附近 外: 不足方向のナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 不足方向のナデ	外: 口縁: 5W6/6 内: 口縁: 5W6/6	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
64	第35回	II 脚部 外: 増加ナデ～脚部ナデ	外: 脚部: 5W6/4 内: 增加ナデ～脚部ナデ	外: 口縁: 5W6/2 内: 口縁: 5W6/2	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
65	第35回	II 脚部 外: 増加ナデ～脚部ナデ	外: 脚部: 5W6/4 内: 増加ナデ～脚部ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 口縁: 5W6/4	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入
66	第35回	II 口縁部 外: 新設ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 新設ナデ	外: 口縁: 5W6/4 内: 口縁: 5W6/4	A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄 A: 黑; C: 中; D: 黑; E: 黄	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入	胎土に塑性混入、 胎土に塑性混入

表13 出土器調査表(1)

地質学 (A:角石 B:薄層岩 C:白色粉 D:灰岩 E:砂岩 F:赤色粉 G:綠葉片石 H:火成岩) (特徴:斜に多量、多量、中:中量、少:少量)									
No.	平均地図	分類	基位	外:	内:	外:	内:	外:	内:
67	第35回	II	山腹部	外: 横谷筋付斜面又一斜谷筋付斜面文 内: 岩盤面ナデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 土 内: 土	外: 土 内: 土
68	第35回	II	山腹部	外: 岩盤面内斜面文 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 斜土に斜面混入 内: 斜土に斜面混入	外: 斜土に斜面混入 内: 斜土に斜面混入
69	第35回	II	側面	外: 岩盤面内斜面文 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/3 内: にぶい黄褐色0106/3	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 斜土に斜面混入 内: 斜土に斜面混入	外: 斜土に斜面混入 内: 斜土に斜面混入
70	第35回	II	側面	外: 岩盤面内斜面文 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/3 内: にぶい黄褐色0106/3	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 斜土に斜面混入 内: 斜土に斜面混入	外: 斜土に斜面混入 内: 斜土に斜面混入
71	第35回	III A	山腹部	外: ノデ→側面 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 口容部ミガキ 内: 口容部ミガキ	外: 口容部ミガキ 内: 口容部ミガキ
72	第35回	III A	口縫部	外: 会合谷筋→L筋上による側突 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/5 内: にぶい黄褐色0106/5	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
73	第35回	III A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/5 内: にぶい黄褐色0106/5	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
74	第35回	III B	口縫部	外: 会合谷筋→側突 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/5 内: にぶい黄褐色0106/5	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
75	第35回	IV	山腹部	外: 肩掛筋筋による波状地帯→横谷筋系 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/5 内: にぶい黄褐色0106/5	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
76	第35回	IV	山腹部	外: 日照斜面ミガキ 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/2 内: にぶい黄褐色0106/2	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
77	第35回	IV	山腹部	外: 岩盤面内斜面文→横谷筋 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
78	第37回	V A	山腹→側面	外: 岩盤面内斜面文→横谷筋 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/3 内: にぶい黄褐色0106/3	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
79	第37回	V A	山腹→側面	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/3 内: にぶい黄褐色0106/3	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
80	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
81	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
82	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
83	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
84	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
85	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突
86	第37回	V A	口縫部	外: 会合谷筋→ノーマーク 内: ノデ	外: にぶい黄褐色0106/4 内: にぶい黄褐色0106/4	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 中:少:少 内: 少:少	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突	外: 管形に沿う側突 内: 管形に沿う側突

表14 出土玉器類聚表(2)

出土(小)骨器石 B: 骨器石 C: 白色粘土砂岩 F: 灰褐色粘土 D: 黑色粘土砂岩 G: 黑褐色石片 H: 灰陶片

No.	平面分布図	分類	部位	形	調	断	特徴(二重基準)	多: 多量 中: 中量 少: 少量 疑: 疑似	地	調	断	特: 特少 中: 中量 少: 少量 疑: 疑似	地	調	断	特: 特少 中: 中量 少: 少量 疑: 疑似	地
87	第37区	V A	山根部~断面 内: 槌状・削位	外: 山根部~断面 内: 槌状・削位	外: 残部: 5W8/3	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	系: ほれ底付骨 口唇部ミガキ										
88	第37区	V A	山根部 内: 槌状	外: 山根部 内: 槌状	外: 残部: 5W8/3	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	系: ほれ底付骨 口唇部ミガキ										
89	第37区	V A	山根部 内: 槌状	外: 山根部 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	牙孔有り(朱痕面)										
90	第37区	V A	山根部 内: 槌状	外: 山根部 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	牙孔有り(朱痕面)										
91	第37区	V A	山根部 内: 槌状	外: 山根部 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	92と同一個体 口唇部ミガキ										
92	第37区	V A	口縫~断面 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/6	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	91と同一個体 口唇部ミガキ										
93	第37区	V A	口縫~断面 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
94	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
95	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
96	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
97	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 不一定方向の口縫部 内: 槌状ミガキ	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
98	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/3	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	99と同一個体 口唇部ミガキ										
99	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/3	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	98と同一個体 口唇部ミガキ										
100	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/6	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
101	第37区	V B	口縫~断面 内: 槌状	外: 不一定方向の口縫部 内: 槌状ミガキ	外: 残部: 5W8/6	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
102	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/6	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
103	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/6	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
104	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
105	第37区	V B	口縫部 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/4	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	口唇部ミガキ										
106	第37区	V B	口縫~断面 内: 槌状	外: 槌状・削位 内: 槌状	外: 残部: 5W8/2	内: A: 1C: 少:D: 多: 中: 中: 中	107と同一個体 口唇部ミガキ										

表15 出土土器観察表(3)

出土(A:赤鉄石 B:墨色石 C:白色石 D:長石 E:砂岩 F:赤褐色石 G:黒褐色石 H:透石)								
No.	平面分布図	分類	部位	外:	内:	外:	内:	参考
107	第37回	VB	口縁部	外: 鋸位員赤系灰・細小・只頭輪輪郭引一ノード 内: 1等分焼成灰・ガキ	外: 滲出2.657.4 内: 渗出2.657.4	A:少C:少D:多E:無F:無 A:少C:少D:多E:少	A:少C:少D:多E:少	106と同一固体 口輪部ミガキ 口唇部ミガキ
108	第37回	VB	口縁部	外: 鋸位員赤系灰・只頭輪輪郭引(ヨックシング) 内: 1等分焼成灰・ガキ	外: 前板部2.515.2 内: 1等分焼成灰10Wx1/4	A:少C:少D:多E:少	A:少C:少D:多E:少	口輪部ミガキ 口唇部ミガキ
109	第37回	VB	口縁部	外: 只頭輪輪郭引一ノード定方向の只頭輪輪郭引	外: 滲出2.657.3 内: 渗出2.657.2	A:少C:少D:多E:少	A:少C:少D:多E:少	110と同一 口輪部ミガキ 口唇部ミガキ
110	第37回	VB	口縁部	外: 只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭 内: 鋸位ミガキ	外: 滲出2.657.4 内: 渗出2.657.1	A:少C:少D:多E:少	A:少C:少D:多E:少	110と同一 口唇部ミガキ 口唇部ミガキ
111	第37回	VB	口縁部	外: 只頭輪輪郭引一ノード直し 内: 鋸位ミガキ	外: 滲出2.657.3 内: 渗出2.657.2	A:少C:中:多E:少	A:少C:中:多E:少	口唇部ミガキ 口唇部ミガキ
112	第37回	VB	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.657.4 内: 渗出2.657.2	A:少C:少D:多E:中	A:少C:少D:多E:中	口輪部ミガキ
113	第37回	VB	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: 1等分焼成灰・ガキ	外: 滲出2.657.5Wx3 内: 1等分焼成灰・ガキ	A:少C:少D:中:少E:少	A:少C:少D:中:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
114	第37回	VC	口縁～頭部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: 1等分ミガキ	外: 滲出10Wx8.4 内: 1等分焼成灰10Wx7.2	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
115	第37回	VC	口縁～頭部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.657.4 内: 渗出2.657.3	A:少C:少D:多E:多	A:少C:少D:多E:多	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
116	第37回	VC	口縁～頭部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.657.3 内: 1等分焼成灰10Wx6/3	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
117	第37回	VC	口縁～頭部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出10Wx6/2 内: 1等分焼成灰10Wx5/2	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
118	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位ミガキ	外: 滲出10Wx5/2 内: 口輪部10Wx5/2	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
119	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 1等分焼成灰10Wx6/3 内: 1等分焼成灰10Wx5/2	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
120	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出10Wx6/1 内: 1等分焼成灰10Wx6/4	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
121	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.5Wx6 内: 口輪部10Wx6/4	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
122	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.5Wx4 内: 口輪部10Wx4	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
123	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.5Wx4 内: 口輪部10Wx4	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
124	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 滲出2.5Wx3 内: 口輪部10Wx3	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
125	第37回	VC	口縁部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: 口輪部	外: 滲出10Wx4 内: 口輪部10Wx4	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
126	第37回	VB	口縁～頭部	外: 鋸位只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード只頭輪輪郭引一ノード 内: ミガキ	外: 1等分焼成灰10Wx4 内: 口輪部10Wx4	A:少C:少D:少E:少	A:少C:少D:少E:少	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ

表16 出土器觀察表(4)

出土(A:角閃石 B:輝母石 C:白色板 D:黒石 E:砂岩 F:赤褐色板 G:黒褐色片 H:灰土) (特多:特多量 多量 中量 少量 微量)

No.	平面分布図	分類	形 似	層 級	色 形	地	生 土
127	第37図	VIb	口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 赤: 5W7/6 内: 淡黄褐: 0T98/4	A:少:E:少:少:微
128	第37図	VIb	口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 淡黄褐: 0T98/4 内: 淡黄褐: 0T98/4	A:少:E:少:E:中:中
129	第37図	VIb	口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 淡黄褐: 0T98/4 内: 淡黄褐: 0T98/4	A:少:E:少:E:少:多
130	第37図	VIb	口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 淡黄褐: 0T98/4 内: 淡黄褐: 0T98/4	A:少:E:少:E:少:少
131	第37図	VIb	口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 黄褐: 10R8/6 内: 黄褐: 10R8/6	A:少:E:少:E:微
132	第37図	Vb	口輪・脚部 内: 剥離部	外: 不定方向の剥離部 内: 剥離部	外: 不定方向の剥離部 内: 剥離部	内: 明赤: 5YR8/8 外: 明赤: 5YR8/8	A:少:E:少:E:少:特多
133	第37図	VIb	山根部 外: 剥離部	内: 丁字なぎさき 外: 丁字なぎさき	外: 丁字なぎさき 内: 丁字なぎさき	外: にぶい: 5W7/3 内: にぶい: 5W7/3	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
134	第34図	VE	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: にぶい: 5W7/3 内: にぶい: 5W7/3	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
135	第34図	VE	脚部 内: 丁字なぎさき	外: 丁字なぎさき 内: 丁字なぎさき	外: 丁字なぎさき 内: 丁字なぎさき	外: 5W7/6 内: 5W7/6	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
136	第34図	VIb	口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/6 内: 5W7/6	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
137	第34図	VE	脚部 内: 剥離部	外: 不定方向の剥離部 内: 剥離部	外: 不定方向の剥離部 内: 剥離部	外: 5W7/6 内: 5W7/6	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
138	第34図	VE	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/6 内: 5W7/6	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
139	第36図	VE	山根部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/2 内: 5W7/1	口輪部ミガキ 口輪部ミガキ
140	第35図	VI	山根部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/4 内: 5W7/4	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
141	第35図	VI	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/6 内: 5W7/6	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
142	第35図	VI	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/4 内: 5W7/4	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
143	第35図	VI	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/4 内: 5W7/4	F地大 F地大
144	第35図	VI	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/3 内: 5W7/6	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/6
145	第35図	VI	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/2 内: 5W7/2	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3
146	第35図	VI	脚部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 剥離部 口輪部 内: 剥離部	外: 5W7/4 内: 5W7/3	にぶい: 5W7/3 にぶい: 5W7/3

表17 出土土器觀察表

胎土(A:角閃石 B:雲母石 C:白色陶 D:墨石 E:砂岩 F:深褐色粒 G:黑曜石片 H:八八石)

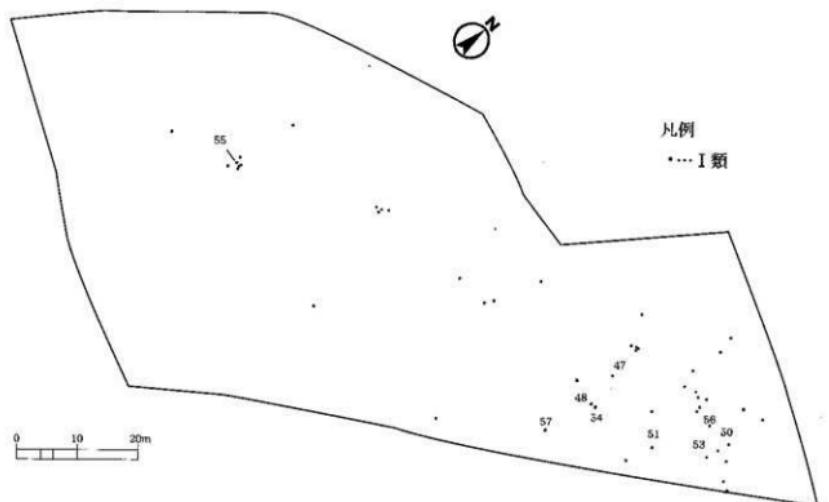
No.	出土地点番号	分類	色	質	量	多量	中量	少量	微量																																																																																																
(特多:特に多量 中:少量 微:微量)																																																																																																									
147	第34回	W1	山積・側面 外: 淡い斜位斜アーチ型の細い層 内: 横筋ケブリーアーチ型のガキ	外: 褐TR6/6 内: 褐TR6/6	A: 中: 特多: 中: 少: 少	148	第35回	W1	側面 外: 鋼筋 内: 不定方向のケブリーアーチ型のガキ	外: 褐TR6/6 内: にじむ薄壁10W7/3 A:少: 中: 特多: 中: 少: 少	149	第35回	W1B	口縫 外: 淡い斜位斜アーチ型の細い層 内: 横筋ケブリーアーチ型のガキ	外: にじむ薄壁10W7/3 内: にじむ薄壁5W5/3 A:少: 中: 特多: 少: 少: 少	150	第35回	W1S	側面 外: 横筋ケブリーアーチ型のガキ 内: 不定方向のケブリーアーチ型の層	外: にじむ薄壁5W5/3 内: にじむ薄壁5W5/3 A:少: 中: 少: 少: 少: 少	151	第35回	W1C	口縫 外: 斜位の層成 内: 斜位の層成 A: ガキ	外: 褐TR6/6 内: 斜位の層成 A: 斜: 特多: 中: 少: 少	152	第35回	W1C	新筋 外: 机制的なガキ	外: 褐TR6/6 内: にじむ薄壁10W7/4 A:少: 中: 多: 少: 少: 少	153	第35回	W1C	口縫 外: 斜位ー斜面 内: 斜位ー斜面	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁10W7/4 A:少: 中: 少: 少: 少	154	第35回	W1C	側面 外: 斜位ー斜面 内: 斜位ー斜面	外: 褐TR6/6 内: 斜位2/2 A:少: 中: 少: 少	155	第35回	W1C	口縫 外: 斜位ー斜面 内: 不定方向のガキ	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁10W7/4 A:少: 中: 多: 少: 少: 少	156	第35回	W1C	側面 外: ナットー組合 内: ナットー組合	外: にじむ薄壁10W7/3 内: にじむ薄壁10W7/3 A:少: 中: 中: 少: 少	157	第35回	W1	側面 外: 斜位ー斜面 内: 斜位ー斜面	外: 褐TR6/6 内: 褐TR6/6 A:少: 中: 多: 中: 少	158	第35回	W1	口縫 外: 亂筋付アーチ型 内: 亂筋付アーチ型の花瓶・丁度2/2アーチ	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁10W7/4 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	159	第35回	IX	側面 外: 斜位ナットー組合 内: ナット	外: 褐TR6/6 内: 褐TR6/6 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	160	第35回	IX	側面 外: 斜位ナットー只管接縫斜引・開位立継 内: 斜位ナット	外: 褐TR6/6 内: にじむ薄壁10W7/3 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	161	第35回	IX	口縫 外: 斜位 内: 斜位	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁5W5/4 A:少: 中: 少: 少: 少	162	第35回	IX	側面 外: 斜位ナットー接縫斜引・花瓶 内: ナット	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁5W5/4 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	163	第35回	IX	側面 外: 斜位ナットー立継 内: 斜位ナット	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁6W7/3 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	164	第35回	IX	側面 外: 斜位ー斜位アーチ 内: 斜位ー斜位アーチ	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁10W7/3 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	165	第35回	IX	側面 外: 斜位ナットー接縫斜引・花瓶 内: ナット	外: にじむ薄壁10W7/4 内: にじむ薄壁5W5/4 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	166	—	X	側面 外: 斜位 内: 丁寧な斜位アーチ	外: 褐TR6/6 内: 褐TR6/6 A:少: 中: 多: 中: 少: 少	167	—	X	側面 外: 斜位 内: 丁寧な斜位アーチ	外: 褐TR6/6 内: 褐TR6/6 A:少: 中: 多: 中: 少: 少

表18 出土土器觀察表(6)

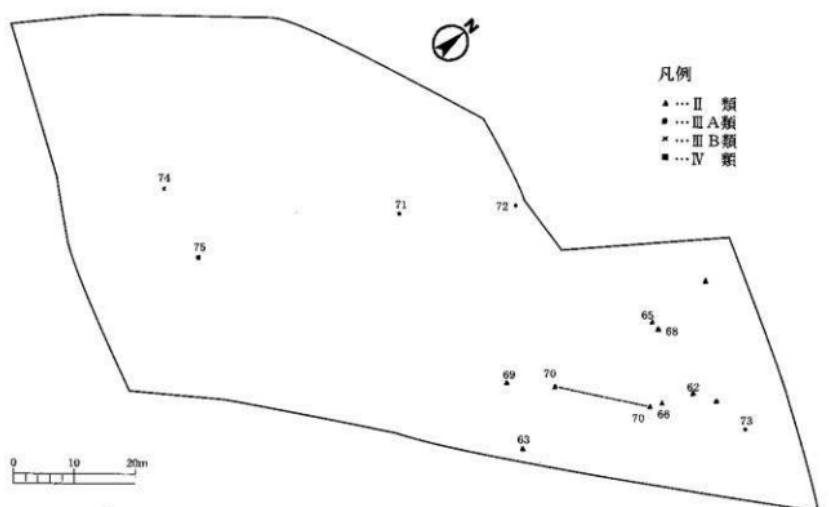
(待考:特二多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)
A:角閃石 B:矽線石 C:藍晶石 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色 G:黑曜石片 H:灰又

No.	平仮名	片仮名	分類	部位	解説	色	周	茎	葉	上
167	—	X	脚部	内: 余脈ナード 外: 工業ナード	内: 指+爪 外: 口輪部	内: 黄赤 5W6/5 外: 青赤 5W7/3	内: 少少: 中 外: 多多: 少	内: 少少: 中 外: 多多: 少	内: 少少: 中 外: 多多: 少	167と同一個体
168	—	X	口輪部	外: 側位ナード	内: 工具による運動制御	内: 青赤 5W7/3	A: 緑: 少少: 多E: 少	B: 緑: 多少: 多	C: 緑: 大	側位制御孔あり・茎ごぼれ原付青
169	—	X	口輪部	外: 機器各部一層位系	内: 互換ナード	内: 青赤 5W7/3	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/4	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/4	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/4	茎ごぼれ原付青
170	—	X	口輪部	内: 工具ナード	外: 保護錠制欠・器具ナード	内: 青赤 5W7/3	A: 緑: 少少: 多E: 中: 多	A: 緑: 少少: 多E: 中: 多	C: 緑: 大	
171	—	X	口輪部	内: ナード	外: 保護錠制欠・器具ナード	内: 青赤 5W7/3	A: 緑: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/6	A: 緑: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/6	A: 緑: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/6	
172	—	X	脚部	内: 保護ナード	外: 技術者ナード	内: 青赤 5W7/3	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/6	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/6	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/6	5-17と同一個体
173	—	X	脚部	外: 技術者ナード	内: 不意力時の沈黙一日運動抑制	内: 青赤 5W7/3	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/4	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/4	内: 少少: 中 外: 黄赤 5W6/4	5-17と同一個体
174	—	X	脚部	内: ナード	外: 脱離状の応援	内: 青赤 5W7/3	A: 緑: 少少: 多E: 多 B: 緑: 少少: 多E: 多	A: 緑: 少少: 多E: 多 B: 緑: 少少: 多E: 多	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
175	—	X	脚部	内: 増強ナード	外: 脱離状の応援	内: 青赤 5W7/3	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
176	—	X	解剖	内: ナード	外: 脱離状の応援	内: 青赤 5W7/6	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
177	—	X	口輪部	内: 1番位ナード	外: 1番位ナード	内: 青赤 5W7/6	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
178	—	X	口輪部	内: ナード	外: 1番位ナード	内: 青赤 5W7/6	A: 緑: 少少: 多 B: 緑: 少少: 多	A: 緑: 少少: 多 B: 緑: 少少: 多	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
179	—	X	脚部	内: 1番位ナード	外: 1番位ナード	内: 青赤 5W7/6	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
180	—	X	底部	内: ナード	外: 1番位ナード	内: 青赤 5W7/7	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
181	—	X	底部	内: 1番位ナード	外: 1番位ナード	内: 青赤 5W7/7	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
182	—	X	底部	内: 1番位ナード	外: 1番位ナード	内: 青赤 5W7/7	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
183	—	X	底部	外: 1番位ナード	内: ナード	内: 青赤 5W7/7	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
184	—	X	底部	外: ナード	内: ナード	内: 青赤 5W7/6	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
185	—	X	底部	外: ナード	内: ナード	内: 青赤 5W7/3	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり
186	—	X	底部	外: ナード	内: ナード	内: 青赤 5W7/6	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 少少: 中 B: 緑: 少少: 中	A: 緑: 大 B: 緑: 大	脱離孔あり

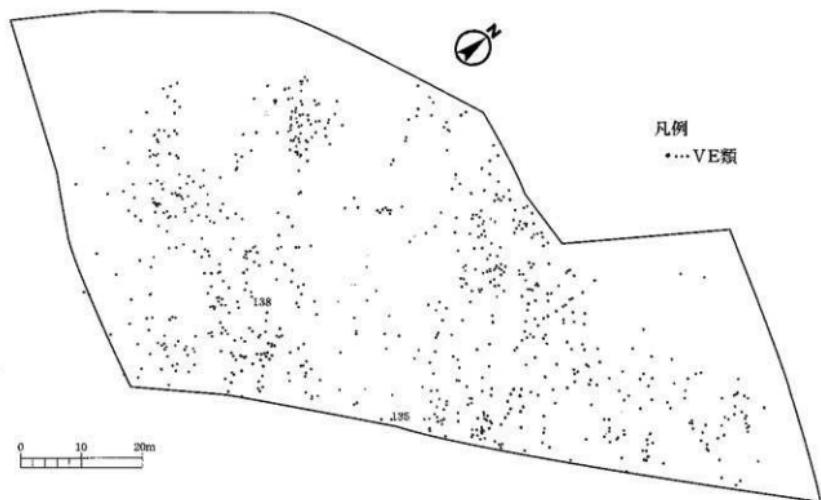
表19 出土工具器皿表(7)



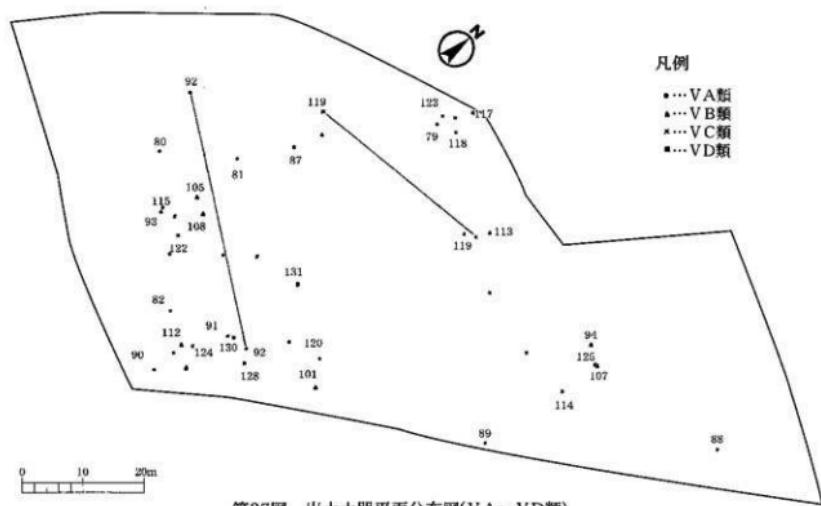
第34図 出土土器平面分布図(I類)



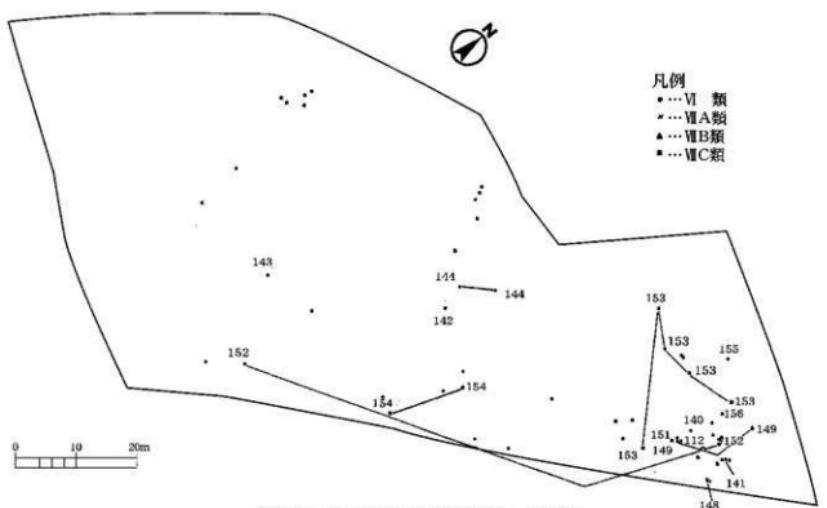
第35図 出上土器平面分布図(II～IV類)



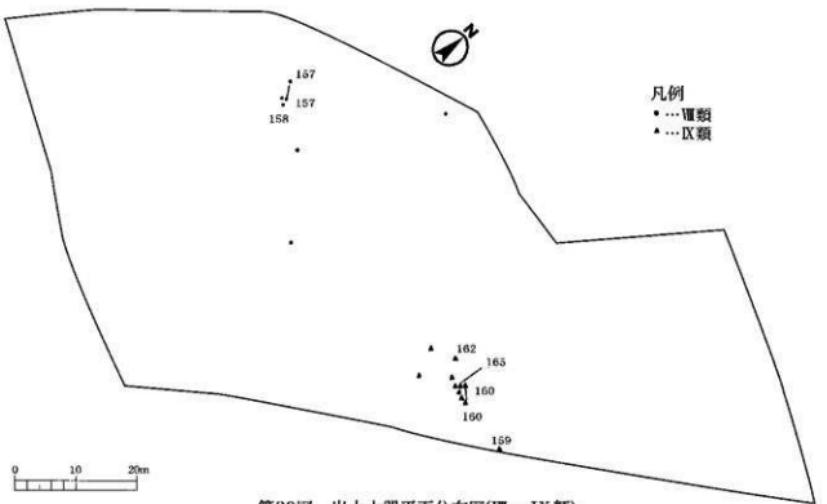
第36図 出土上器平面分布図(VE類)



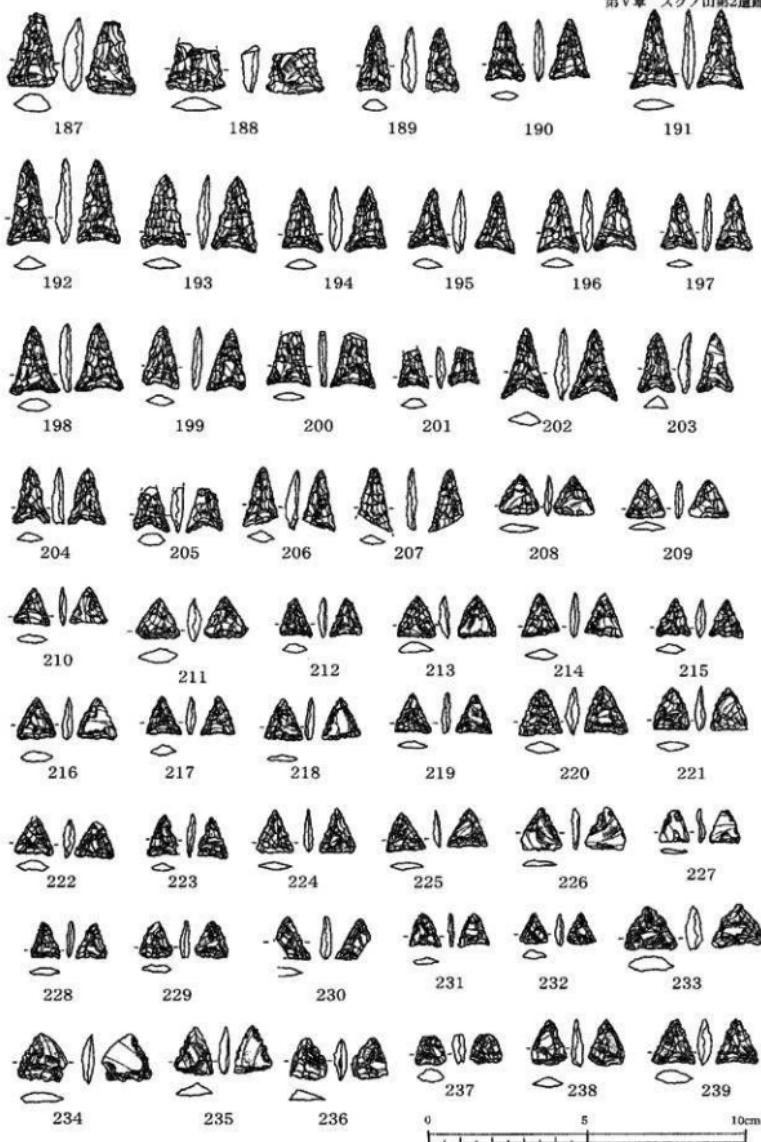
第37図 出土土器平面分布図(VA~VD類)



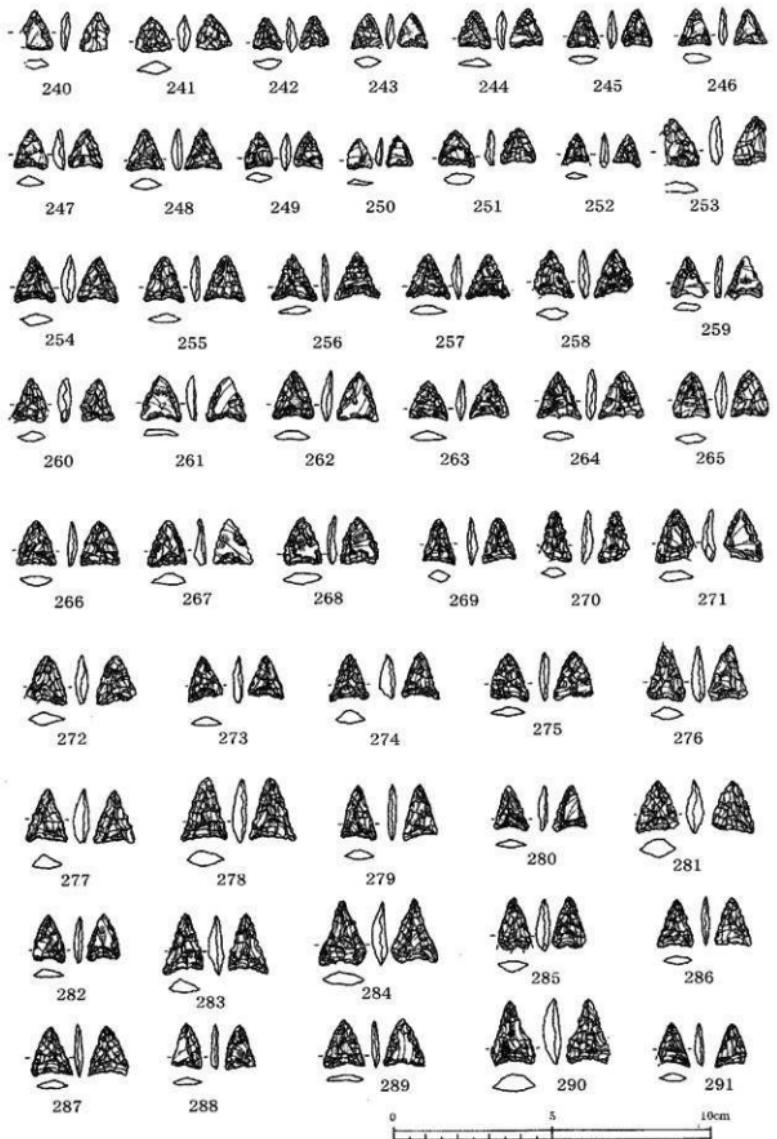
第38図 出土上器平面分布図(VI ~ VII C類)



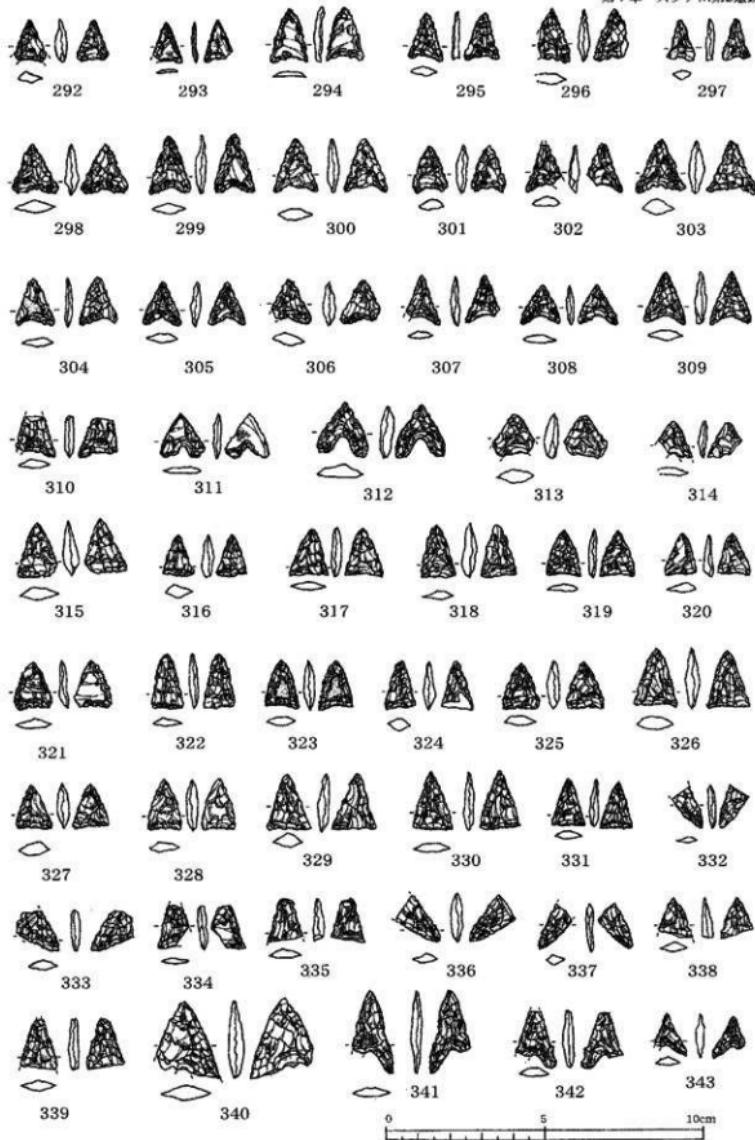
第39図 出土土器平面分布図(VIII ~ IX類)



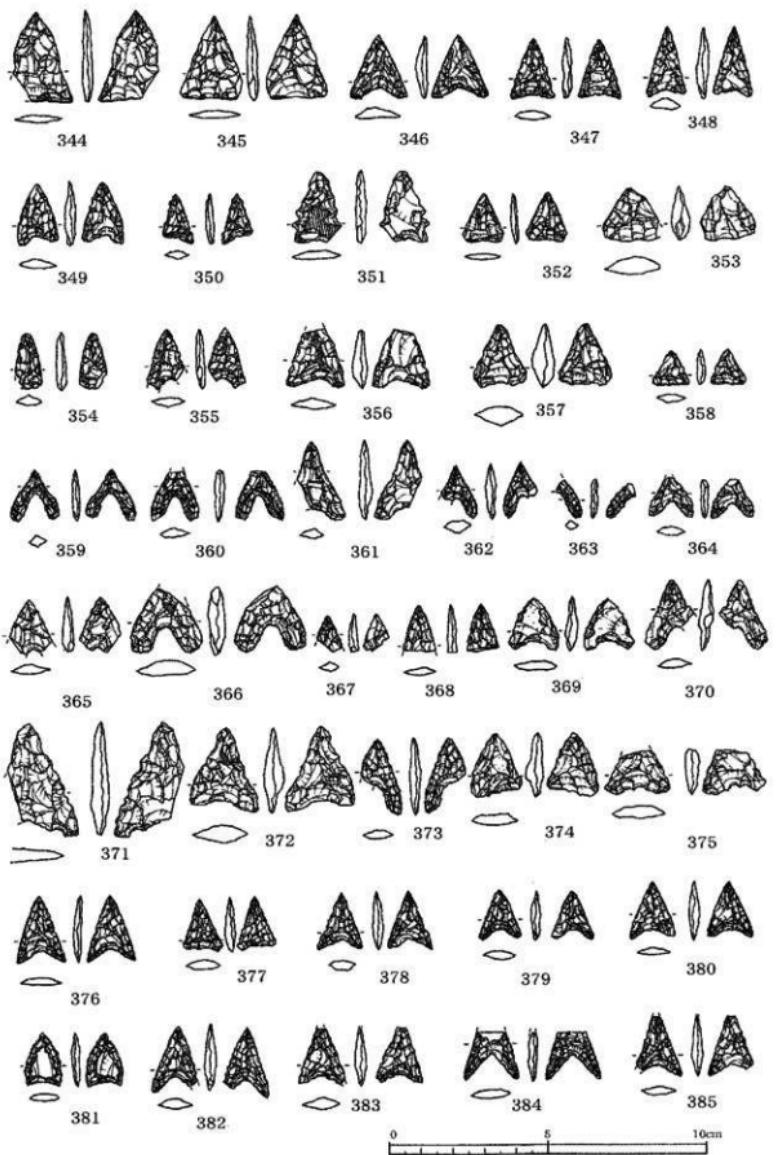
第40図 出土石器実測図(1)



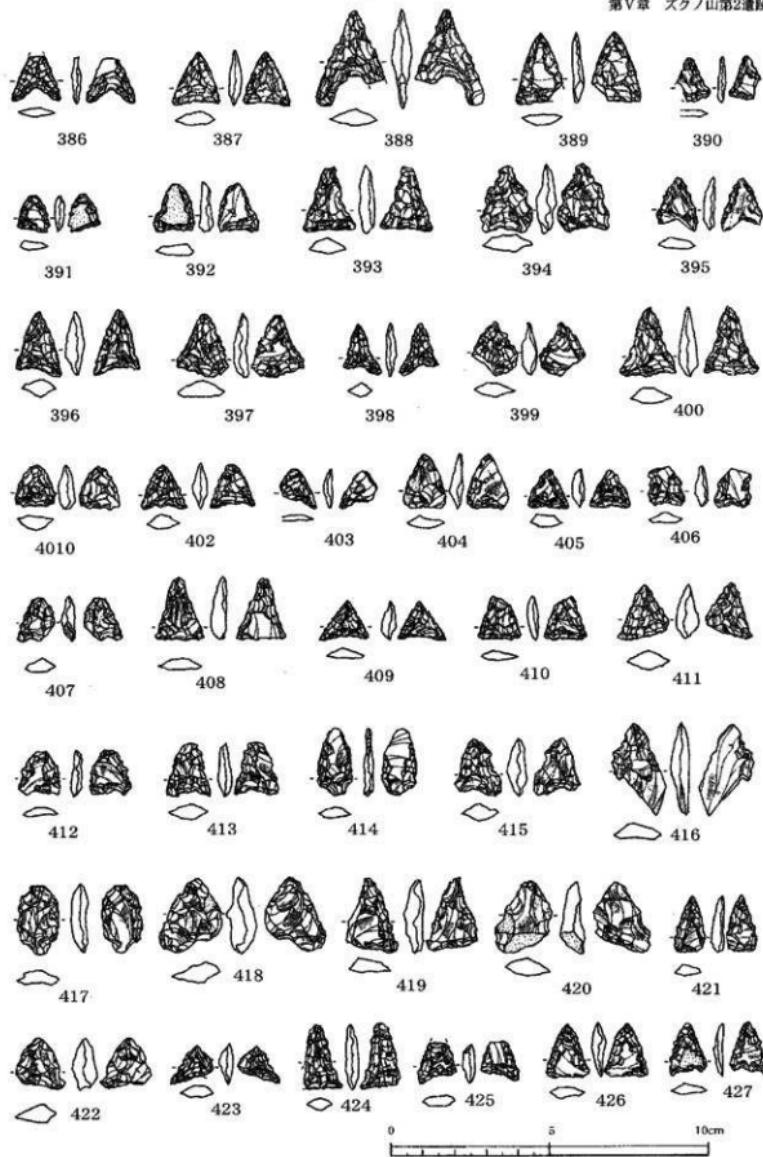
第41図 出土石器実測図(2)



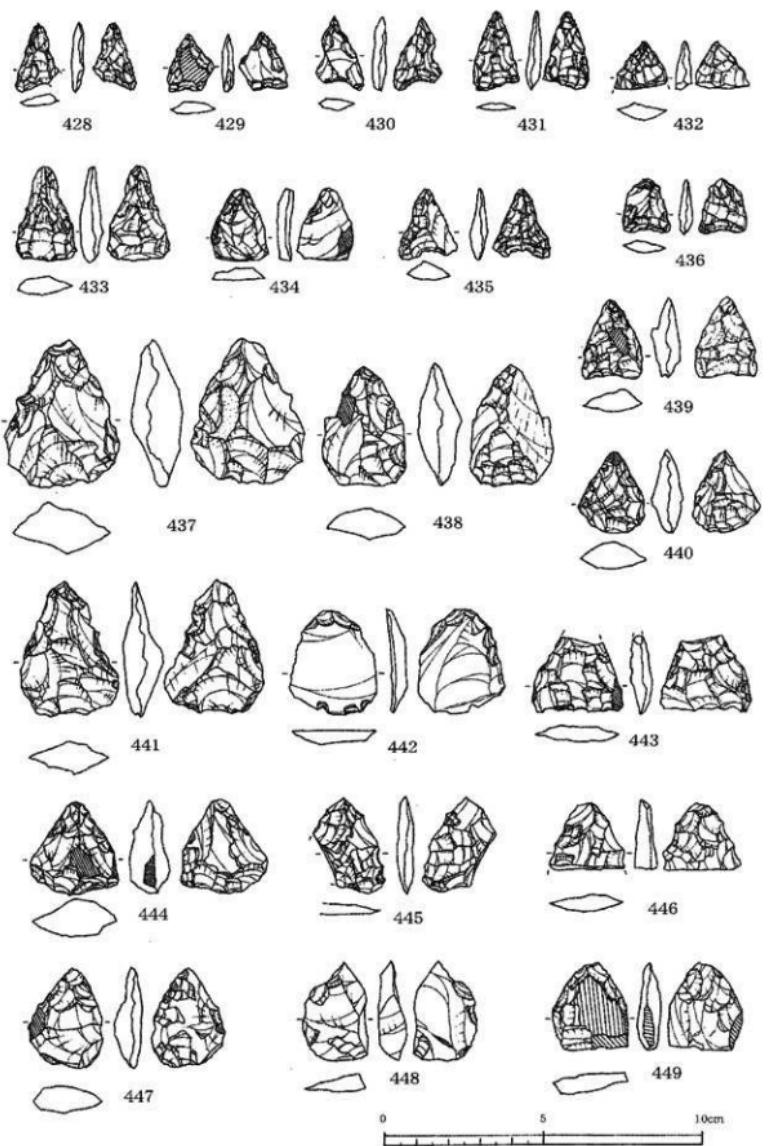
第42図 出土石器実測図(3)



第43図 出上石器実測図(4)



第44図 出土石器実測図(5)



第45図 出土石器実測図(6)

あり、縁辺に簡単な調整を行う以外、目立った加工は行われない。なお、全面に研磨痕が残されるが、これは尖端部にも行われており、石槍としての機能を向上させる目的があるとは考えにくい。(463)は、肉厚の流紋岩を用い、凸レンズ状の断面形を呈するよう、両縁から面的な調整を行ったものである。稜線上など、突出した部分が磨かれている。

大型の石鎌(第47図464)

(464)は、形態的には石鎌と考えられるものの、特に大型であるため、他の石鎌とは区別した。両縁から面的な剥離が行われているだけでなく、基部には浅い抉りも見られるなど、大きさ以外は通常の石鎌と何ら変わらない。

石斧(第47図465～484)

欠損品や再製作中途品も含め、20点が出土した。

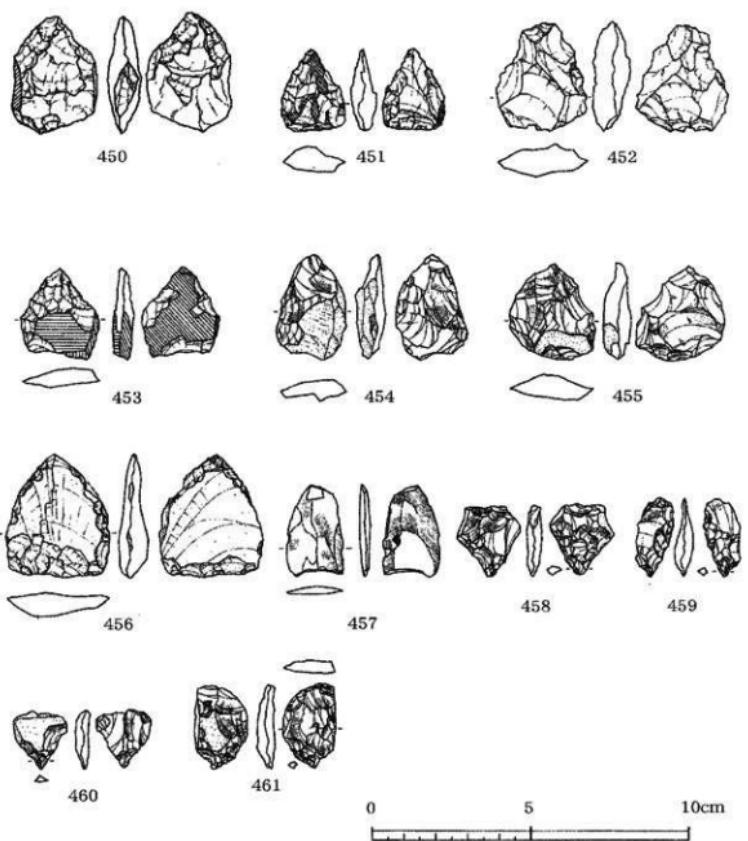
(465)は、薄手かつ棒状の礫の縁辺に成形目的の加工を行った、石斧の柄にある。刃部は、使用によるアクシデントにより欠損し、その後、平坦部を使用したため凹部が残されたようである。(466)は、硬質砂岩の扁平礫を刃部を中心に研磨し仕上げたものである。(467)は、肉厚の礫の縁辺に大まかな調整を行った後、研磨によって仕上げたものである。刃部には剥離痕が残されるが、これは使用により欠損した後に、刃部再生を目的として、再加工を行う工程の中途であった可能性が考えられる。(468)は、背部に礫面を持つ剥片を使用し、柄に比べて幅広の刃部を有する。(469)は、欠損した刃部の一部である。縁辺は敲打により成形しており、平坦部は、剥離の後に、研磨を行い仕上げている。(470)は、欠損した刃部である。恐らく短冊状を呈する石斧であったと考えられる。(471～473)は、刃部幅の狭い一群である。(471)は、使用により欠損した刃部の欠片である。(472)は、扁平な礫の縁辺を成形し、尖端部を研磨により仕上げたものである。(473)は、縁辺に剥離による成形を施した後、全面を磨いたものである。(474)は、粗悪なチャートを用い、剥離と研磨により仕上げたものである。刃部と柄部に欠損が見られるが、長軸の方向と刃部は直交しない。(476)は、短冊状を呈する石斧である。(475・477～481)は、石斧が欠損した際に生じた欠片と考えられる。いずれも欠損後に再加工が行われるが、スクレイパーとしての機能を有す(479)以外は、石製品としての製作工程が完了せぬまま放棄されている。(482～484)は、石斧の未製品であるが、どちらも製作中に欠損し、放棄されている。(482・483)は、剥離により大まかに成形した後に磨いて仕上げようとした意図を窺い知ることができる。(484)は、研磨の後に剥離を行っているが、これは再製作等の行為の結果であろうと思われる。

礫器(第50図485～488)

5点出土した。全て砂岩製である。(485～487)は、円礫を用い、一辺に刃部調整を行ったものであるが、(487)以外は、片面からの調製しか行われない。(488)は、角礫を分割し棒状になった素材の端部に刃部を設けたものである。使用痕は確認できなかった。

敲石(第51図214)

判別が困難であるためか、明確なものは1点のみであった。尖端部の剥離痕は、使用の際に生じたと考えられる。



第46図 出土石器実測図(7)

石核(残核)(第51・54図490・491・525)

黒曜石の小礫による石核は、数え切れないほどの量が出土したが、あまりに小ぶりで判別が困難であったため、ここでは黒曜石以外の石核を取り上げたい。(490)は、粗悪なチャートを用いたもので、両面に周縁からの求心状の剥離が行われた痕跡が認められ、薄手になった時点で工程を終了している。(491)は、b面を打面として、周縁に剥片剥離を行った後、今度はa面を打面、b面を作業面として剥片剥離を行ったものである。更に、c面を作業面として剥離を行

表20 山土石礫観察表(1)

No.	分類	種類	長さ(cm)	幅(cm)	抉り(cm)	石 材	欠損部位
187	IIa	石礫	—	1.50	0.00	黒曜石A	尖・片脚部
188	IIa	石礫	—	1.85	0.00	黒曜石A	尖端部
189	IIa	石礫	2.10	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
190	IIa	石礫	1.85	1.30	0.10	黒曜石A	
191	IIa	石礫	2.50	1.45	0.20	黒曜石A	
192	IIa	石礫	2.85	1.30	0.10	黒曜石A	片脚部
193	IIa	石礫	2.35	1.40	0.20	黒曜石A	
194	IIa	石礫	2.05	1.30	0.15	黒曜石A	
195	IIa	石礫	1.90	1.35	0.20	黒曜石A	
196	IIa	石礫	1.95	1.35	0.15	黒曜石A	
197	IIa	石礫	1.70	1.10	0.10	黒曜石A	
198	IIa	石礫	2.10	1.60	0.20	黒曜石A	片脚部
199	IIa	石礫	1.95	1.20	0.20	黒曜石A	片脚部
200	IIa	石礫	—	1.40	0.15	黒曜石A	尖端部
201	IIa	石礫	—	0.95	0.10	黒曜石A	尖端部
202	IIa	石礫	2.15	1.50	0.40	黒曜石A	
203	IIa	石礫	1.85	1.15	0.20	黒曜石A	
204	IIa	石礫	—	1.20	0.15	黒曜石A	
205	IIa	石礫	—	1.20	0.25	黒曜石A	尖端部
206	IIa	石礫	1.90	1.10	0.10	黒曜石A	片脚部
207	IIa	石礫	1.95	1.40	0.25	黒曜石A	片脚部
208	Ia	石礫	1.20	1.30	0.00	黒曜石A	片脚部
209	Ia	石礫	1.20	1.20	0.00	黒曜石A	
210	Ia	石礫	1.15	1.20	0.05	黒曜石A	
211	Ia	石礫	1.30	1.40	0.00	黒曜石A	片脚部
212	Ia	石礫	1.20	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
213	Ia	石礫	1.30	1.15	0.05	黒曜石A	
214	Ia	石礫	1.35	1.30	0.05	黒曜石A	片脚部
215	Ia	石礫	1.20	1.05	0.00	黒曜石A	
216	Ia	石礫	1.30	1.20	0.00	黒曜石A	
217	Ia	石礫	1.20	1.10	0.10	黒曜石A	
218	Ia	石礫	1.30	1.20	0.00	黒曜石A	
219	Ia	石礫	1.20	1.10	0.00	黒曜石A	
220	Ia	石礫	1.45	1.35	0.05	黒曜石A	
221	Ia	石礫	1.30	1.10	0.00	黒曜石A	
222	Ia	石礫	—	1.20	0.00	黒曜石A	尖端部
223	Ia	石礫	1.25	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
224	Ia	石礫	1.40	1.20	0.00	黒曜石A	片脚部
225	Ia	石礫	1.20	1.20	0.05	黒曜石A	
226	Ia	石礫	1.30	1.30	0.00	黒曜石A	片脚部
227	Ia	石礫	—	1.00	0.00	黒曜石A	尖端部
228	Ia	石礫	1.10	1.00	0.05	黒曜石A	
229	Ia	石礫	1.10	1.05	0.00	黒曜石A	
230	Ia	石礫	1.40	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
231	Ia	石礫	1.00	0.95	0.10	黒曜石A	
232	Ia	石礫	1.00	0.85	0.00	黒曜石A	
233	Ia	石礫	1.35	1.60	0.05	黒曜石A	
234	Ia	石礫	1.50	1.55	0.00	黒曜石A	片脚部
235	Ia	石礫	1.45	1.20	0.00	黒曜石A	片脚部
236	Ia	石礫	1.30	—	0.00	黒曜石A	両脚部
237	Ia	石礫	—	1.00	0.00	黒曜石A	尖・片脚部
238	Ia	石礫	1.40	1.10	0.00	黒曜石A	
239	Ia	石礫	1.40	1.35	0.10	黒曜石A	
240	Ia	石礫	1.20	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
241	Ia	石礫	1.20	1.30	0.05	黒曜石A	片脚部
242	Ia	石礫	1.00	0.80	0.10	黒曜石A	片脚部
243	Ia	石礫	1.10	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
244	Ia	石礫	1.20	1.10	0.10	黒曜石A	片脚部
245	Ia	石礫	1.15	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
246	Ia	石礫	1.15	1.00	0.05	黒曜石A	
247	Ia	石礫	1.20	1.00	0.10	黒曜石A	
248	Ia	石礫	1.30	1.15	0.10	黒曜石A	
249	Ia	石礫	1.15	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
250	Ia	石礫	0.95	0.85	0.00	黒曜石A	
251	Ia	石礫	1.15	1.20	0.15	黒曜石A	片脚部
252	Ia	石礫	1.00	0.80	—	黒曜石A	片脚部
253	Ia	石礫	—	—	0.20	黒曜石A	尖・片脚部
254	Ia	石礫	1.45	1.20	0.20	黒曜石A	
255	Ia	石礫	1.45	1.30	0.20	黒曜石A	
256	Ia	石礫	1.45	1.50	0.20	黒曜石A	
257	Ia	石礫	1.40	1.50	0.15	黒曜石A	
258	Ia	石礫	1.55	1.20	0.20	黒曜石A	片脚部
259	Ia	石礫	1.30	—	0.10	黒曜石A	両脚部

表21 出土石織観察表(2)

No.	分類	番号	長さ(cm)	幅(cm)	奥行き(cm)	石材	欠損部位
260	Ia	石織	1.35	—	0.15	黒曜石A	両脚部
261	Ia	石織	1.40	1.30	0.20	黒曜石A	
262	Ia	石織	1.50	1.40	0.10	黒曜石A	
263	Ia	石織	1.25	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
264	Ia	石織	1.45	1.50	0.00	黒曜石A	
265	Ia	石織	1.40	1.20	0.10	黒曜石A	
266	Ia	石織	1.50	1.15	0.10	黒曜石A	
267	Ia	石織	1.35	1.20	0.10	黒曜石A	
268	Ia	石織	1.45	1.15	0.10	黒曜石A	
269	Ia	石織	1.45	1.05	0.15	黒曜石A	
270	Ib	石織	1.60	0.90	0.20	黒曜石A	片脚部
271	Ib	石織	1.65	1.40	0.10	黒曜石A	片脚部
272	Ia	石織	1.55	1.30	0.20	黒曜石A	片脚部
273	Ia	石織	1.35	1.10	0.15	黒曜石A	
274	Ia	石織	1.45	1.15	0.20	黒曜石A	
275	Ib	石織	1.95	1.20	0.10	黒曜石A	
276	Ib	石織	—	1.20	0.10	黒曜石A	尖・片脚部
277	Ib	石織	1.65	1.30	0.15	黒曜石A	
278	Ia	石織	—	1.45	0.10	黒曜石A	尖端部
279	Ib	石織	1.70	1.30	0.15	黒曜石A	
280	Ia	石織	1.40	1.05	0.15	黒曜石A	
281	Ia	石織	1.60	1.30	0.10	黒曜石A	片脚部
282	Ib	石織	1.50	1.00	0.15	黒曜石A	
283	Ib	石織	1.95	1.30	0.25	黒曜石A	
284	Ib	石織	2.00	1.95	0.15	黒曜石A	片脚部
285	Ib	石織	1.65	—	0.10	黒曜石A	内脚部
286	Ib	石織	1.50	1.10	0.10	黒曜石A	片脚部
287	Ib	石織	1.55	1.30	0.15	黒曜石A	片脚部
288	Ib	石織	1.35	0.90	0.10	黒曜石A	片脚部
289	Ia	石織	1.45	1.30	0.15	黒曜石A	
290	Ib	石織	2.05	1.40	0.15	黒曜石A	片脚部
291	Ib	石織	1.35	1.00	0.15	黒曜石A	片脚部
292	Ib	石織	1.30	—	0.10	黒曜石A	内脚部
293	Ib	石織	1.30	0.80	0.10	黒曜石A	片脚部
294	Ib	石織	1.65	1.15	0.20	黒曜石A	
295	Ib	石織	1.50	1.15	0.15	黒曜石A	
296	Ib	石織	1.65	1.10	0.20	黒曜石A	片脚部
297	Ib	石織	1.25	0.95	0.10	黒曜石A	
298	Ia	石織	1.55	1.50	0.20	黒曜石A	片脚部
299	Ib	石織	1.85	1.30	0.20	黒曜石A	
300	Ib	石織	1.65	1.40	0.15	黒曜石A	
301	Ib	石織	1.45	—	0.15	黒曜石A	内脚部
302	Ib	石織	1.55	1.20	0.30	黒曜石A	片脚部
303	Ia	石織	1.70	1.50	0.25	黒曜石A	片脚部
304	Ia	石織	1.40	1.20	0.20	黒曜石A	
305	Ia	石織	1.35	1.20	0.30	黒曜石A	
306	Ia	石織	1.35	1.40	0.20	黒曜石A	片脚部
307	Ib	石織	1.50	1.40	0.25	黒曜石A	片脚部
308	Ia	石織	1.25	1.25	0.25	黒曜石A	
309	Ib	石織	1.65	1.30	0.30	黒曜石A	
310	Ib	石織	—	1.40	0.20	黒曜石A	尖・片脚部
311	III	石織	1.35	1.40	0.35	黒曜石A	
312	III	石織	1.65	1.50	0.60	黒曜石A	
313	III	石織	1.35	—	0.15	黒曜石A	内脚部
314	III	石織	1.10	1.10	0.15	黒曜石A	片脚部
315	Ib	石織	1.70	1.30	0.10	黒曜石A	
316	Ib	石織	1.30	0.95	0.00	黒曜石A	片脚部
317	Ib	石織	1.50	1.20	0.05	黒曜石A	
318	Ib	石織	1.65	1.10	0.00	黒曜石A	
319	Ib	石織	1.40	1.10	0.10	黒曜石A	
320	Ib	石織	1.30	1.00	0.00	黒曜石A	
321	Ia	石織	1.45	1.25	0.10	黒曜石A	
322	Ib	石織	1.70	0.95	0.05	黒曜石A	
323	Ib	石織	1.50	1.15	0.10	黒曜石A	
324	Ib	石織	1.45	0.95	0.10	黒曜石A	片脚部
325	Ia	石織	1.45	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
326	Ib	石織	1.80	1.30	0.10	黒曜石A	
327	Ia	心織	1.35	1.15	0.00	黒曜石A	
328	Ib	石織	1.60	1.05	0.10	黒曜石A	
329	Ib	石織	1.70	1.35	0.00	黒曜石A	
330	Ib	石織	1.80	1.25	0.00	黒曜石A	
331	Ib	石織	1.45	1.00	0.00	黒曜石A	
332	—	石織	—	—	—	黒曜石Aのみ	

表22 出土石器観察表(3)

No.	分類	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石材	欠損部位
333	—	石器	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ
334	I b	石器	—	—	0.10	黒曜石A	尖・片脚部
335	—	石器	—	—	—	黒曜石A	尖端部のみ
336	—	石器	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ
337	—	石器	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ
338	—	石器	—	—	—	黒曜石A	尖端部のみ
339	—	石器	—	—	—	黒曜石A	尖端部のみ
340	III	石器	2.45	2.40	—	黒曜石B	片脚部
341	—	石器	2.55	1.40	0.75	黒曜石B	片脚部
342	III	石器	—	—	0.45	黒曜石B	尖・片脚部
343	III	石器	1.40	1.20	0.45	黒曜石B	片脚部
344	IV	石器	2.90	2.10	0.10	良質チャート	片脚部
345	IV	石器	2.60	1.90	0.10	良質チャート	片脚部
346	III	石器	2.00	1.80	0.30	良質チャート	片脚部
347	II b	石器	1.85	1.30	0.15	良質チャート	片脚部
348	II a	石器	2.20	1.20	0.20	良質チャート	片脚部
349	II b	石器	1.90	1.30	0.25	良質チャート	片脚部
350	II b	石器	1.60	1.00	0.30	良質チャート	片脚部
351	IV	石器	2.25	—	0.10	良質チャート	片脚部
352	I a	石器	1.50	—	0.10	良質チャート	片脚部
353	IV	石器	1.70	1.60	0.00	良質チャート	片脚部
354	II b	石器	1.75	0.80	0.00	良質チャート	片脚部
355	III	石器	—	—	—	良質チャート	片脚部
356	IV	石器	—	—	1.90	良質チャート	尖端部
357	IV	石器	2.00	1.60	0.10	良質チャート	片脚部
358	I a	石器	1.05	1.15	0.00	良質チャート	片脚部
359	III	石器	1.15	1.60	0.85	良質チャート	片脚部
360	III	石器	—	—	1.40	良質チャート	尖・片脚部
361	III	石器	2.50	2.00	0.45	良質チャート	片脚部
362	III	石器	1.85	1.30	0.65	良質チャート	片脚部
363	III	石器	—	—	—	良質チャート	片脚部のみ
364	III	石器	1.20	1.40	0.50	良質チャート	片脚部
365	III	石器	—	—	—	良質チャート	片脚部
366	III	石器	—	—	2.20	良質チャート	尖端部
367	—	石器	—	—	—	良質チャート	尖端部
368	—	石器	—	—	—	良質チャート	尖端部
369	III	石器	1.65	1.60	0.30	悪質チャート	片脚部
370	III	石器	2.15	1.60	0.70	悪質チャート	片脚部
371	IV	石器	3.70	—	0.50	悪質チャート	片脚部
372	IV	石器	2.55	2.15	0.30	悪質チャート	片脚部
373	III	石器	2.40	1.40	1.05	悪質チャート	片脚部
374	IV	石器	2.00	1.55	0.15	悪質チャート	片脚部
375	IV	石器	—	—	2.05	悪質チャート	尖端部
376	III	石器	2.05	1.50	0.45	赤色チャート	片脚部
377	I b	石器	1.60	1.40	0.10	赤色チャート	片脚部
378	I b	石器	1.80	1.45	0.30	赤色チャート	片脚部
379	I b	石器	1.50	1.30	0.30	赤色チャート	片脚部
380	I b	石器	1.70	1.40	0.25	赤色チャート	片脚部
381	I b	石器	1.65	1.15	0.10	赤色チャート	片脚部
382	III	石器	2.10	1.40	0.50	赤色チャート	片脚部
383	I b	石器	—	—	1.50	赤色チャート	尖・片脚部
384	III	石器	—	—	1.70	赤色チャート	尖端部
385	I b	石器	—	—	1.40	赤色チャート	尖・片脚部
386	III	石器	—	—	1.00	ホルンフェルス	尖端部
387	I a	石器	1.85	1.50	0.10	ホルンフェルス	片脚部
388	III	石器	3.10	2.40	0.90	ホルンフェルス	片脚部
389	IV	石器	2.20	1.60	0.00	ホルンフェルス	片脚部
390	未製品	—	1.40	1.00	—	黒曜石A	片脚部
391	未製品	—	1.10	1.10	—	黒曜石A	片脚部
392	未製品	—	1.50	1.30	—	黒曜石A	片脚部
393	未製品	—	2.00	1.60	—	川端石A	尖端部
394	未製品	—	2.10	1.60	—	黒曜石A	片脚部
395	未製品	—	1.60	1.40	—	黒曜石A	片脚部
396	未製品	—	2.00	1.60	—	黒曜石A	片脚部
397	未製品	—	2.00	1.70	—	黒曜石A	片脚部
398	未製品	—	1.60	1.40	—	黒曜石A	片脚部・欠損部製作中途
399	未製品	—	1.65	1.40	—	黒曜石A	片脚部
400	未製品	—	2.10	1.60	—	黒曜石A	片脚部
401	未製品	—	1.35	1.30	—	黒曜石A	片脚部
402	未製品	—	1.35	1.40	—	黒曜石A	片脚部
403	未製品	—	1.25	1.20	—	黒曜石A	片脚部
404	未製品	—	1.65	1.30	—	黒曜石A	片脚部
405	未製品	—	1.20	1.30	—	黒曜石A	片脚部

表23 出土石器観察表(4)

No	分類	器種	長さ(cm)	幅(cm)	抉り(cm)	石材	欠損部位
406	未製品		1.20	1.10	—	黒曜石A	
407	未製品		1.35	1.40	—	黒曜石E	片脚部
408	未製品		2.00	1.50	—	黒曜石A	
409	未製品		1.20	1.50	—	黒曜石A	
410	未製品		1.40	1.30	—	黒曜石A	尖端部
411	未製品		1.70	1.70	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
412	未製品		1.40	1.25	—	黒曜石A	
413	未製品		1.65	1.35	—	黒曜石A	尖端部
414	未製品		2.10	1.10	—	黒曜石A	
415	未製品		1.80	1.50	—	黒曜石A	片脚部
416	未製品		2.90	2.20	—	黒曜石A	片脚部
417	未製品		2.20	1.25	—	黒曜石A	
418	未製品		2.35	2.30	—	黒曜石A	
419	未製品		2.35	1.80	—	黒曜石A	片脚部
420	未製品		2.30	—	—	黒曜石A	欠損再製作中途
421	未製品		1.75	0.90	—	黒曜石A	
422	未製品		1.60	1.60	—	黒曜石A	片脚部
423	未製品		1.15	1.60	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
424	未製品		2.00	1.40	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
425	未製品		1.25	1.30	—	黒曜石A	尖・片脚部・欠損再製作中途
426	未製品		1.65	1.30	—	黒曜石A	欠損再製作中途
427	未製品		1.65	1.30	—	黒曜石A	欠損再製作中途
428	未製品		2.15	1.40	—	良質チャート	片脚部
429	未製品		1.80	—	—	良質チャート	片脚部
430	未製品		2.30	1.80	—	良質チャート	片脚部
431	未製品		2.45	1.50	—	良質チャート	
432	未製品		1.50	1.60	—	良質チャート	
433	未製品		3.00	1.80	—	良質チャート	
434	未製品		2.25	1.80	—	良質チャート	
435	未製品		2.10	1.80	—	赤色チャート	
436	未製品		1.70	1.45	—	赤色チャート	
457	石器(伴生)		2.80	1.75	—	結晶片岩	

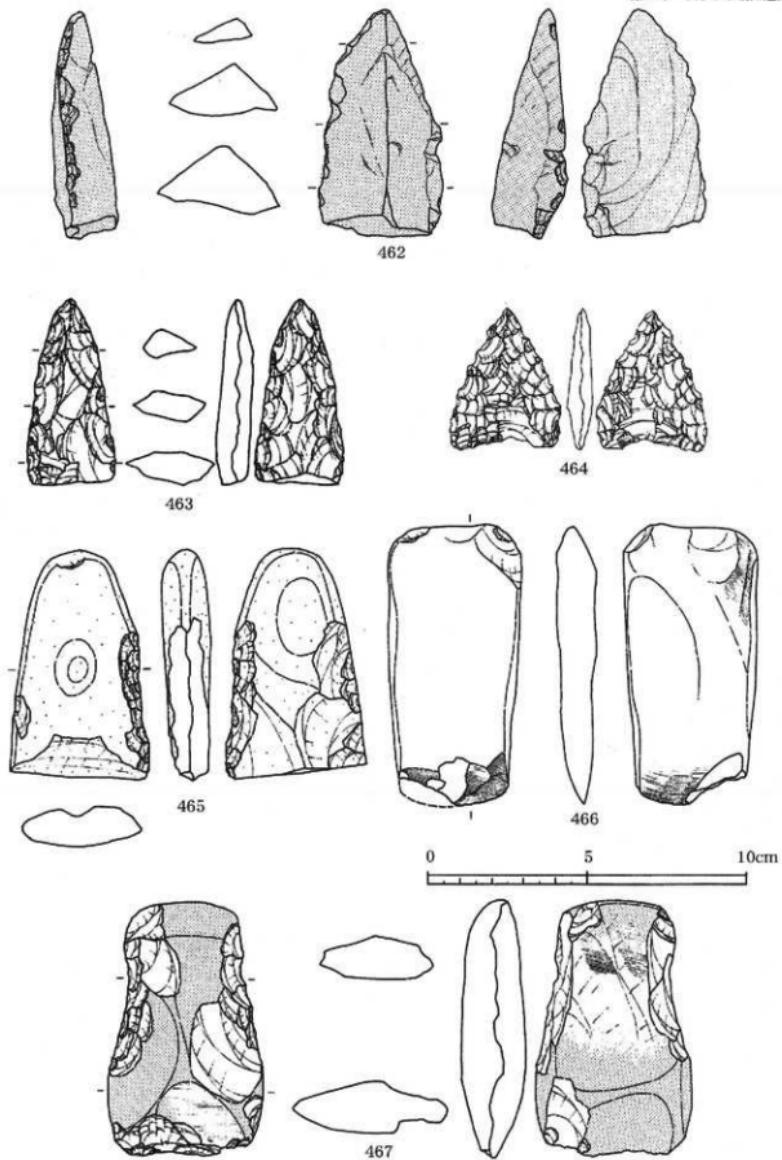
*欠損した石器のうち復元可能なものについては、復元した数値を記入した。また、一は計測不能なものである。

表24 出土尖頭状石器観察表

No	器種	長さ(cm)	幅(cm)	抉り(cm)	石材	欠損部位
437	尖頭状石器	4.50	3.50	—	ホルンフェルス	
438	尖頭状石器	3.80	2.80	—	ホルンフェルス	
439	尖頭状石器	2.60	1.90	—	ホルンフェルス	
440	尖頭状石器	2.60	2.10	—	ホルンフェルス	
441	尖頭状石器	4.35	3.00	—	ホルンフェルス	
442	尖頭状石器	3.25	2.70	—	ホルンフェルス	
443	尖頭状石器	2.35	2.60	—	ホルンフェルス	
444	尖頭状石器	2.90	2.80	—	良質チャート	
445	尖頭状石器	2.90	2.90	—	良質チャート	
446	尖頭状石器	2.10	2.40	—	良質チャート	
447	尖頭状石器	3.10	2.30	—	良質チャート	片脚部
448	尖頭状石器	3.10	1.95	—	良質チャート	
449	尖頭状石器	2.75	2.30	—	良質チャート	
450	尖頭状石器	3.90	3.65	—	良質チャート	
451	尖頭状石器	2.60	1.95	—	良質チャート	
452	尖頭状石器	3.40	2.80	—	良質チャート	
453	尖頭状石器	2.70	2.40	—	良質チャート	
454	尖頭状石器	3.25	2.20	—	黒曜石A	
455	尖頭状石器	3.00	2.50	—	黒曜石F	
456	尖頭状石器	3.80	3.25	—	砂岩	

表25 出土石錐観察表

No	器種	長さ(cm)	幅(cm)	抉り(cm)	石材	欠損部位
458	石錐	2.20	2.00	—	黒曜石A	
459	石錐	2.45	1.10	—	黒曜石A	
460	石錐	1.80	1.70	—	黒曜石A	
461	石錐	2.60	1.75	—	黒曜石F	



第47図 出土石器実測図(8)

おうとしたが、高さが足りなかつたために放棄されたと考えられる。(525)は、赤色チャートを用い、b面を打面、a面を作業面として剥離を行った後、c面に求心状の剥離を行つたものである。

スクレイパー(第51・52図492～505)

連続的な調整が行われたものを、スクレイパーの刃部調製と判断したが、刃部の角度や刃部調製に規則性の無いものも多いため、このうちの多くは石器の未製品と考えられる。

二次加工剥片(第53図506・508～519)

二次加工が行われたものはごく少量に過ぎない。うち大部分をここに掲載した。この中で黒曜石製のものは、どれも小ぶりの剥片に加工を行つたものであるため、恐らく石器の製作を意図したと考えられる。

使用痕剥片(第53・54図507・520～524)

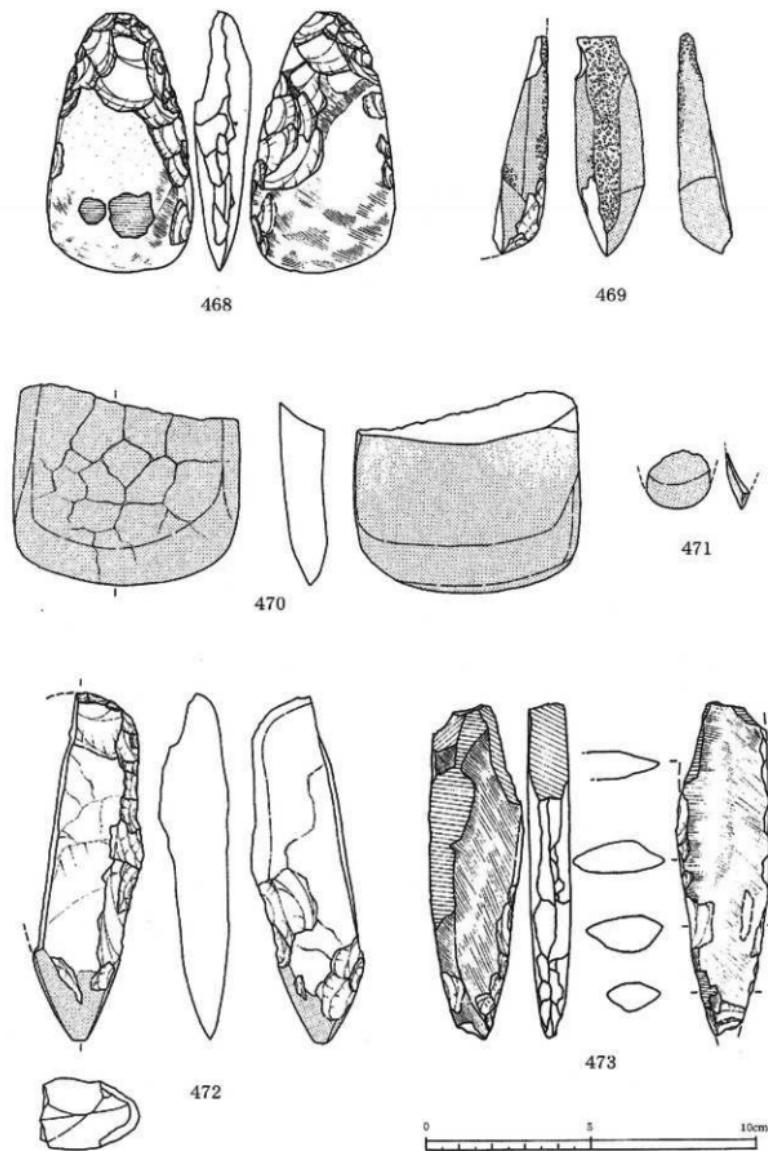
鋭利な剥片の縁辺に、刃こぼれ状の使用痕が認められたものである。本遺跡からは、6点のみ確認された。

剥片(第54図526・527)

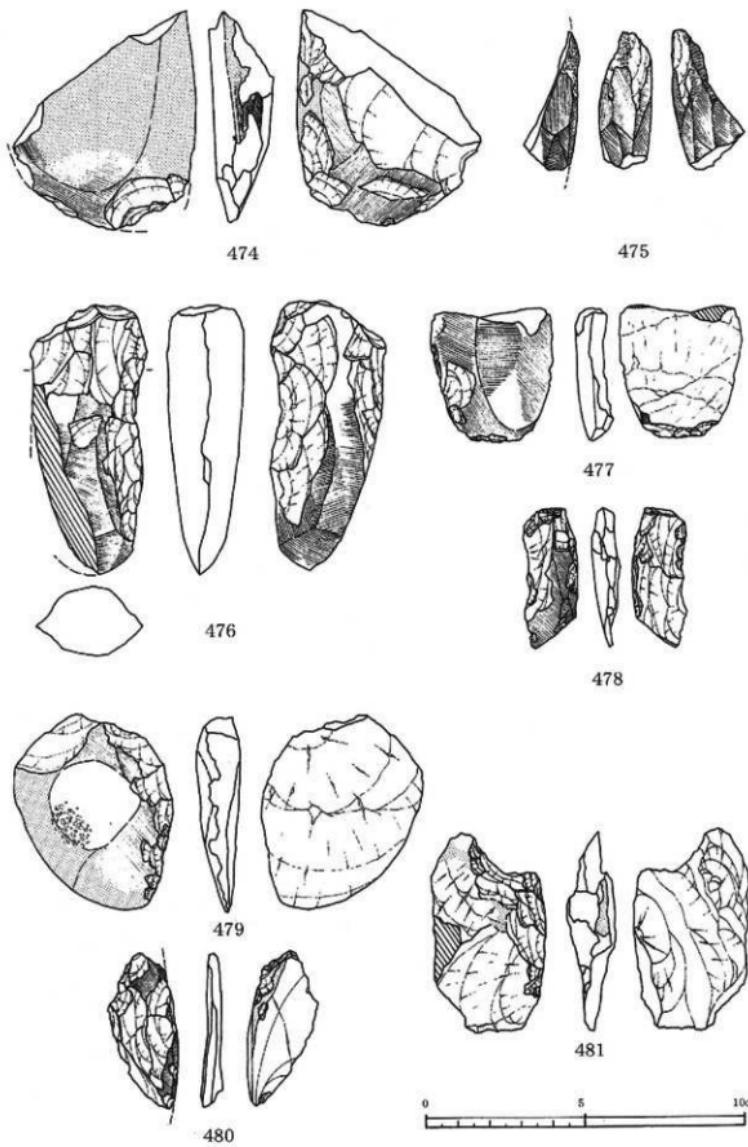
(526)は、打面転移を行う剥片から剥離された不定形な剥片である。打面の奥行きから、作業面を再生しようとしたと考えられる。(527)は、連続的な剥片剥離作業により作出された、定形的な綫長剥片である。全面丁寧に磨かれているが、その意図は不明である。右側縁に残された2枚の剥離は、研磨の後に行われたものである。

用途不明石器(第54・55・60・61図528～537・580～586)

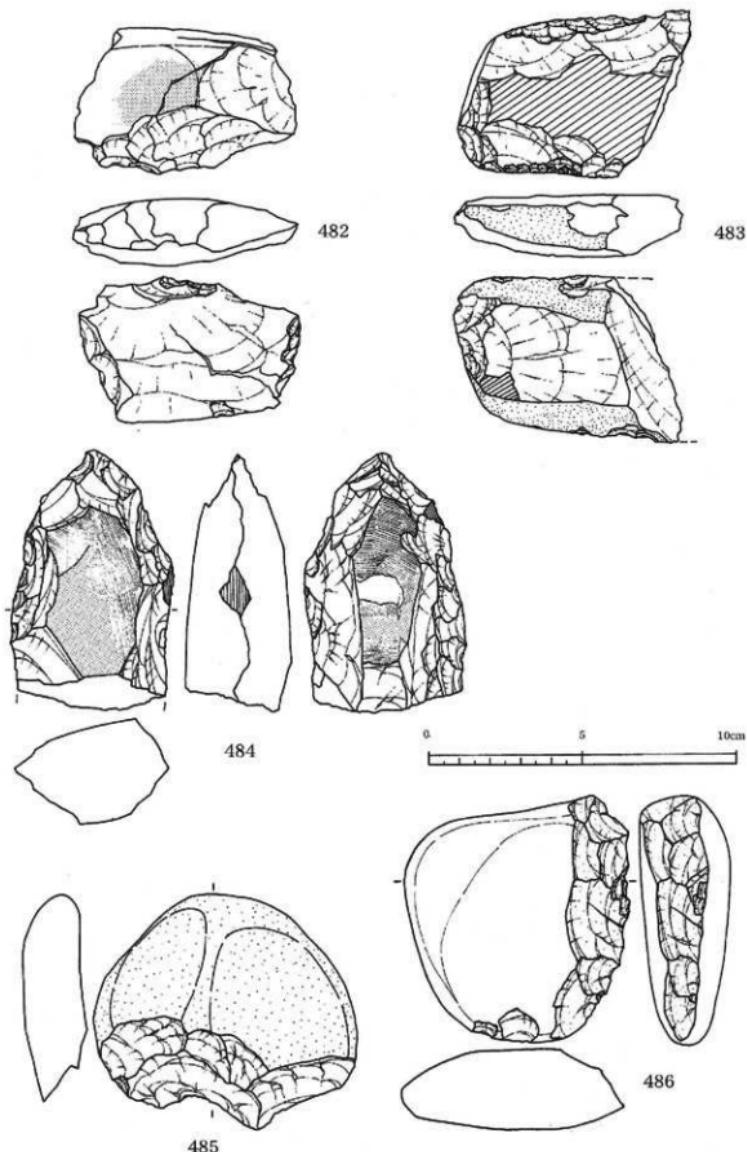
(528)は、円形になるよう砂岩の周縁に調整を加えた後、部分的に磨きを行つたものである。部位から使用によるものとは考えにくく、また何らかの成形を目的とした作業とも思えない。(529)は、スクレイパーの一端に研磨を行つたものである。厚みを減らそうとした目的も窺えるが、この研磨は端部にまで及んでおり、目的を超えた作業であると判断し、不明石器に加えた。(530～534)は、ホルンフェルスを磨いて成形したものである。(530)は、中心部よりやや下部がくびれ、末端部には、抉りにも似た刻目を設ける。これに対し、上部の縁辺には剥離痕が残されていることから、石器などの刺突具である可能性は低く、形態的にはトロトロ石器(註1)に近い。また、(531・532)は、その未製品であると思われる。(533)は、紡錘形に成形が行われる。(534)の正面形は石器のようであるが、全面に行われた研磨は、尖端部を尖らせるよりも薄手に仕上げることが優先されていることから、これに含めた。(535)は、小ぶりの礫の平坦面に研磨が行われたものである。凹みは認められず、平坦にすることを意図したものである。(536)は、三日月形の礫である。非常に薄手であり、縁辺に僅かに剥離は認められるが、ほぼ自然礫の形状を保っている。(537)は、水晶に加工を行つたものである。(580・584)は、一見すると磨石のようであるが、敲打痕はどこにもなく、全面が万遍なく磨かれていることから、別器種であると判断した。(582)は、角礫の片面が磨かれたもので、石皿の欠片とも考えられる。(583・585)は、四万十層群の円礫である。研磨痕は認められないが、自然な状態でこの層に混入することは考えにくく、集落形成時に、外部より持ち込まれたものと考えられる。(586)は、



第48図 出土石器実測図(9)



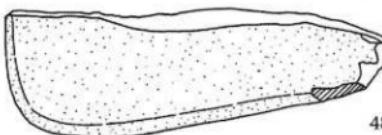
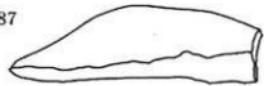
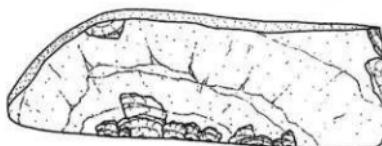
第49図 出土石器実測図(10)



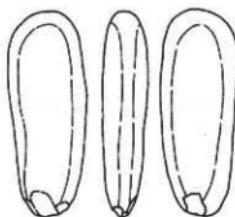
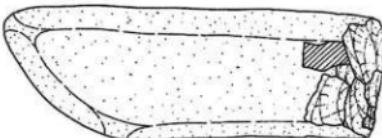
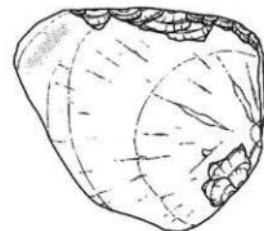
第50図 出土石器実測図(11)



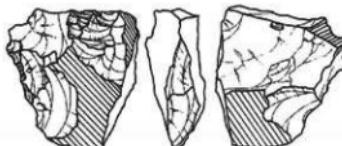
487



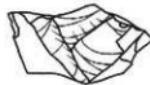
488



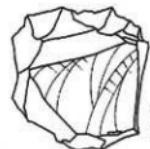
489



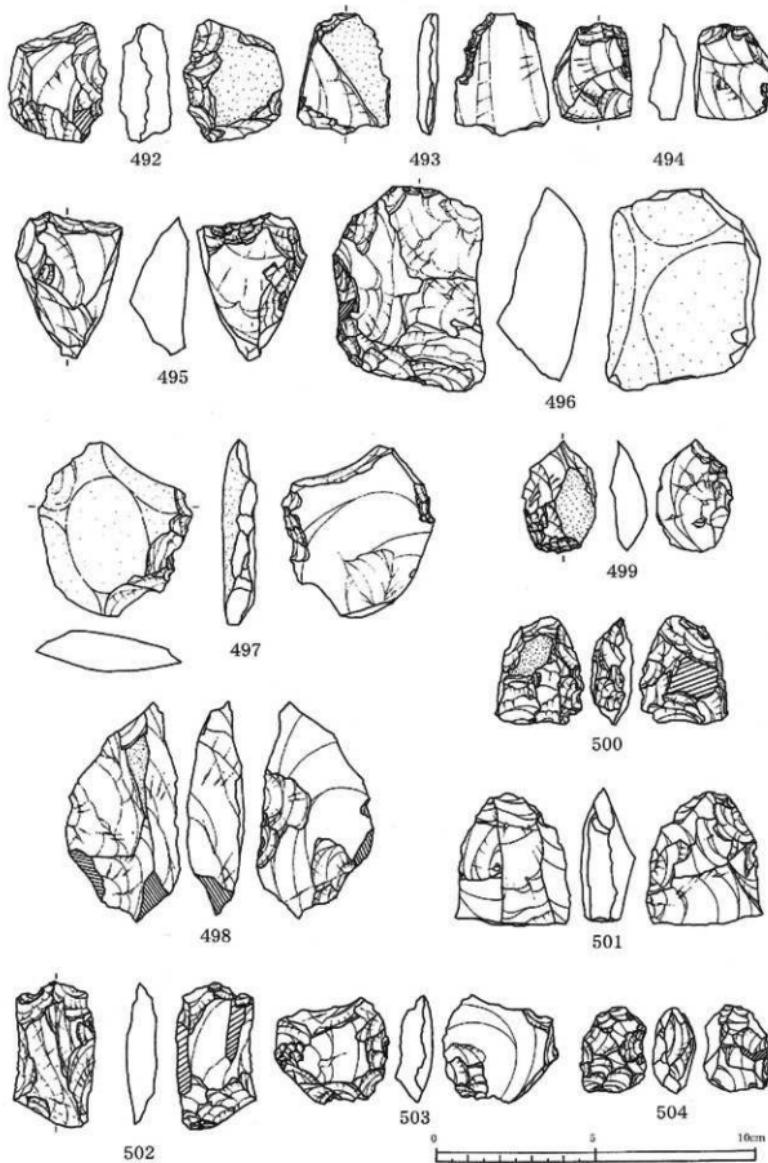
490



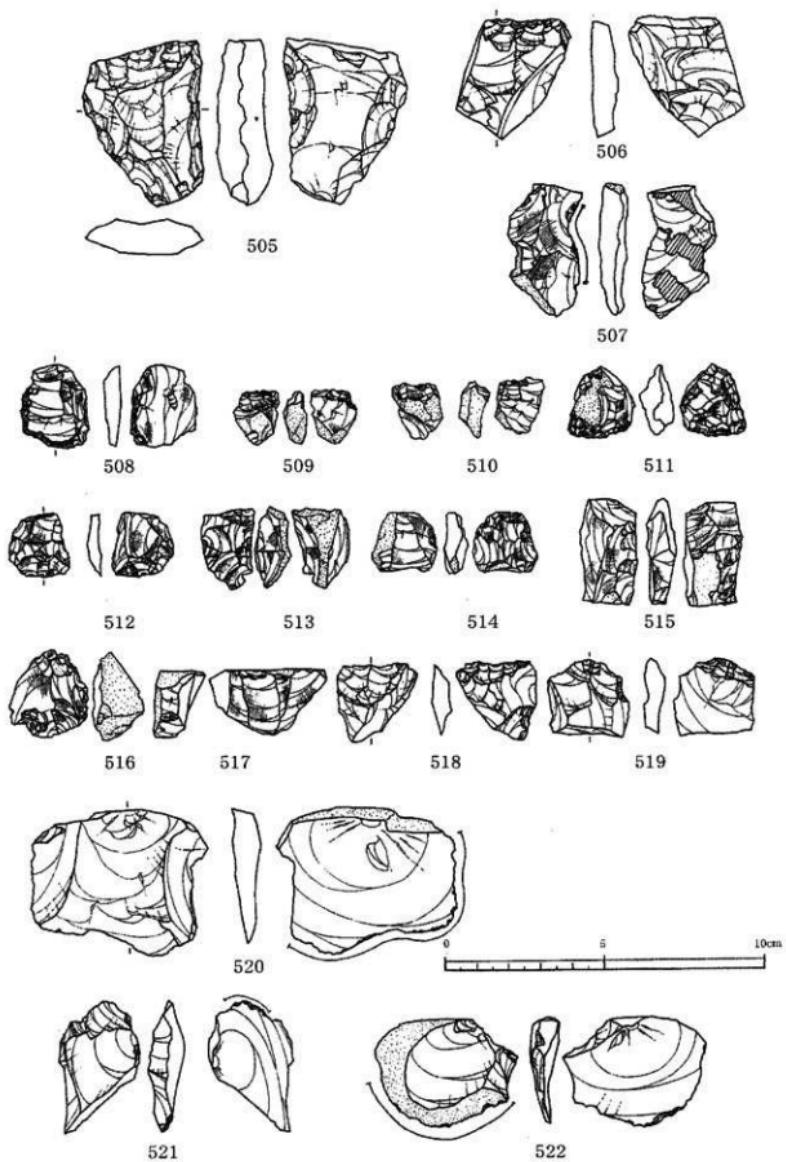
491



第51図 出土石器実測図(12)



第52図 出土石器実測図(13)



第53図 出土石器実測図(14)